

# V 診療業務概要・ 活動報告

## ～解説～

### ①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

### ②ICD-10による疾患別頻度について

2015年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）中分類で集計を行い円グラフで掲載しています。

1. 抽出条件：
  - ① 2015年1月1日～2015年12月31日に受診した患者。
  - ② 診療科別で対象患者に登録した病名（疑いは除外）を抽出。
  - ③ ICD-10中分類で集計、上位10位まで表記し、それ以下はその他と表記。
2. 留意事項：
  - ① 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
  - ② 比率については小数点第2位 四捨五入。

### ③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

## V 診療業務概要、活動報告

### 総合内科

#### 1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子であり、総合内科では特に糖尿病をメインのテーマとして、さらには内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症をあわせもつメタボリックシンドロームも含めて診療を行ってきた。

長らく総合内科では糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院を行ってきたが、2010年4月より糖尿病・内分泌内科新設にともなって総合内科の入院病床は無くなり、現在、糖尿病外来や教育入院などの糖尿病診療は主に糖尿病・内分泌内科にて行われている。

2010年4月以降は、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療をおこなっている。

(部長 鳥居 俊男)

# 呼吸器内科・アレルギー内科

## 1. 概要

2015年度は、権田呼吸器内科部長をはじめ、副部長3名（竹山、菅沼、真下）、医員3名（高橋、安井、三竹）の、専任スタッフ7名で診療を行った。

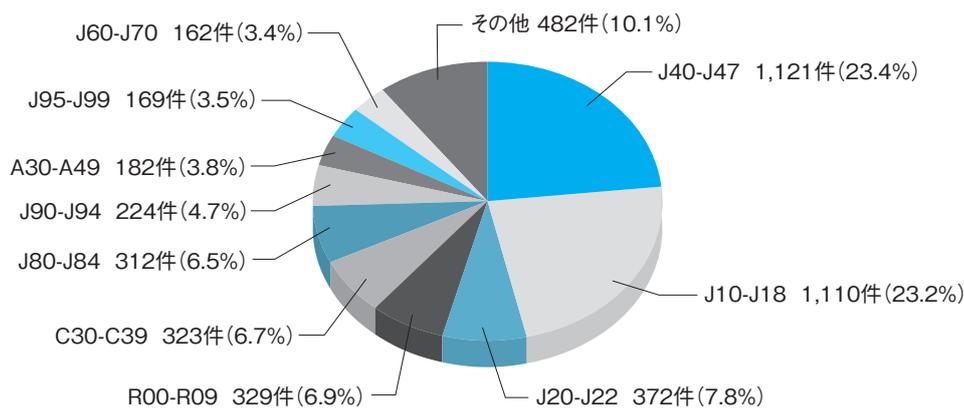
患者中心の医療を心掛け、外来・病棟看護師、薬剤師、リハビリテーション技師と協力して診療に当たっている。また、呼吸器外科医師、放射線科医師とも連携を密にし、治療方針決定のために定期的に合同でカンファレンスを行っている。

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会の教育認定施設として、研修医や専攻医の教育にあたるばかりでなく、スタッフ一同もより良い医療ができるよう日々研鑽を積んでいる。また、東三河地区の地域がん診療連携拠点病院の役割を担い、名古屋大学呼吸器内科の関連病院として臨床研究にも努めている。

（第一副部長 竹山 佳宏）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,786件

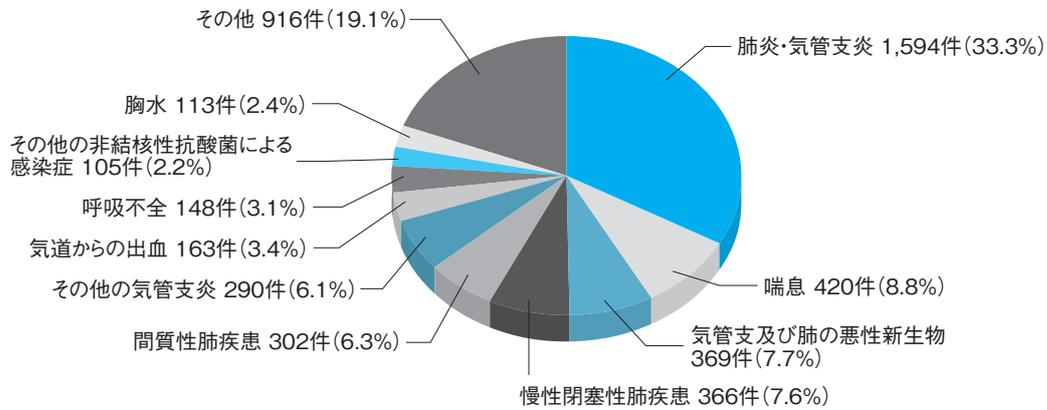


ICD-10 中間分類項目
J40-J47：慢性下気道疾患
J10-J18：インフルエンザ及び肺炎
J20-J22：その他の急性下気道感染症
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
J80-J84：主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
J90-J94：胸膜のその他の疾患
A30-A49：その他の細菌性疾患
J95-J99：呼吸器系のその他の疾患
J60-J70：外的因子による肺疾患

### 3. 活動報告

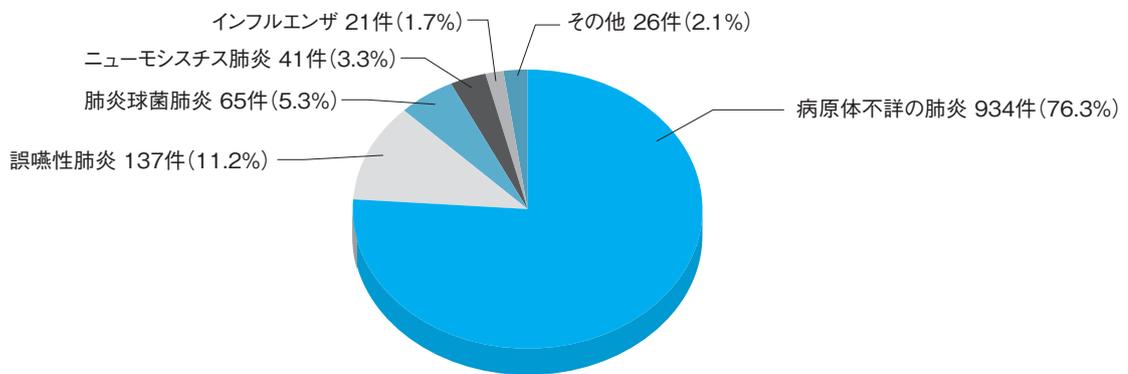
#### (1) 疾患別頻度

総件数：4,786件



#### (2) 肺炎別頻度

総件数：1,224件



#### (3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	1,224	4	間質性肺炎	275
2	気管支喘息	458	5	慢性閉塞性肺疾患	168
3	肺癌	322		計	2,447

# 消化器内科

## 1. 概要

岡村前院長を筆頭に8名のスタッフと、専攻医5名、後期研修医1～2名で診療にあたっている。岡村、山田、山本が上下部消化管、浦野、内藤が肝臓、藤田、松原が胆道・膵を担当し、

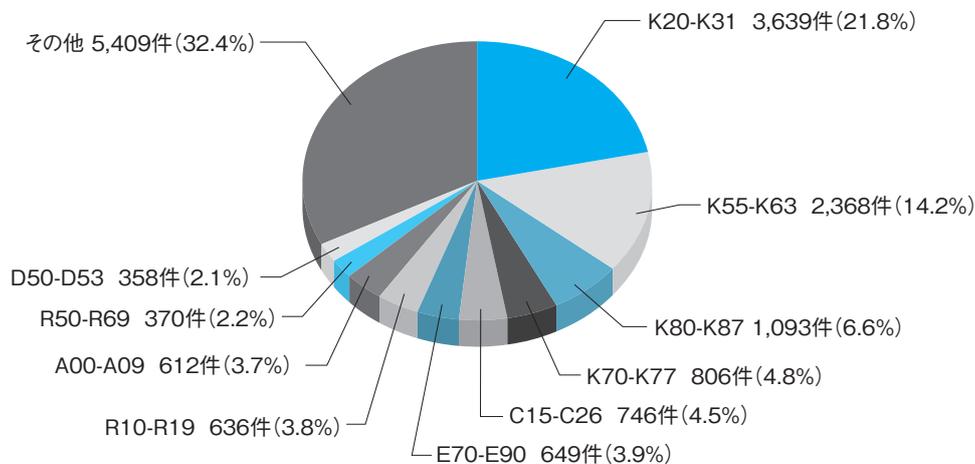
- ① 消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ② 食道・胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的治療の検討
- ③ IBDに対する内科的治療
- ④ 胆道・膵疾患におけるEUS、IDUS、CEUSの検討
- ⑤ 閉塞性黄疸に対するEST、EPD、ERBD、EMSなどの経乳頭的内視鏡治療と、EUS下胆道・膵嚢胞ドレナージ術、経皮経肝胆道ドレナージ術の治療成績の検討
- ⑥ ウイルス性肝炎の治療と長期経過観察
- ⑦ 肝癌の画像診断と内科的治療—TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を研究テーマとして診療に従事している。この他、食道静脈瘤に対してはEISとEVL、胃・十二指腸潰瘍の出血に対してはクリッピング止血法を積極的に行い救命救急医療に貢献しているほか、脳血管障害などによる嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

(第一部長 浦野 文博)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：16,686件



ICD-10 中間分類項目
K20-K31：食道、胃及び十二指腸の疾患
K55-K63：腸のその他の疾患
K80-K87：胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害
K70-K77：肝疾患
C15-C26：消化器の悪性新生物
E70-E90：代謝障害
R10-R19：消化器系及び腹部に関する症状及び徴候
A00-A09：腸管感染症
R50-R69：全身症状及び徴候
D50-D53：栄養性貧血

### 3. 活動報告

#### (1) 当科で経験した主な疾患の新規症例数

胃癌	204例
大腸癌	281例
	(深達度分類 ss ないし a1 以深 : mp : sm : m 139 : 22 : 39 : 81)
肝細胞癌	39例
	(進行度分類 I : II : III : IV 8 : 16 : 8 : 7)
	(JIS 0 : 1 : 2 : 3 : 4 : 5 7 : 14 : 9 : 3 : 6 : 0)
膵癌	49例
胆道癌	46例

#### (2) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	7,054件
大腸内視鏡検査	4,503件
造影エコー検査	193件
消化管超音波内視鏡検査	88件 (うち穿刺生検 5件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	胃108件、大腸 37件
胆膵超音波内視鏡検査	313件 (うち穿刺生検 42件)
PTCDならびに関連手技	35件 (PTBD 1件、PTGBD 24件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	506件
うち ERBDあるいはENBD	212件
内視鏡的金属ステント留置術	26件
管腔内超音波検査	36件
腹部血管造影検査	164件
うち 動脈塞栓術	128件
動注化学療法	8件
リザーバー留置による動注化学療法	1件
ラジオ波焼灼術	51件

#### (3) 学会活動受賞

山本 崇文	日本消化器病学会東海支部第123回例会	若手医師研究奨励賞
飛田 恵美子	第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	若手研究者優秀演題奨励賞

# 循環器内科

## 1. 概要

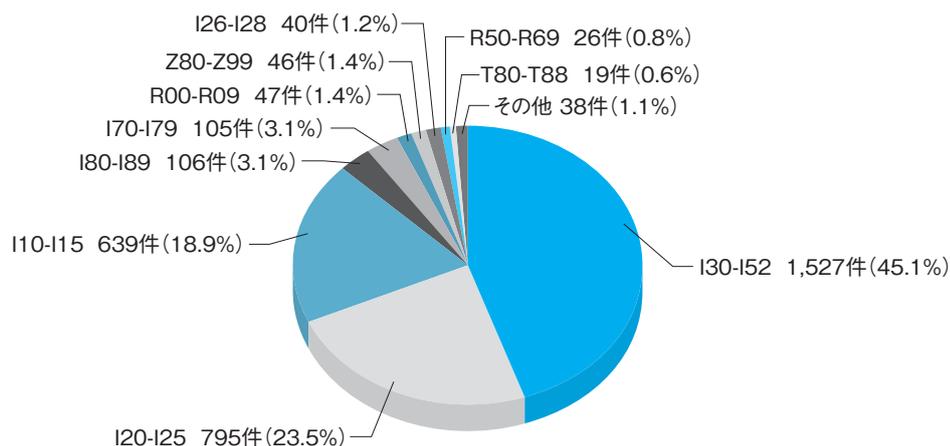
2015年は心血管/造影カテーテル検査を774件（うち緊急検査193件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは253例（成功率94.9%）で、その内、血管内超音波を243例に、ステント留置術は215例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンを9件に使用した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを29例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（6例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を51例に、カテーテルアブレーションを28例に施行した。64列多列検出器CTによる冠動脈CT検査を109例に施行した。

2015年4月1日付で名古屋大学大学院医学研究科病態内科学講座循環器内科学から島津修三が赴任した。2015年10月1日付で岡崎敬正が循環器内科医員となった。

（第二部長 成瀬 賢伸）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,388件



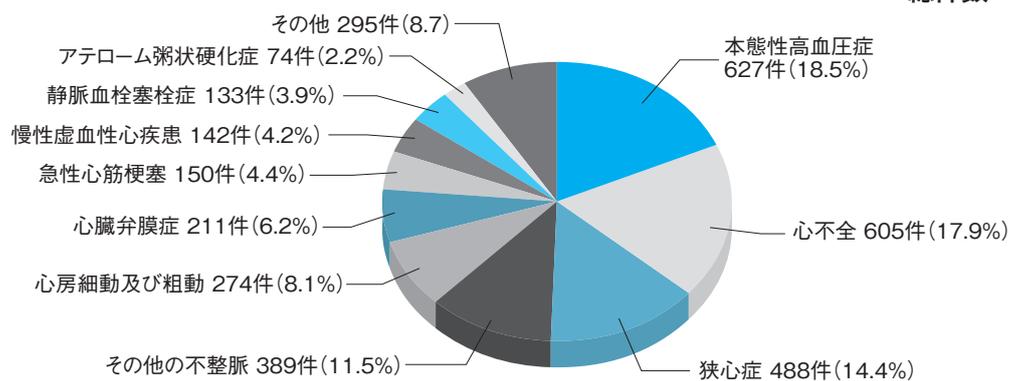
### ICD-10 中間分類項目

I30-I52：その他の型の心疾患
I20-I25：虚血性心疾患
I10-I15：高血圧性疾患
I80-I89：静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの
I70-I79：動脈、細動脈及び毛細血管の疾患
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
Z80-Z99：家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
I26-I28：肺性心疾患及び肺循環疾患
R50-R69：全身症状及び徴候
T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

総件数：3,388件

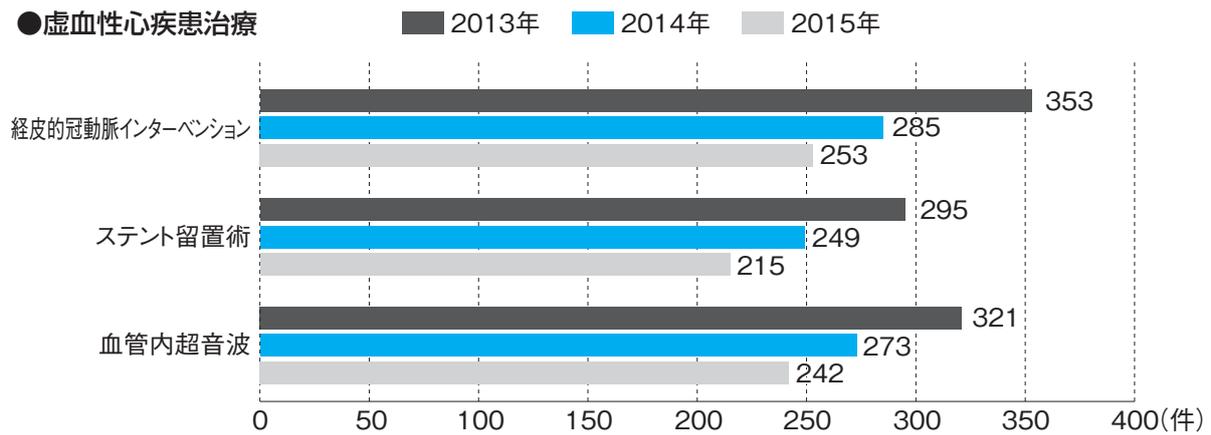


#### (2) 科指定4疾患

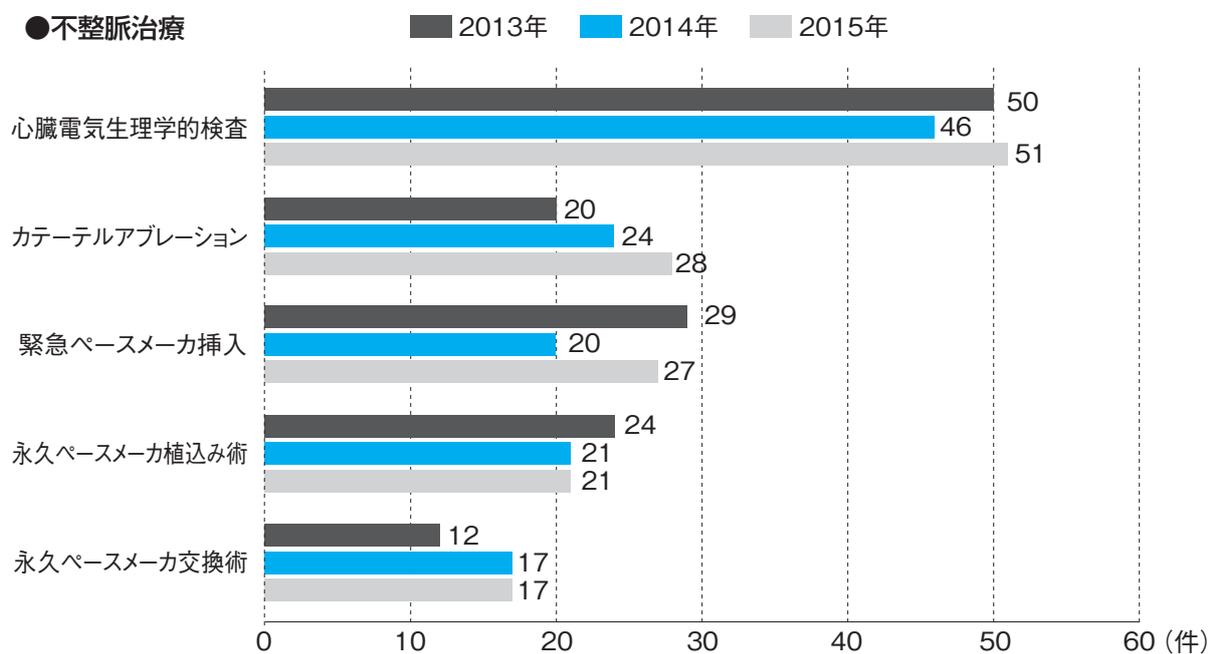
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	605	4	肺血栓塞栓症	26
2	狭心症	488		計	1,269
3	急性心筋梗塞	150			

(3) 治療実績

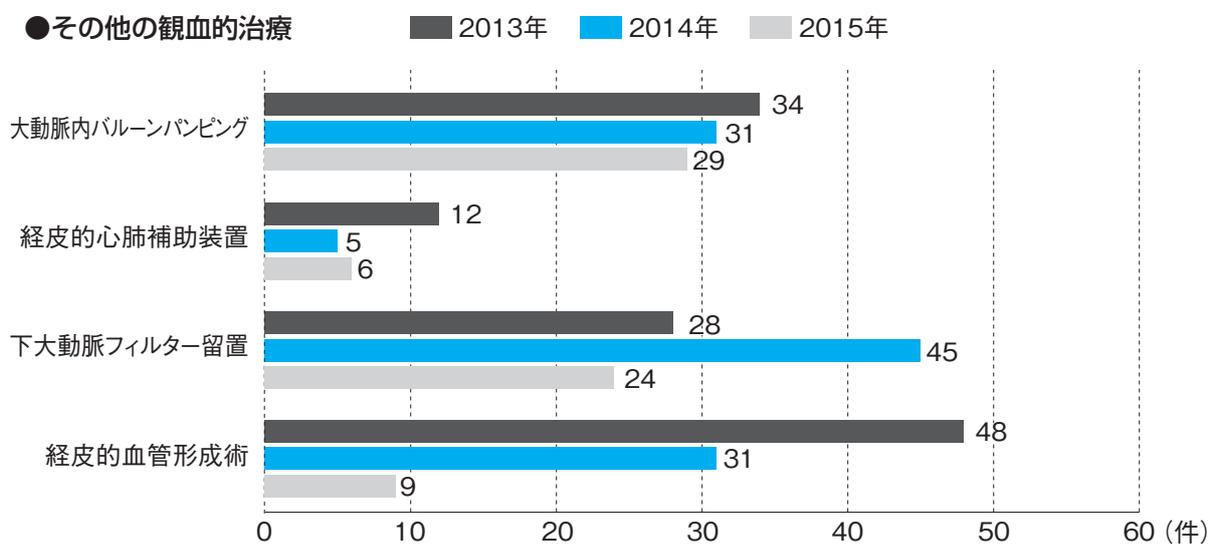
●虚血性心疾患治療



●不整脈治療



●その他の観血的治療



# 腎臓内科

## 1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性以外）などの内科的腎臓病一般の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

豊橋市民病院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で当科は常勤医師がわずか4人と内科の中で一番小さな科であるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。実際、急性腎不全（AKI）を始めとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、保存期の慢性腎不全（CKD）や維持透析患者の合併症の治療にも関わっている。

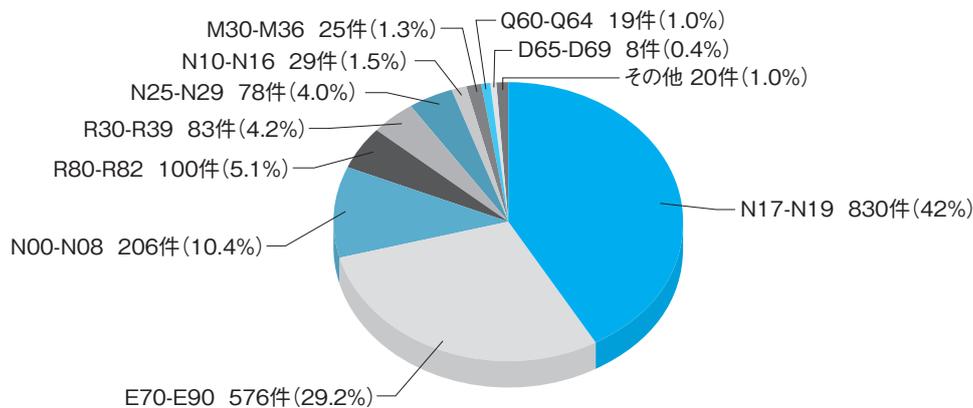
腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い診断・治療に役立っている。末期慢性腎不全に対しては、血液透析のみならず、院内の移植外科と連携して腎移植にも対応可能である。また、腹膜透析（CAPD）も、小規模であるが再開にこぎつけた。

その他に、MEや看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）などを、病態に応じて施行している。

（部長 山川 大志）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,974件



ICD-10 中間分類項目
N17-N19：腎不全
E70-E90：代謝障害
N00-N08：糸球体疾患
R80-R82：尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの
R30-R39：腎尿路系に関する症状及び徴候
N25-N29：腎及び尿管のその他の障害
N10-N16：腎尿管間質性疾患
M30-M36：全身性結合組織障害
Q60-Q64：腎尿路系の先天奇形
D65-D69：凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態

### 3. 活動報告

(1) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	777	4	IgA腎症	22
2	ネフローゼ症候群	122	5	急性進行性糸球体腎炎	10
3	急性腎不全	53		計	984

# 糖尿病・内分泌内科

## 1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士15名他の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来を設置している。インスリンポンプ療法（CSII）、CGM（持続血糖測定）に続き、SAP（CGMつきCSII）も運用開始した。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、5月には初のウォーキングイベントを、11月の全国糖尿病週間に合わせて院内での啓発活動を実施した。6月には歯科・口腔外科とともに豊橋市歯科医師会主催の「歯の健康フェスティバル」に出展した。

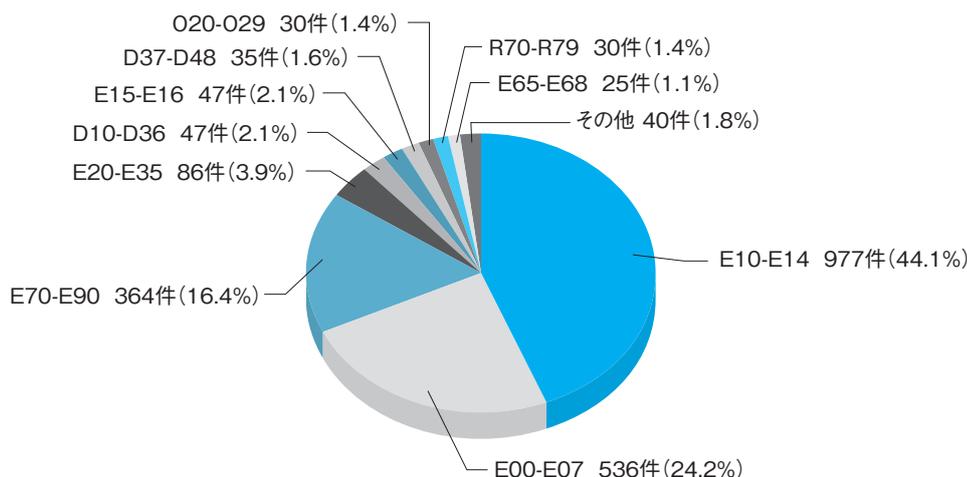
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。なお放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では、3月末で村瀬正敏医師が退職し、4月に長谷川義高医師が赴任した。

(部長 山守 育雄)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：2,217件

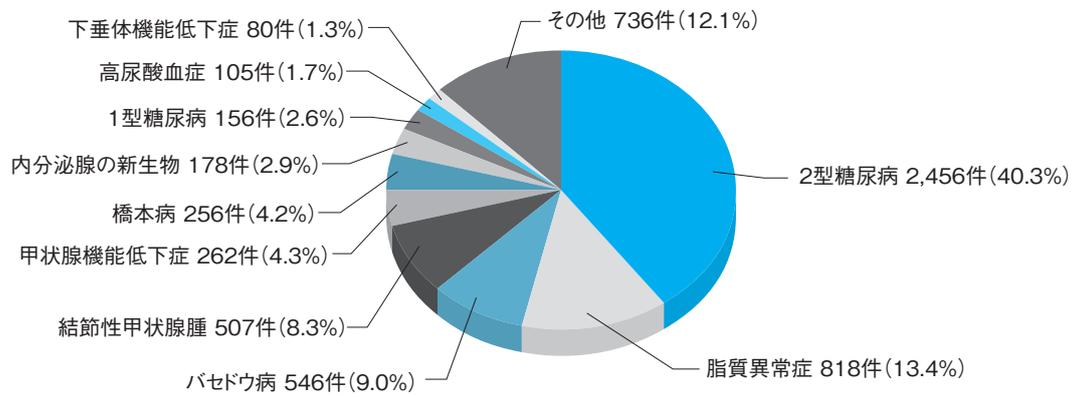


ICD-10 中間分類項目
E10-E14：糖尿病
E00-E07：甲状腺障害
E70-E90：代謝障害
E20-E35：その他の内分泌腺障害
D10-D36：良性新生物
E15-E16：その他のグルコース調節及び膵内分泌障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
O20-O29：主として妊娠に関連するその他の母体障害
R70-R79：血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの
E65-E68：肥満(症及びその他の過栄養<過剰摂食>

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

特有疾患件数：6,100件



# 神経内科

## 1. 概要

2015年のスタッフは、4名でスタート、4月に1名入れ替わり、9月から1名加わり5名になったが、その分仕事量も増えた。

入院診療：総入院患者数は、昨年より90人ほど増加し689人だった。主なトピックは、以下のとおりである。

- ① 細菌性髄膜炎の起炎菌としては比較的少ない、リステリア菌や肺炎桿菌などの例があった。
- ② ALS治療に、従来脳梗塞の治療薬として使われていたラジカットが認められ、初回治療のため数名入院した。
- ③ 昨年同様、高齢者のてんかんが多く、最近話題になっている、非けいれん性てんかん重積状態（NCSE）と考えられる例もあった。

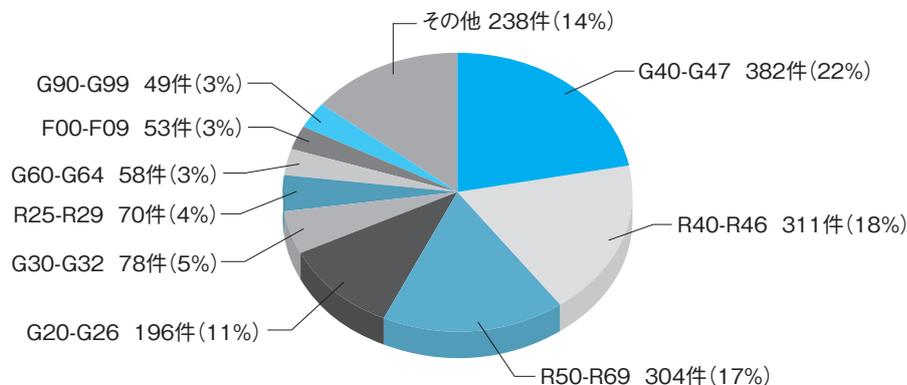
退院・転院に際し、家族背景や社会的背景の難しい人が増えており、患者総合支援センターは無くてはならない存在である。

外来診療：年間の外来患者数は8,876人で、その内初診者数は1,334人とほぼ昨年と同様だった。周辺地域の神経疾患患者が当院に集中する傾向は、昨年と変わらない。ALSの新規発症者の多い年だった。

(部長 李野 謙次)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,739件

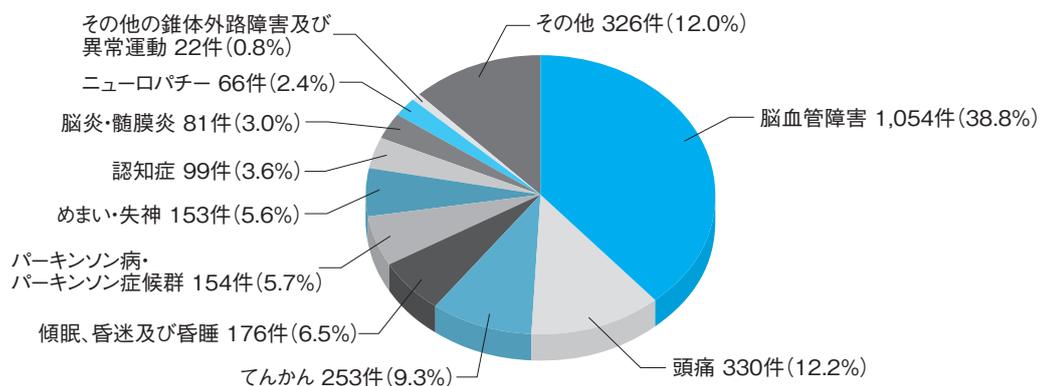


ICD-10 中間分類項目
G40-G47：挿間性および発作性障害
R40-R46：認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候
R50-R69：全身症状および徴候
G20-G26：錐体外路障害および異常運動
G30-G32：神経系のその他の変性疾患
R25-R29：神経系および筋骨格系に関する症状および徴候
G60-G64：多発（性）ニューロパチ〈シ〉—およびその他の末梢神経系の障害
F00-F09：症状性を含む器質性精神障害
G90-G99：神経系のその他の障害

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：2,714件



#### (2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	154
2	多系統萎縮症	8
3	脊髄小脳変性症	15
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	17
5	重症筋無力症	18
6	多発性硬化症	13
	計	225

# 血液・腫瘍内科

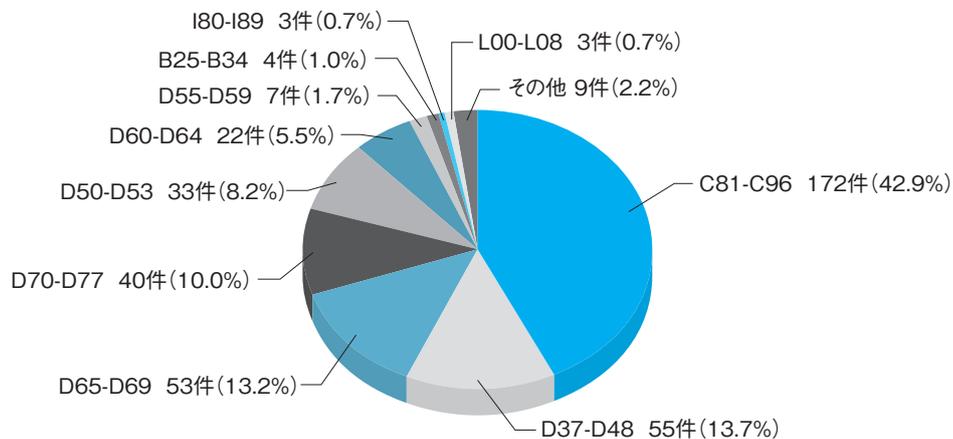
## 1. 概要

1997年に専門医1名で開設し、2001年に病棟（西9階）を独立、次第にスタッフを増員し、本年度は5-6名のスタッフで診療を行った。かねてより同種造血幹細胞移植の準備を進めていたが、2014年に4床の新たなクリーンルーム（class100）を増設し、また同胞間同種造血幹細胞移植の症例数が一定に達したことで、本年度は日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植や臍帯血バンクの認定を受けることができ、当科でも非血縁者からの同種造血幹細胞移植を行うことが可能となった。これにより、造血器腫瘍に対する化学療法や自家および同種造血幹細胞移植、免疫療法、凝固疾患に対する治療など、ほぼ全ての血液疾患に対する治療が当科で行えるようになった。

（第二部長 倉橋 信悟）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：401件



### ICD-10 中間分類項目

C81-C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患
D50-D53	栄養性貧血
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血
D55-D59	溶血性貧血
B25-B34	その他のウイルス疾患
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症

### 3. 活動報告

#### (1) 感染症

延べ総件数：191件

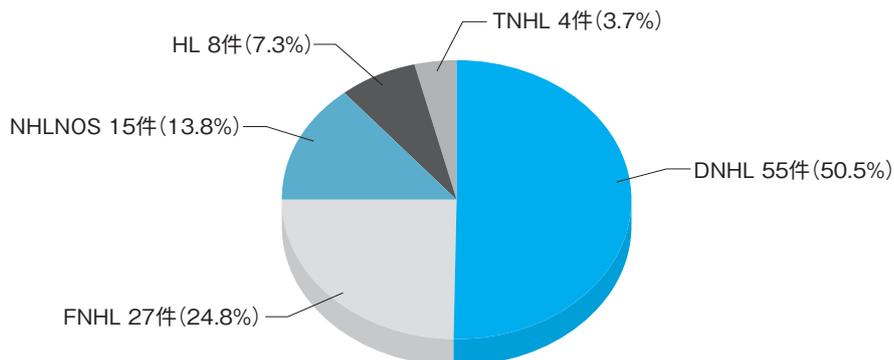
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	敗血症	53	5	ヘルペス感染症	16
2	カンジダ症	62	6	ニューモシスチス症	4
3	真菌症	22	7	アスペルギルス症	14
4	サイトメガロウイルス病	20		計	191

#### (2) 造血幹細胞移植

種 類			件数(件)
自家移植			16
同種移植	血縁者間	同胞	10 (骨髄：6 末梢血：4)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	1
		臍帯血バンク	0

#### (3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD10 C81-85)

総件数：109件



略語	疾患名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろく瀘>胞性 [結節性] 非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
HL	ホジキン病
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫

# 一般外科・小児外科・肛門外科

## 1. 概要

### (1) 一般外科・小児外科

2015年の手術総数は1,621件で、そのうち15歳以下の小児手術は177例。緊急手術は296件（18%）。対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から消化器・乳腺の悪性腫瘍まで幅広い。

腹腔鏡下手術は、胃癌切除106件中43件（41%）、大腸癌切除185件中71件（38%）、肝部分切除31件中9件（29%）、肝外側区域切除2件中1件に対し行われた。2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し、2015年には16件行った。また2015年4月からは早期胃がんに対してもロボット支援手術が開始され2件行った。

乳癌手術は134件で、乳房温存手術は63件、センチネルリンパ節生検陰性は97件であった。

肝切除は49件で、疾患別内訳は、原発性肝癌17、転移性肝癌22、胆道癌8、その他2。膵頭十二指腸切除は19例全例が亜全胃温存で行われ、疾患別内訳は、膵癌8、胆嚢・胆管癌3、乳頭部癌5、十二指腸癌1、I P MN 1、漿液性嚢胞腺腫1であった。

上部消化管潰瘍穿孔19例のうち9例に大網充填術が施行され、非手術的保存療法は10例だった。腸閉塞入院は165例のうち47例（28%）に手術が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携し治療にあたっており、新生児手術は10例であった。

一般外科全体の入院総数は2,203人と昨年の2,105人よりやや増加し、平均入院期間は11日とこちらは昨年の12.2日より減少していた。

（第一部長 平松 和洋）

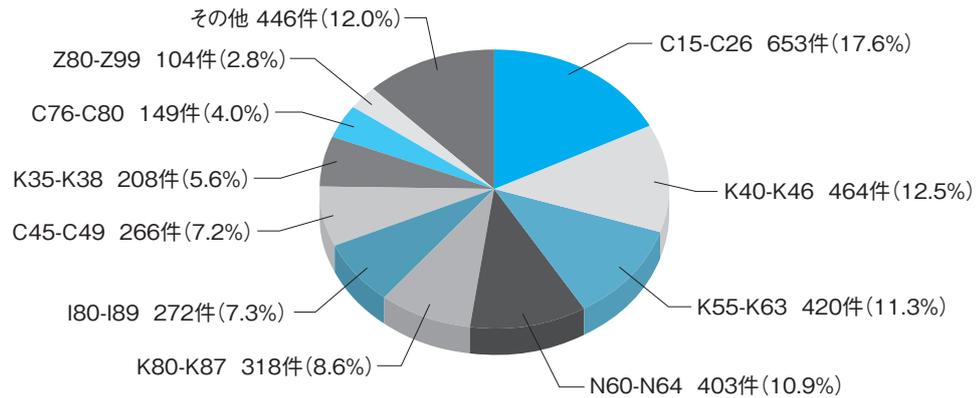
### (2) 肛門外科

“肛門外科”は当院移転新設に伴い一般外科から離れ単科（こう門科）と標榜されたが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科としての外来診療で、痔核を筆頭に肛門疾患、症状にて受診される患者様は多いが、専門性を必要とした治療においてはやはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。肛門外科として標榜している診療日は木曜日の日だが、常勤の外科医でもあるため日々肛門外科として診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者様が安心して受診できるような応対・環境整備を心掛け、診察で患者様に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者様の症状によって手術適応を決めている。一方、手術に伴う“ストーマ外来”で人工肛門患者様のサポートを継続して認定看護師とともにやっている。

（部長 柴田 佳久）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,703件



### ICD-10 中間分類項目

C15-C26：消化器の悪性新生物

K40-K46：ヘルニア

K55-K63：腸のその他の疾患

N60-N64：乳房の障害

K80-K87：胆のう<嚢>，胆管及び膵の障害

I80-I89：静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの

C45-C49：乳房の悪性新生物

K35-K38：虫垂の疾患

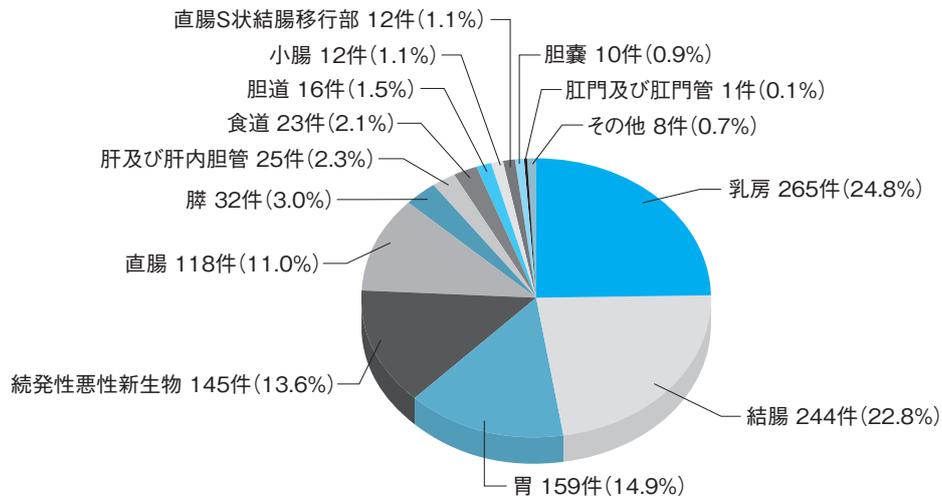
C76-C80：部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物

Z80-Z99：家族歴，既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者

### 3. 活動報告

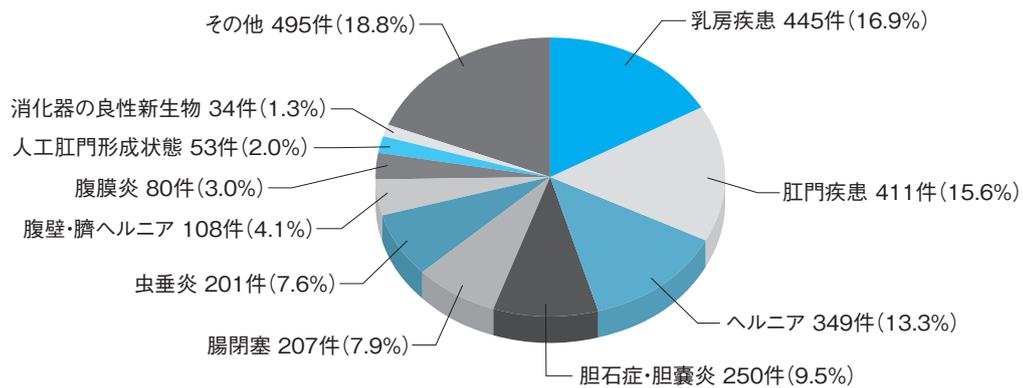
#### (1) 悪性新生物の疾患別頻度

総件数：1,070件



#### (2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：2,633件



(3) 一般外科・小児外科手術数(2015年) 1,621例

①一般外科	1,444	(b)腸瘻造設	1
全身麻酔	1,045	(c)腸瘻閉鎖	19
脊髄麻酔	84	(d)腸吻合	0
局部麻酔	315	(e)結腸・直腸切除	9(2)
(ア)甲状腺		(f)大腸垂全摘	1
a 良性疾患		(g)癒着剥離	17
(a)部分切除	0	(h)経肛門／経仙骨	0
(b)葉切、垂全摘、全摘	19	(i)単開腹／その他	3
b 悪性疾患		b 悪性疾患	
(a)部分切除、垂全摘、他	5	(a)腸瘻造設	26
(b)全摘	4	(b)腸吻合	2
(イ)乳 腺		(c)小腸切除	3
a 良性疾患 摘出	7	(d)結腸切除	125(33)
b 悪性疾患		(e)直腸切除(高位、低位)	57(38)
(a)定型乳切	0	(f)経肛門／仙骨的切除	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	30	(g)骨盤内臓全摘	2
(c)Bt±SLNB	34	(h)大腸垂全摘	1
(d)乳房温存手術±SLNB	63	(i)単開腹／その他	0
(e)Tm他	0	(カ)虫垂炎(虫垂／回盲部切除)	113(27)
(ウ)食 道		(キ)肝/胆/膵/脾	
a 良性疾患	0	(a)肝部分切除	31(9)
b 悪性疾患		(b)肝区域／葉切除	18(1)
(a)胸部食道切除	3	(c)胆嚢床切除	3
(b)その他	0	(d)開腹胆嚢摘出術	19
(エ)胃・十二指腸		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	147
a 良性疾患		(f)開腹胆管切開術	8
(a)胃切除、胃全摘	0	(g)胆管消化管吻合	1
(b)体網充填	10	(h)胆管切除	0
b 悪性疾患		(i)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(a)幽門側胃切除	64(34)	(j)垂全胃温存PD	19
(b)胃全摘	41(9)	(k)膵尾部切除	7
(c)噴門側胃切除	1	(l)膵全摘	1
(d)腹腔鏡下胃切除	43	(m)膵部分切除	1
(e)胃腸吻合	9	(n)膵管空腸吻合	1
(f)楔状切除／十二指腸切除	10(5)	(o)脾摘	8(6)
(g)PD	0	(p)胃腸吻合	2
(h)単開腹／その他	3	(q)単開腹／その他	3
(オ)小腸／大腸		(ク)内分泌	
a 良性疾患		(a)副甲状腺	0
(a)小腸切除	23	(b)副腎	1

(ケ)ヘルニア	(セ)腹腔内癌再発	19
(a)鼠径大腿	(ソ)その他	26
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	②小児外科(全例全身麻酔)	177
(コ)痔核痔瘻	(ア)新生児手術	10
(カ)局麻手術	(イ)鼠径ヘルニア	72
(a)摘出、生検	(ウ)虫垂切除	28(9)
(b)その他	(エ)その他	67
(シ)外傷／医原性		
(ス)腹膜炎		

( )内はその内の鏡視下手術件数

(4) 一般外科 疾患・治療法別入院患者数・平均入院日数 (2015年)

入院患者総数 2,203人 (昨年2,105人)、平均入院日数11.0日 (昨年12.2日)

中央値7日 (昨年7日)

疾患名	治療法	患者数	平均入院期間(日)
イレウス	手術	47	10.9
	保存療法	118	11
外傷	手術	11	10.8
	保存療法	19	10.9
合併症治療・抗がん剤有害事象	保存療法	59	9
その他	手術	20	5.3
	保存療法	40	8.2
その他／悪性	手術	11	20.1
	保存療法	5	10.6
甲状腺／良性	手術	18	5.5
	保存療法	0	0
甲状腺／悪性	手術	10	6
	保存療法	0	0
内分泌	予定手術	1	7
非新生児	手術	143	3.2
	保存療法	9	5.9
腹腔内癌再発	手術	4	12.8
	保存・緩和療法	2	4.5
腹膜炎	手術	27	24.6
	保存療法	22	11.5
ヘルニア	手術	229	3
	保存療法	4	2.3
痔核・痔瘻	手術	22	6
虫垂	手術	112	5.2
	保存療法	22	10.4
胃十二指腸／良性	手術	9	12.8
	保存療法	10	12.1

疾患名	治療法	患者数	平均入院期間(日)
胃十二指腸／悪性	手術	140	18.2
	化学療法	6	5.8
	放射線療法	0	0.0
	緩和療法	20	20.0
	保存療法	43	16.2
肝胆膵脾	手術	255	10.8
	保存療法	93	11.2
	緩和療法	14	22.9
	化学療法	10	6.9
小・大腸／悪性	手術	259	18.3
	化学療法	21	5.1
	緩和療法	42	20.1
	保存療法	65	12.3
小・大腸／良性	手術	30	12.0
	保存療法	7	8.0
食道／悪性	手術	3	28.3
	保存療法	5	28.6
	化学/放治	9	6.9
	緩和療法	1	3.0
食道／良性	保存療法	1	11.0
乳腺／その他	手術	4	6.3
乳腺／悪性	手術	134	7.3
	保存療法	26	15.6
	緩和療法	8	25.3
	化学/放治	6	19

# 呼吸器外科

## 1. 概要

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としている。主対象の肺癌は、死因の第1位で増加の一途をたどっている。ヘビースモーカーの多い団塊の世代が、肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配がない。

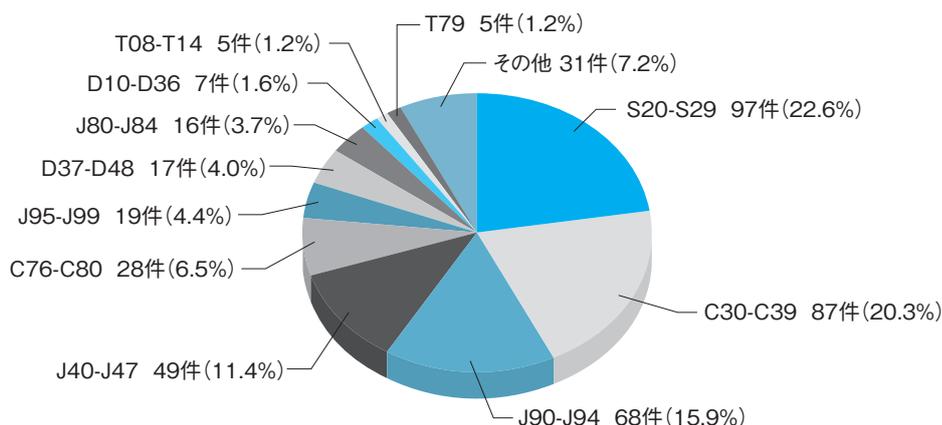
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術浸潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5～7日間の治療が可能である。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となってから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加を必要としている。早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要である。

毎週定期的に、呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例に関して治療方針を検討しており、各科と共同で治療にあたっている。

(部長 成田 久仁夫)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：429件



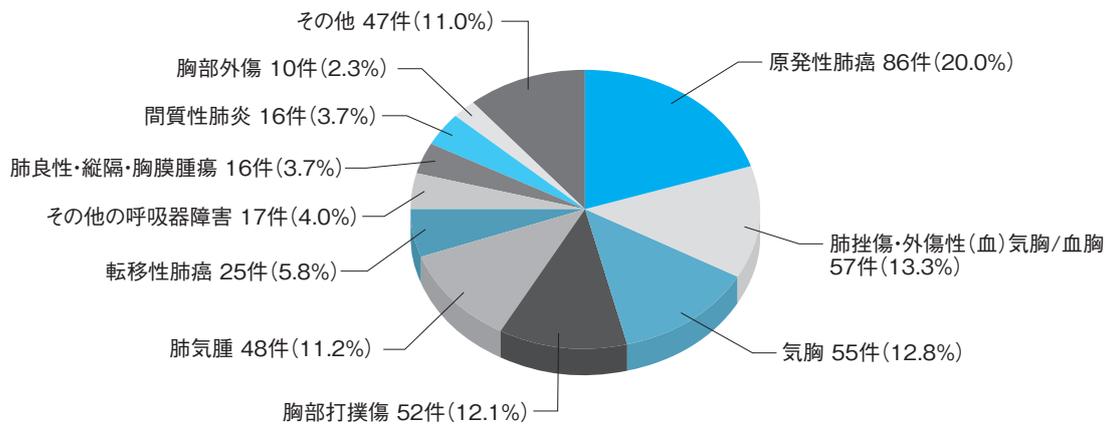
### ICD-10 中間分類項目

S20-S29	胸部<郭>損傷
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
J90-J94	胸膜のその他の疾患
J40-J47	慢性下気道疾患
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
D10-D36	良性新生物
T08-T14	部位不明の体幹もしくは四肢の損傷又は部位不明の損傷
T79	外傷の早期合併症

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

総件数：429件



# 心臓外科・血管外科

## 1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。救命率は非常に高く安定した手術が実現でき、それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

後天性心疾患：外山医師が主体となっており、手術症例数はいまだ多くなく、スタッフの教育にもかなりの労力を要している現状である。

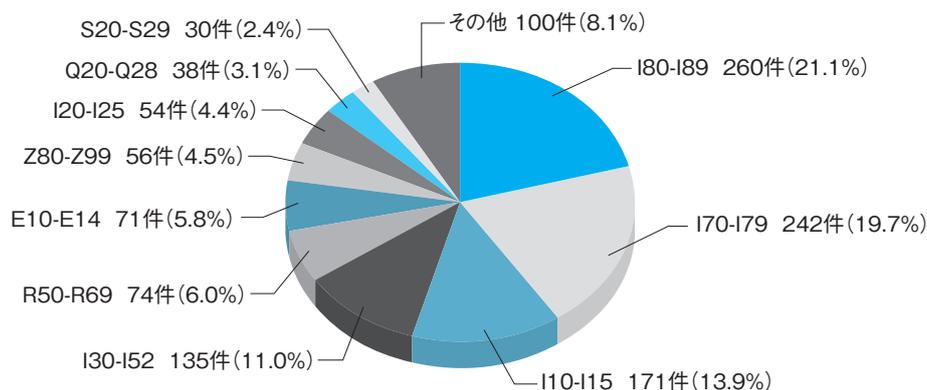
血管外科：腹部大動脈疾患や閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などの静脈疾患が対象となり、昨年は約90例の手術件数で年毎に増えている。スタッフの不足はかなり深刻である。

現在、三年後の予定で、大動脈瘤や大動脈解離等に対してステント治療が実施できるよう、施設増設の準備をしている。これは多くの労力を要するプランで、非常に重要な計画である。実現には院内院外を含めた多くの方々の協力が不可欠である。日々のご協力に対して厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともご協力をお願いしたい。

(部長 中山 雅人)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,231件



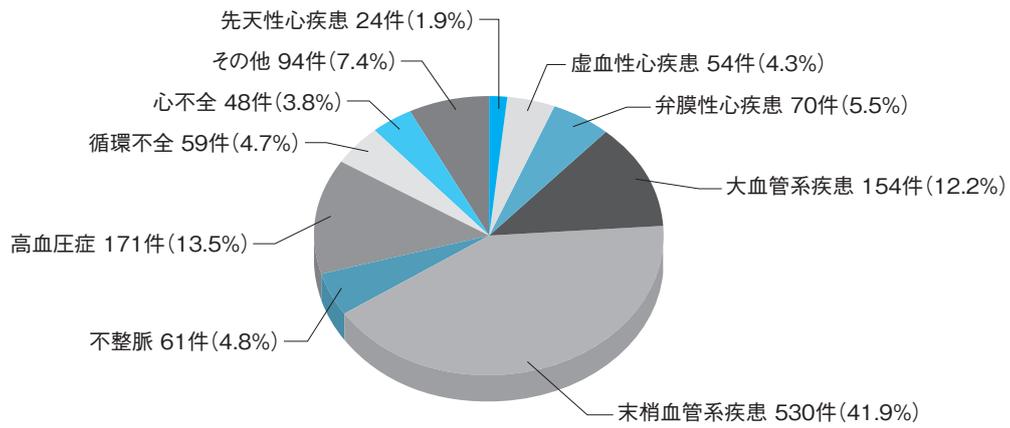
### ICD-10 中間分類項目

I80-I89：静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの
I70-I79：動脈，細動脈及び毛細血管の疾患
I10-I15：高血圧性疾患
I30-I52：その他の型の心疾患
R50-R69：全身症状及び徴候
E10-E14：糖尿病
Z80-Z99：家族歴，既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
I20-I25：虚血性心疾患
Q20-Q28：循環器系の先天奇形
S20-S29：胸部<郭>損傷

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

総件数：1,265件



# 移植外科

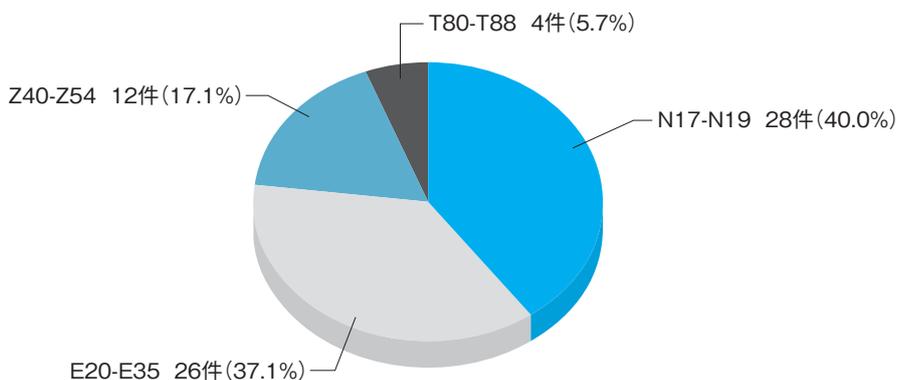
## 1. 概要

2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2人体制であったが、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1名となった。2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまったため当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また他院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。2015年の腎移植症例は生体腎移植6例、献腎移植2例であったが、生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

（部長 長坂 隆治）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：70件



### ICD-10 中間分類項目

N17-N19：腎不全

E20-E35：その他の内分泌腺障害

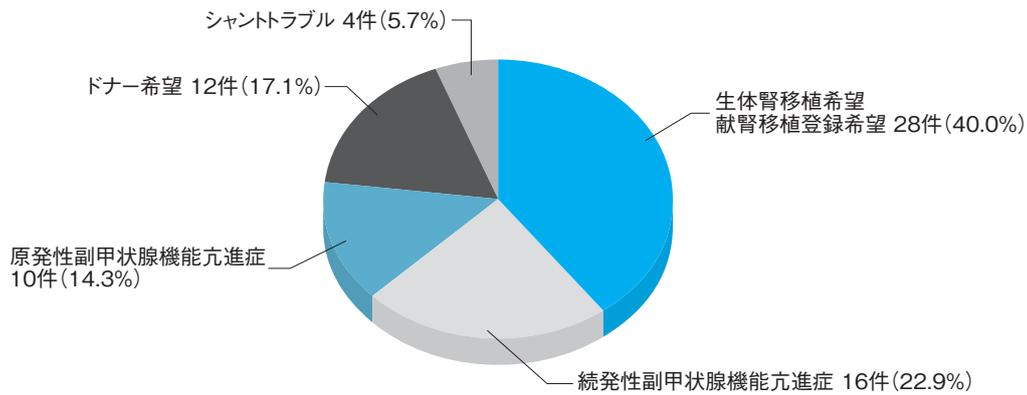
Z40-Z54：特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者

T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

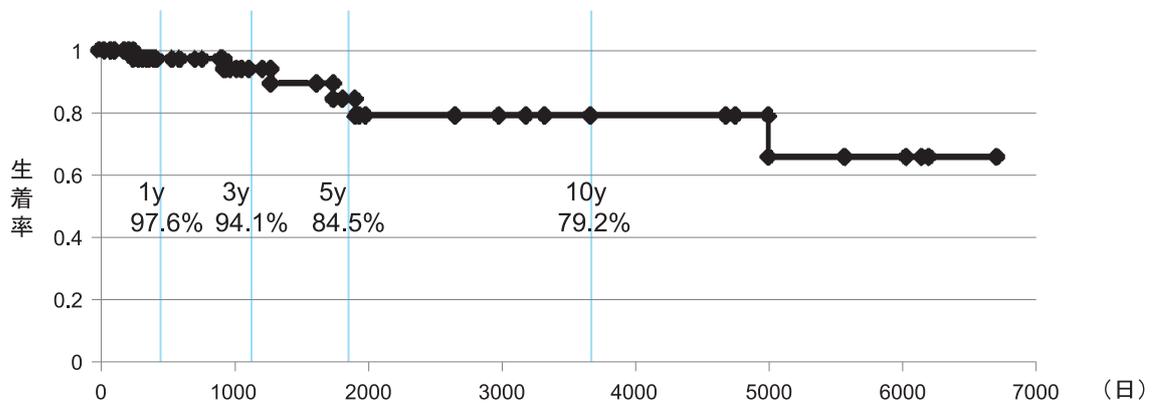
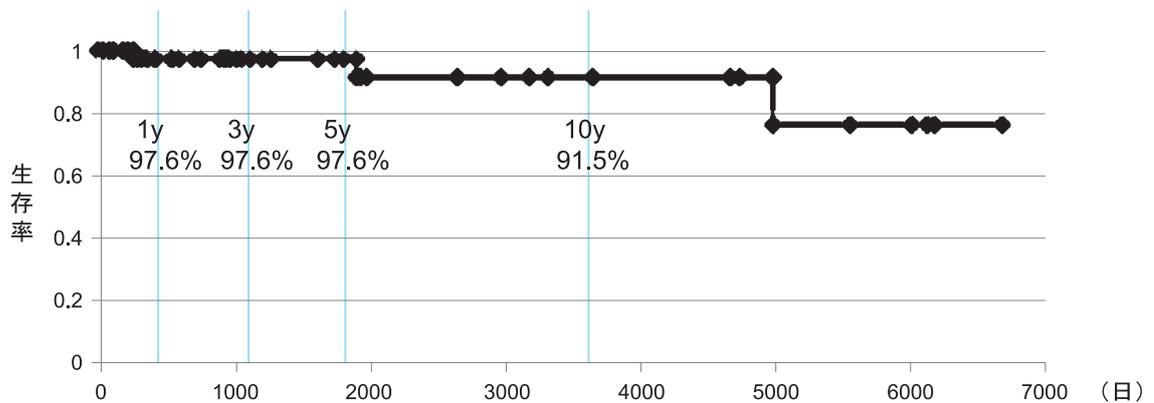
総件数：70件



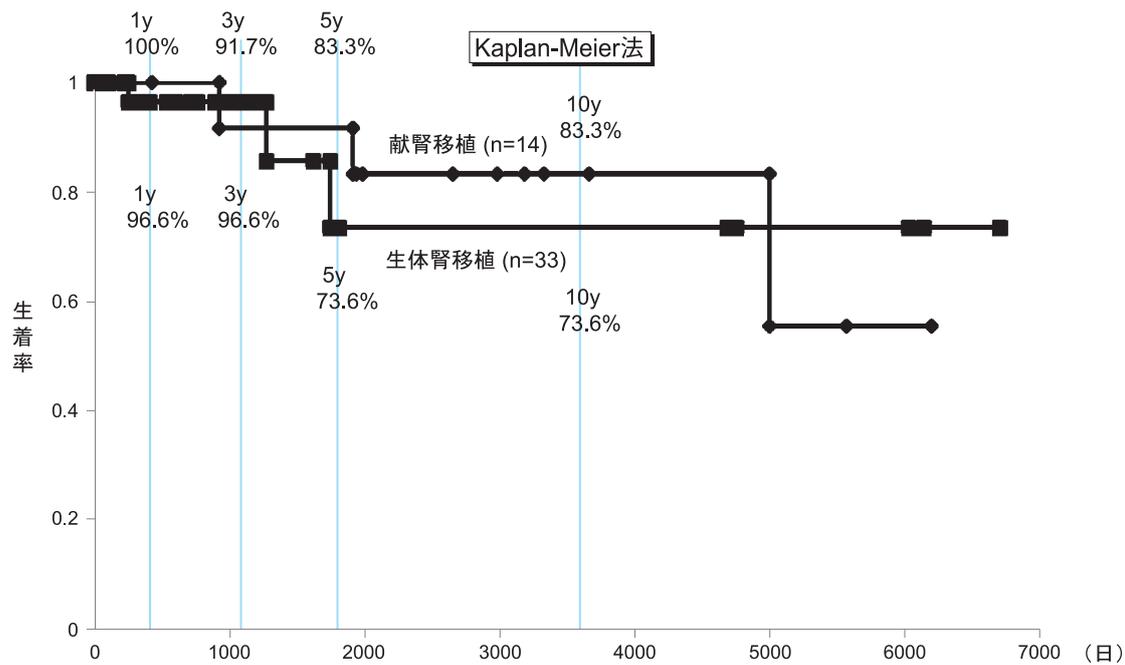
#### (2) 外来患者の状況 (2016年4月現在)

	外来種別	患者数 (人)		外来種別	患者数 (人)
1	腎移植後	58	4	献腎移植登録外来	109
2	肝移植後	6	5	副甲状腺手術後	31
3	脾移植後	1		計	205

#### (3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2016年4月現在)



(4) 当院腎移植症例の生着率（生体腎移植 vs 献腎移植）（2016年4月現在）



# 整形外科

## 1. 概要

2015年12月31日のスタッフは、常勤医【三重野琢磨（小児）、山内健一（関節、外傷）、藤田護（膝肩、外傷）、三矢聡（手外科、外傷）】で専攻医【岡田貴士、磯野正晶、三矢未来、宮入祐一、長谷川純也、福井順】である。専攻医は、6か月毎に整形外科、脊椎外科、リウマチ科をローテートしており、名大整形外科と人事交流を行っている。

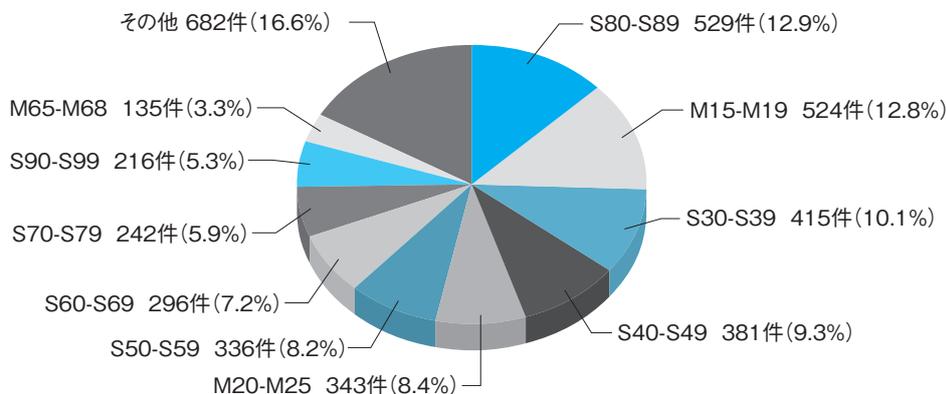
専門外来は、小児整形（名大整形 鬼頭准教授）、骨軟部腫瘍（名大整形 浦川講師）が月1回で行っている。手足の先天異常の手術は、井上五郎先生や申正樹先生の指導を受けている。また、大腿骨頸部骨折地域連携パスを使用し、市内の急性期・回復期病院と連携しているほか、豊橋市こども発達センター（ほいっぷ）に三重野が週1回出張している。

豊橋整形外科研修セミナーを主催し、2月は名大中央感染制御部の加藤大三先生、8月は名大整形の舟橋康治先生に講演して頂いた。東三整会、三河関節、三河骨軟部、名静会などの研究会にも積極的に参加している。

（第一部長 三重野 琢磨）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,099件



ICD-10 中間分類項目
S80-S89：膝及び下腿の損傷
M15-M19：関節症
S30-S39：腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷
S40-S49：肩及び上腕の損傷
M20-M25：その他の関節障害
S50-S59：肘及び前腕の損傷
S60-S69：手首及び手の損傷
S70-S79：股関節部及び大腿の損傷
S90-S99：足首及び足の損傷
M65-M68：滑膜及び腱の障害

### 3. 活動報告

#### (1) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	下腿 (足首を含む)	38	5	手首及び手	40
2	大腿骨	19	6	その他	11
3	肩及び上腕	22		計	148
4	前腕	18			

#### (2) 患者状況

年間外来患者数 32,743人 (整形外科、脊椎外科)

年間入院患者数 1,298人 (整形外科のみ)

#### (3) 手術実績

手術症例 1,193件

麻酔別症例件数

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	246
腰椎麻酔	473
伝達麻酔	295
局所麻酔	124
その他	8
計	1,146

②手の外科 (重複あり)

名 称	件 数 (件)
(ア) 肘・前腕	151
(イ) 手関節	24
(ウ) 手指	126
(エ) マイクロサージャリー	51
(オ) 手指、足趾、多合指(趾)	7
計	359

①関節外科 (ア+イ+ウ) 199件

(ア)人工関節

名 称	件 数 (件)
股関節	108
膝関節	27
肩関節	1
計	136

③骨軟部外傷

名 称	件 数 (件)
(ア) 鎖骨-上腕	49
(イ) 骨盤-大腿骨頸部	36
(ウ) 大腿-膝	155
(エ) 下腿	69
(オ) 足関節-足	24
(カ) 抜釘	121
計	454

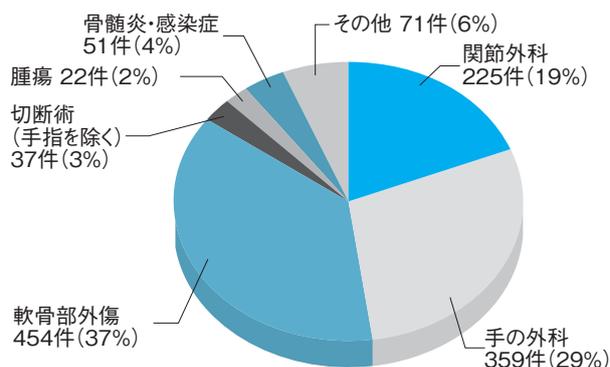
(イ)関節形成術

名 称	件 数 (件)
股関節	0
膝関節	2
肩関節	1
計	3

- ④切断術 (手指を除く) 37件
- ⑤腫瘍 22件
- ⑥骨髓炎・感染症 51件
- ⑦その他 71件

(ウ)関節鏡視下手術

名 称	件 数 (件)
肩関節	12
膝関節	35
手関節	13
足関節	0
計	60



# リウマチ科

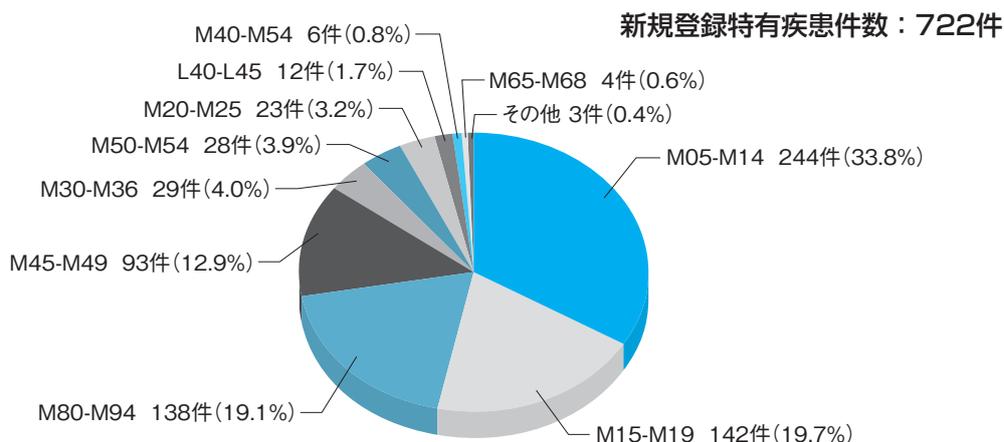
## 1. 概要

当科は整形外科から発展したが内科的治療を基本とし、外科的治療もおこなっている。当科の診療の4本柱について記す。現在は平野、磯野の2人のリウマチ科常勤医を中心に、研修中の整形外科若手医師の助けも借りて診療にあたっている。

- (1) 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治療も行っている。
- (2) 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- (3) 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- (4) RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

(部長 平野 裕司)

## 2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目
M05-M14：炎症性多発性関節障害
M15-M19：関節症
M80-M94：骨障害及び軟骨障害
M45-M49：脊椎障害
M30-M36：全身性結合組織障害
M50-M54：その他の脊柱障害
M20-M25：その他の関節障害
L40-L45：丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害
M40-M54：脊柱障害
M65-M68：滑膜及び腱の障害

### 3. 活動報告

#### (1) 実績

2015年度関節リウマチ患者背景		
症例数(件)		930
新患者数(各年)(人)		60
性別	男(人)	224
	女(人)	706
	女性率(%)	75.9
平均年齢(歳)		65.3
平均罹病期間(年)		13.6
罹病期間分類(%)	2年以下	15.6
	3年～9年	30.4
	10年以上	54.0
Stage(%)	I	22.7
	II	16.5
	III	22.7
	IV	38.1
Class(%)	1	35.7
	2	47.9
	3	13.2
	4	3.2
RF陽性率(%)		76.7
ACPA陽性率(%)		81.6

2015年度関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者	601
MTX投与率(%)	64.6
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	8.7
アザルフィジン投与者	187
アザルフィジン投与率(%)	20.1
プログラフ投与者	163
プログラフ投与率(%)	17.5
PSL投与率(%)	21.5
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	3.9
生物学的製剤経験者	309
生物学的製剤経験率(%)	33.3

2015年度関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)		0.69
平均DAS28(ESR)		2.93
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	5.5
	Moderate	30.1
	Low	19.0
	Remission	45.5
平均SDAI		7.0
SDAI疾患活動性分類(%)	High	2.7
	Moderate	16.3
	Low	42.6
	Remission	38.4
Boolean4(%)		31.0
平均mHAQ		0.427
mHAQ<0.5(%)		66.8

2015年リウマチ科手術	
合計手術件数	26
人工膝関節置換術	9
人工股関節置換術	5
足趾形成術	5
RA手関節手術	1
足関節固定術	1
人工膝関節片顆置換術	1

# 脊椎外科

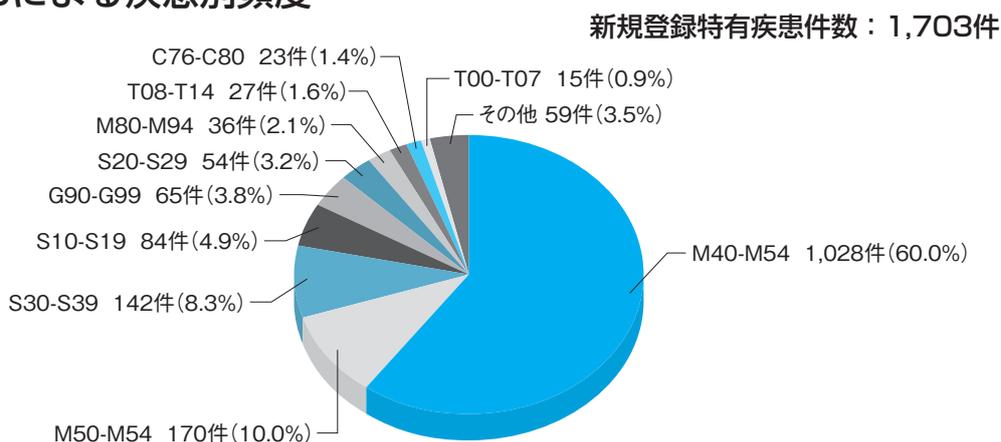
## 1. 概要

脊椎外科は、2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原 永武（部長）、富田 浩之、宮入 祐一の3名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。

脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施して行くことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会および医学雑誌上での発表も行っている。

（部長 吉原 永武）

## 2. ICD-10による疾患別頻度



### ICD-10 中間分類項目

M40-M54	： 脊柱障害
M50-M54	： その他の脊柱障害
S30-S39	： 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷
S10-S19	： 頸部損傷
G90-G99	： 神経系のその他の障害
S20-S29	： 胸部<郭>損傷
M80-M94	： 骨障害及び軟骨障害
T08-T14	： 部位不明の体幹もしくは四肢の損傷又は部位不明の損傷
C76-C80	： 部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
T00-T07	： 多部位の損傷

### 3. 活動報告

#### (1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・黄色靱帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

#### (2) 手術実績（2015年1月～12月）

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	39
頸椎椎間孔拡大術	7
頸椎前方除圧固定	10
頸椎後方固定術	13
胸椎除圧固定	3
胸椎椎弓切除	9
椎間板ヘルニア摘出	30
椎弓切除（腰椎除圧術）	61
脊椎固定術	29
胸腰椎前方固定	4
胸腰椎後方固定	17
胸腰椎前方後方同時固定	10
脊椎脊髄腫瘍	2
その他	12
計	246

# 脳神経外科

## 1. 概要

当科では各専門領域の医師を配置し、新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象として、可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。近年の低侵襲手術への傾向を踏まえ、血管内治療（脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈狭窄ステント拡張術など）や神経内視鏡手術（脳内血腫除去術、経鼻下垂体腫瘍摘出術、水頭症手術など）などの低侵襲かつ最先端の治療の導入も進んでいる。特に最近では、急性期脳梗塞におけるカテーテル血栓除去術を積極的に行い、従来の治療では救えなかった症例に対して良好な成績を築きつつある。

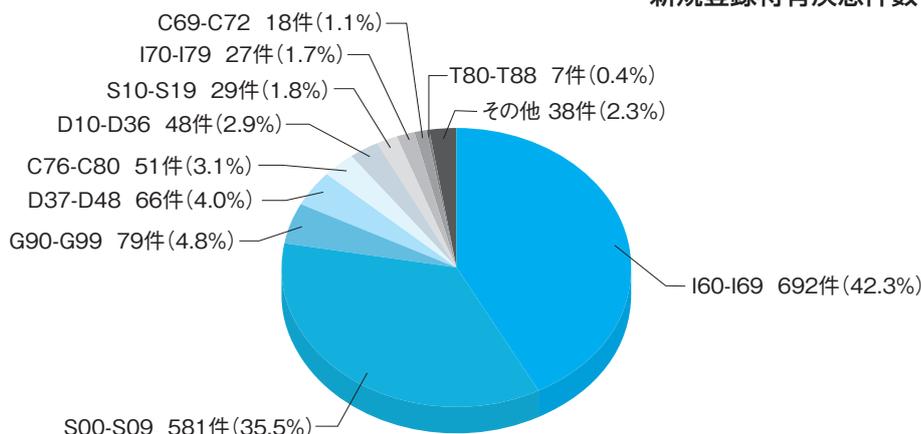
またNavigationシステムや電気生理学的モニター（体性感覚誘発電位、運動誘発電位、聴性脳幹反応、顔面神経誘発電位など）を駆使して、術後の神経障害の出現を可能な限り抑えることにも取り組んでいる。

今後の高齢化医療に対しては、「穂の国脳卒中地域連携パス」をさらに発展させて、この地域の円滑な医療連携の向上に努めて行きたい。

（第二部長 若林 健一）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：1,636件

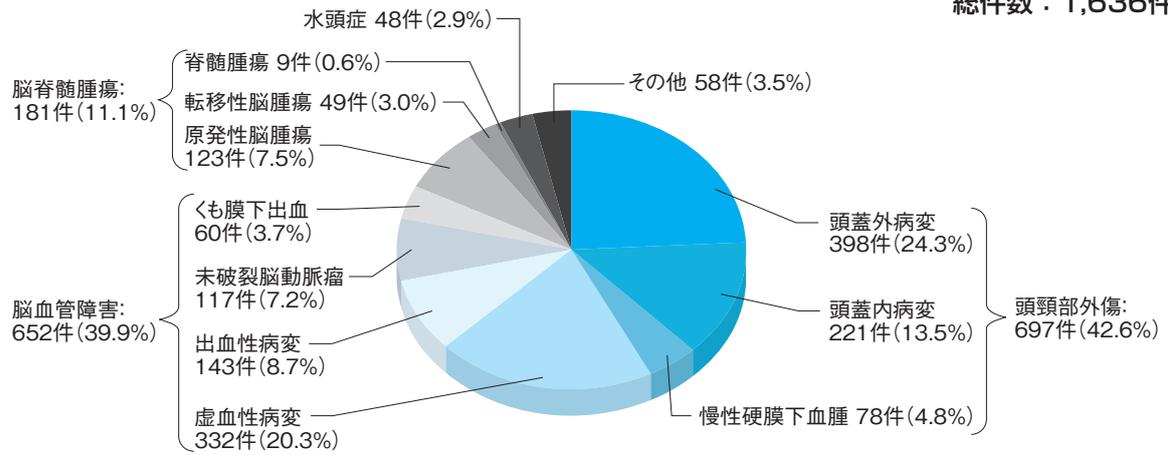


ICD-10 中間分類項目
I60-I69：脳血管疾患
S00-S09：頭部損傷
G90-G99：神経系のその他の障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
D10-D36：良性新生物
S10-S19：頸部損傷
I70-I79：動脈、細動脈及び毛細血管の疾患
C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物
T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度 (詳細)

総件数：1,636件



# 小児科

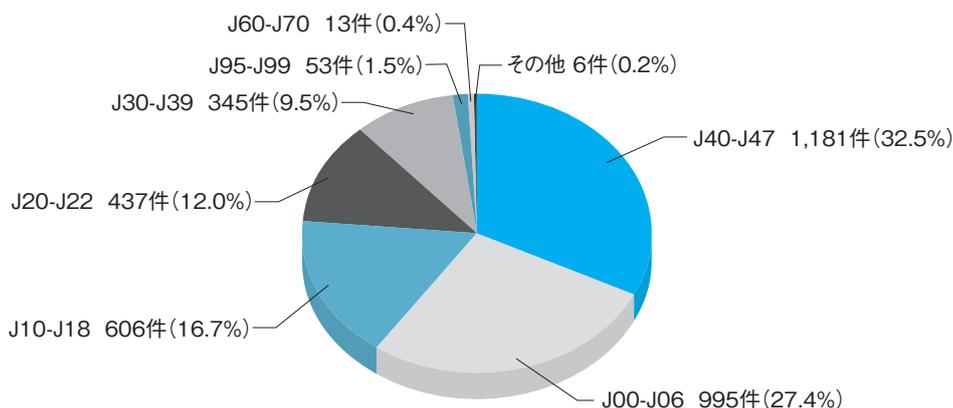
## 1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者さんには最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者さんご家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：3,636件



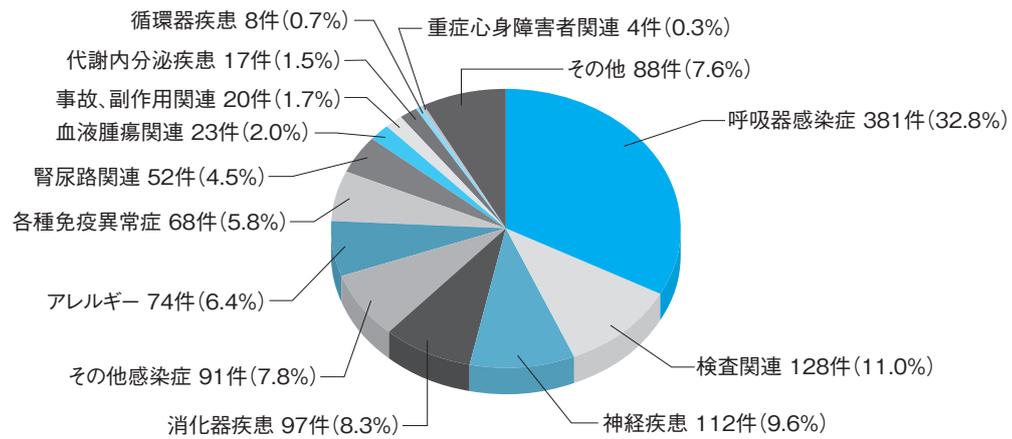
### ICD-10 中間分類項目

J40-J47：慢性下気道疾患
J00-J06：急性上気道感染症
J10-J18：インフルエンザ及び肺炎
J20-J22：その他の急性下気道感染症
J30-J39：上気道のその他の疾患
J95-J99：呼吸器系のその他の疾患
J60-J70：外的因子による肺疾患

### 3. 活動報告

#### (1) 入院患者疾患別頻度

総件数：1,163件



# 小児科（新生児）

## 1. 概要

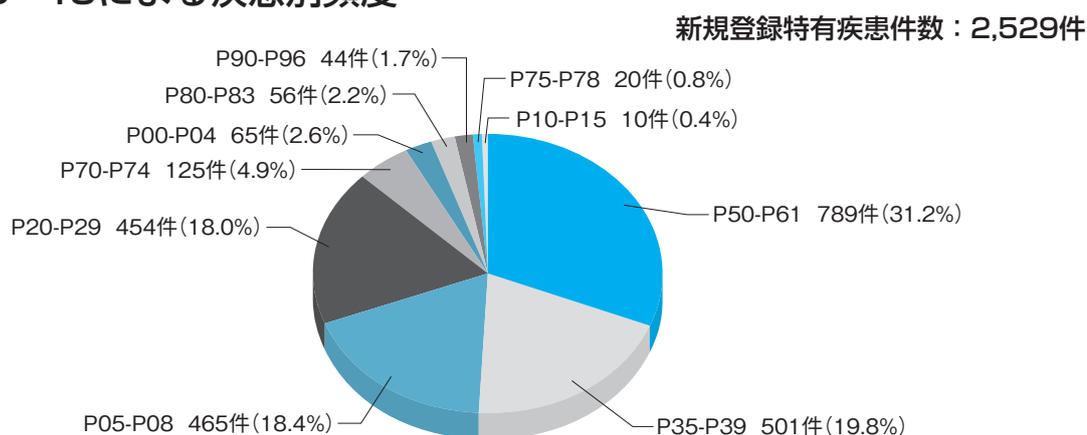
豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

2015年の入院数は447例で内328例は院内出生であった。院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、24時間体制で高度な医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送にあたっている。NO吸入療法や低体温療法など最先端の医療技術を提供し、東三河地区の新生児救命率の向上に貢献しているが、2015年には超低出生体重児を中心に救命困難例も経験しており、更なる救命率の向上が望まれる。新生児期の医療提供以外に、医師、看護師、理学療法士、臨床心理士が連携し、患児発達支援や両親の心のサポートも提供している。

臨床面のみでなく学術面においても、当センターで得られた貴重な医学的知見を学会及び医学誌で積極的に発表している。

（第二部長 幸脇 正典）

## 2. ICD-10による疾患別頻度



### ICD-10 中間分類項目

P50-P61	：胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害
P35-P39	：周産期に特異的な感染症
P05-P08	：妊娠期間及び胎児発育に関連する障害
P20-P29	：周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害
P70-P74	：胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害
P00-P04	：母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児
P80-P83	：胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態
P90-P96	：周産期に発生したその他の障害
P75-P78	：胎児及び新生児の消化器系障害
P10-P15	：出産外傷

### 3. 活動報告

#### (1) 出生在胎週数別入院患者数

出生在胎(週)	症例数(件)
22～23	3
24～27	13
28～33	68
34～36	125
37～	238
計	447

#### (2) 出生体重別入院患者数

出生体重(g)	症例数(件)
～499	0
500～999	22
1000～1499	30
1500～1999	74
2000～2499	116
2500～	205
計	447

#### (3) 出生院別入院患者数

出生院	症例数(件)
豊橋市民病院	328
パークベルクリニック	27
小石マタニティクリニック	30
マミーローズクリニック	17
中岡レディースクリニック	15
今泉産婦人科医院	2
豊川市民病院	10
ジュンレディースクリニック豊橋	5
渡辺レディースクリニック	4
愛知厚生連 渥美病院	5
オレンジベルクリニック	2
静岡厚生連 遠州病院	1
蒲郡市民病院	1
計	447

(4) NMC 入院児 死亡退院例

	在胎週数	出生体重 (g)	死亡日齡(日)	死亡原因
1	24 週 2 日	7 3 0	9	壊死性腸炎
2	25 週 3 日	7 9 6	1 4	Wilson-Mikity 症候群
3	23 週 0 日	5 0 4	3 4	壊死性腸炎
4	39 週 2 日	3, 7 1 5	3 0	帽状腱膜下出血
5	26 週 6 日	5 2 7	9 8	壊死性腸炎
6	25 週 3 日	8 5 0	4 2	壊死性腸炎
7	38 週 1 日	2, 8 3 0	0	帽状腱膜下出血
8	24 週 1 日	5 6 3	1 4	早発型大腸菌敗血症

(5) 蘇生時死亡例

	在胎週数	出生体重 (g)	死亡日齡(日)
1	29 週 6 日	1, 3 3 8	0
2	24 週 4 日	6 1 8	0

# 産婦人科

## 1. 概要

周産期分野では総合周産期センター開設後、約2年が経過した。生殖年齢人口の減少に伴い、当地域の出生数は減少しているが、当院の分娩数、母体搬送数は減少していない。むしろ超早産、極低出生体重児の出生数は増加傾向にある。院内各科と連携し、母児の安全を第一に診療を行っている。

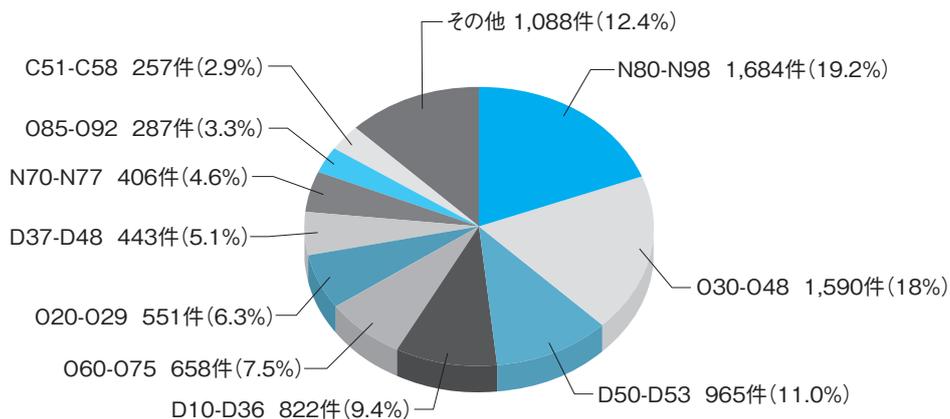
婦人科悪性腫瘍については、患者の状態や進行期を考慮した治療を心がけ、全国的にも高い成績を示している。子宮体癌では、保険適応となった腹腔鏡下手術の症例が増加した。現在子宮頸癌に対する腹腔鏡下手術の先進医療認定に向け準備中である。

子宮筋腫をはじめとした良性疾患は、ほぼ腹腔鏡下手術に移行した。妊娠を希望される症例では総合生殖医療センターと連携し、よりよい治療方法、時期を選択するとともに術後早期の妊娠を目指し、妊娠後は周産期部門で一貫した治療が可能となっている。また、子宮脱に対しては低侵襲かつ再発も少ない腹腔鏡下手術を導入し症例数が飛躍的に増加した。

(第二部長 岡田 真由美)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：8,751件



ICD-10 中間分類項目
N80-N98：女性生殖器の非炎症性障害
O30-O48：胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題
D50-D53：栄養性貧血
D10-D36：良性新生物
O60-O75：分娩の合併症
O20-O29：主として妊娠に関連するその他の母体障害
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
N70-N77：女性骨盤臓器の炎症性疾患
O85-O92：主として産じょく<褥>に関連する合併症
C51-C58：女性生殖器の悪性新生物

### 3. 活動報告

#### (1) 実績

分娩統計(2015.1-12)	(件)
正常	478
バースセンター正常	4
選択の帝王切開	212
緊急帝王切開	158
緊急帝王切開死産	0
超緊急帝王切開	20
鉗子分娩	6
吸引分娩	55
未受診正常	2
未受診緊急帝王切開	1
死産	3
双胎選択帝王切開	37
双胎緊急帝王切開	11
双胎緊急帝王切開一児死産	1
計	988
中期中絶	14
中期流産	9
中期中絶帝王切開	4
中期流産帝王切開	1
双胎中期中絶	1
計	29
母体搬送	242

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2015.1-12)	(件)
◎子宮頸部CIN II	計16
円錐切除	10
腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)	5
複式単純子宮全摘術(TAH)	1
◎子宮頸部CIN III	計70
円錐切除	47
レーザー蒸散	1
TLH	20
TAH	2
◎子宮頸癌	計37
①子宮頸癌(扁平上皮癌)初回手術例	21
I A期	6
I B1期	12
I B2期	2
II A期	1
②子宮頸癌(腺癌他)初回手術例	4
0期	2
I B1期	1
II B期	1
③子宮頸癌化学放射線療法後手術 III B期	1
④子宮頸癌化学放射線療法 (放射線科と共同治療)	8
II A1期	1
II B期	2
III A期	1
III B期	1
IV B期	3
⑤子宮頸癌放射線療法(主に放射線科)	3
II B期	1
III A期	1
IV B期	1

◎子宮体癌（癌肉腫含む）	計	53
I A期		32
I B期		12
II期		2
III A期		2
III C期		1
IV B期		4
◎子宮肉腫	計	3
子宮平滑筋肉腫		
I B期		1
IV B期		1
未分化肉腫 III C期		1
◎子宮腺肉腫 I C期	計	1
◎STUMP	計	1
◎子宮内膜異型増殖症	計	5
◎卵巣癌	計	35
I A期		4
I C期		15
II A期		1
II B期		2
III B期		5
III C期		6
IV B期		2
◎卵巣境界悪性腫瘍	計	12
I A期		7
I C期		5
◎Krukenberg腫瘍	計	2
◎卵管癌 I A期	計	2

◎化学療法

卵巣癌	60人	のべ358コース
子宮頸癌	39人	のべ129コース
子宮体癌	38人	のべ167コース
腹膜癌	6人	のべ29コース
子宮肉腫	4人	のべ19コース
卵管癌	2人	のべ16コース
その他	3人	のべ18コース
計	152人	に対してのべ736コース施行

産婦人科当直帯救急患者数（夜間休日）（2015.1-12）（件）

経陰分娩	402
緊急帝王切開	100
その他手術	49

救急外来患者数再診

8：30-17：00（休日のみ）	132
17：00-  0：00	254
0：00-  8：30	126
計	512

救急外来患者数初診

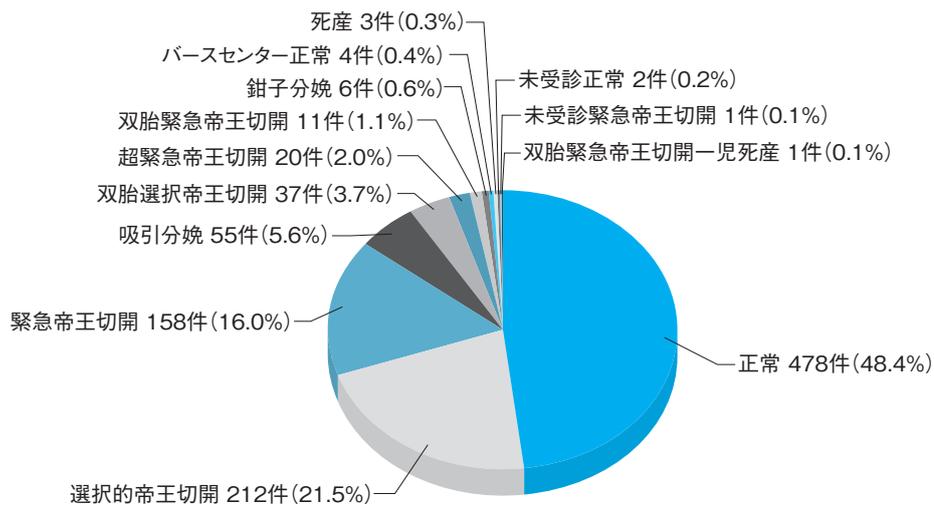
（カッコ内は本来他の施設で診察すべき患者数）

8：30-17：00（休日のみ）	70	（8）
17：00-  0：00	202	（23）
0：00-  8：30	90	（15）
計	362	（46）

救急外来患者総数 874

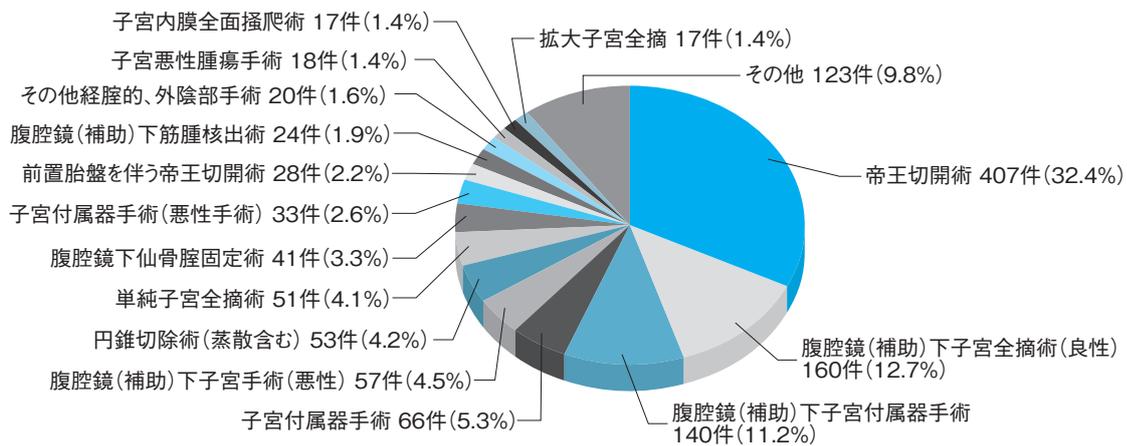
●分娩統計

総件数：988件



●手術件数

総件数：1,255件



## 産婦人科（生殖医療）

### 1. 概要

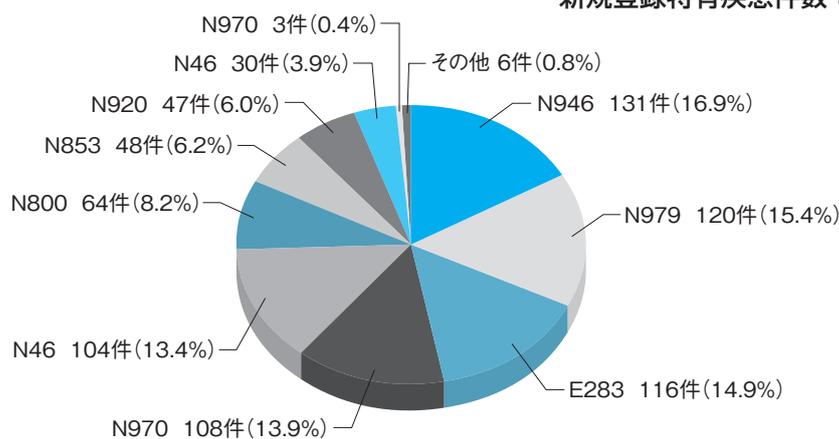
世界に先駆けて全受精卵への臨床応用を開始したタイムラプス胚培養も9年目となり、多胎防止を含む生殖補助医療の質的維持を今年も達成できた。国内外の学会での新知見発表には聴衆も多く集まり、若手産婦人科医師や臨床検査技師のモチベーションを高めている。矢吹医師が、日本不妊カウンセリング学会で優秀賞を受賞した。

2015年は、生殖医療で思うような結果が出ない事の背景としての肥満・痩せへの着目を高め、健康な体作りは安全妊娠への必要条件であることの患者さん向け教育を徹底した。難治性の患者さんが当院に集中するという理想的な傾向は続いている。このような患者さんが繰り返し治療を行い見かけ上の数値を低く抑えているが、他院での不成功例がすんなり成功するなど、スタッフが技術の高さを確認できる機会も多かった。頻回不成功例に肥満や痩せが多いことにも着目し、妊娠分娩の安全性や生涯の健康増進にもつながる健康な体作りを推進した1年でもあった。

(部長 安藤 寿夫)

### 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：777件



ICD-10 分類
N946：月経困難症
N979：女性不妊症
E283：卵巣機能不全
N970：排卵障害
N46：男性不妊症
N800：子宮腺筋症
N853：子宮退縮不全
N920：過多月経
N46：精子減少症
N970：卵巣性不妊症

### 3. 活動報告

#### (1) 生殖補助医療

2015年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	26	23	12	15	4	12	2
2月	26	24	12	18	5	11	2
3月	15	13	9	7	2	17	6
4月	18	16	10	5	1	9	0
5月	27	24	17	18	11	7	1
6月	29	24	15	11	2	9	2
7月	30	25	14	12	1	8	3
8月	19	16	11	10	2	4	0
9月	26	25	12	20	3	8	4
10月	22	19	12	8	1	4	0
11月	21	21	7	13	3	11	2
12月	25	24	17	12	0	7	1
計	284	254	148	149	35	107	23
妊娠率					23.5%		21.5%

多胎は0例。異所性妊娠0例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

#### (2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）（件）

体外受精－新鮮胚移植	37 (0)
融解胚移植	25 (0)
排卵誘発	10 (2)
人工授精	9 (1)
習慣流産	4 (0)
タイミング法・その他	29 (1)
計（重複例を除く）	100 (2)

## 女性内視鏡外科

### 1. 概要

産婦人科の中で、主に腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術全般に関わる手術を担当している。

東三河においては、婦人科手術に関してこれまで開腹術が中心であったが、良性疾患のほとんどで腹腔鏡下手術が可能のため今後置き換わっていく予定である。この手術は傷も小さく、早期退院、社会復帰可能な手術で患者さんに負担が少ない手術である。2013年に着任して以来、順調に手術件数を伸ばし、2015年度は腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術合わせて400件となり、愛知県内でも有数の鏡視下手術件数を誇るまでになった。入院期間は腹腔鏡下手術で5日間前後、子宮鏡手術では3日間である。退院後特に制限なく活動が可能となるので、とても有効な治療法である。現在、子宮体がんは腹腔鏡下手術が保険適用となり、子宮頸がんに対しては東海地方で初めての先進医療施設に認定され治療を行っている。また高齢化に伴い、子宮脱や膀胱脱といった骨盤臓器脱の患者さんが増えている。臓器脱に伴い社会活動の低下や膀胱機能障害が出現するために、その治療法として腹腔鏡による最新式のメッシュ手術を導入した。ロボット手術も合わせて導入しており、今後ますます低侵襲化手術に向けて展開していく。

(部長 梅村 康太)

# 耳鼻いんこう科

## 1. 概要

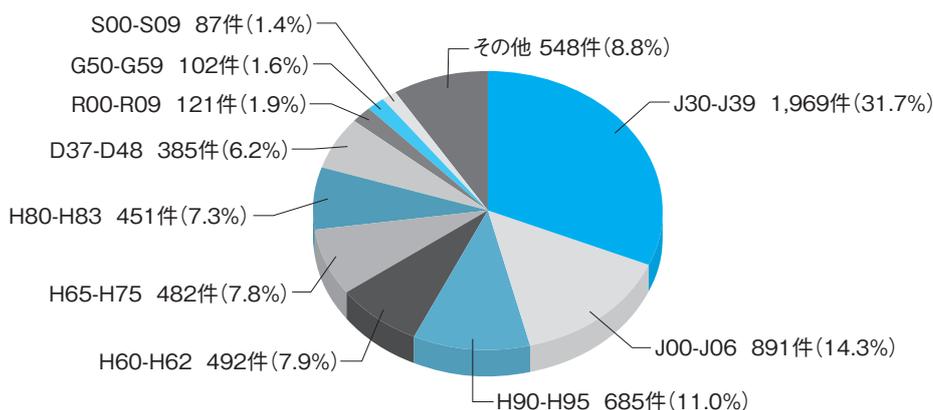
1日の外来受診患者数は約100～110人であった。年間の入院患者数は653人であった。手術室を使用した手術療方は年間412件であった。

中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行った。また、耳鳴り専門外来を新設し、専門的な治療を開始した。アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者さまの病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎などの救急疾患については、重症度に合わせて入院治療をおこなった。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺などの良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行なった。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：6,213件

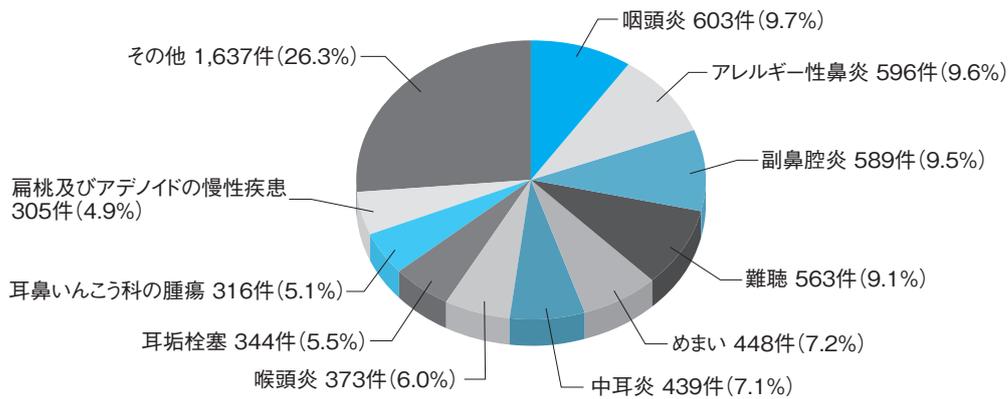


ICD-10 中間分類項目
J30-J39：上気道のその他の疾患
J00-J06：急性上気道感染症
H90-H95：耳のその他の障害
H60-H62：外耳疾患
H65-H75：中耳及び乳様突起の疾患
H80-H83：内耳疾患
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
R00-R09：循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候
G50-G59：神経、神経根及び神経そう<叢>の障害
S00-S09：頭部損傷

### 3. 活動報告

#### (1) 疾患別頻度

総件数：6,213件



#### (2) 入院患者の状況

主な救急疾患(入院加療を要した)	件数(件)
めまい	18
突発性難聴	9
顔面神経麻痺	12
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	45
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	27
鼻出血	7

主な手術療法(手術室使用)	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	195
内視鏡下副鼻腔手術	66
リンパ節摘出術	46
甲状腺腫瘍手術	8
鼓膜チューブ留置術	30
気管切開術	11
喉頭微細手術	19
耳下腺腫瘍手術	17
頸部郭清術	31
顎下腺摘出術	7
喉頭全摘術	3
咽頭悪性腫瘍手術	13

# 眼科

## 1. 概要

2015年4月より、未熟児網膜症の診察時デジタル眼底カメラにて眼底撮影可能となった。

また、名古屋大学眼科とネットワークを使用した、遠隔診療システムが使用可能となった。

それに伴い、重症な未熟児網膜症の治療方針等大学病院とも相談し、眼内に血管内皮細胞増殖因子に対する抗体を直接投与する治療法（抗 VEGF 療法）も小児科医師の協力にて施行開始した。

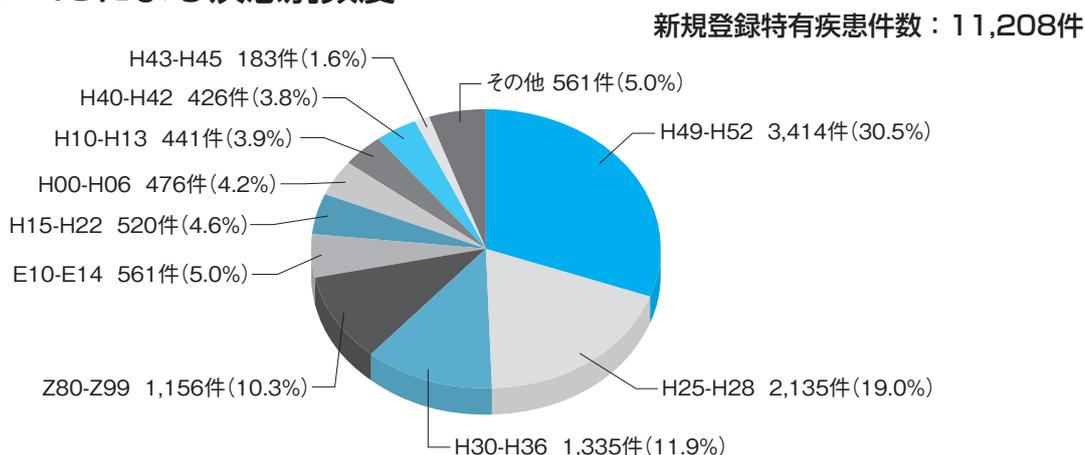
2015年7月より、新しい光干渉計測を利用した3次元眼底像撮影装置が利用可能となり、自発蛍光眼底撮影、造影剤なしでも網脈絡膜血管病変の描出も可能となった。

2015年9月より、白内障手術に対して、入院支援センターでクリニカルパスに基づき、入院前オリエンテーション、入院日・手術日の説明等が開始された。

2015年10月より、医師事務作業補助者（外来クラーク）が1名配置された。

（副部長 榊原 由美子）

## 2. ICD-10による疾患別頻度



ICD-10 中間分類項目
H49-H52：眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害
H25-H28：水晶体の障害
H30-H36：脈絡膜及び網膜の障害
Z80-Z99：家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者
E10-E14：糖尿病
H15-H22：強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害
H00-H06：眼瞼、涙器及び眼窩の障害
H10-H13：結膜の障害
H40-H42：緑内障
H43-H45：硝子体及び眼球の障害

### 3. 活動報告

#### (1) 入院患者

入院時疾患名	(人)	入院時疾患名	(人)
白内障	634	増殖硝子体網膜症	4
網膜剥離	119	眼内炎	3
黄斑上膜	73	斜視	3
糖尿病網膜症	55	眼内異物	2
緑内障	43	視神経症	2
黄斑円孔	37	内反症	2
硝子体出血・混濁	34	黄斑変性	1
網膜下出血	12	眼窩蜂窩織炎	1
硝子体脱出	10	上斜筋麻痺	1
硝子体黄斑牽引症候群	9	網膜静脈閉塞症	1
角膜穿孔	7	網膜分離症	1
眼内レンズ脱臼	6	網膜裂孔	1
外傷・眼球破裂	5	無水晶体眼	1
水晶体偏位	4	計	1,071

#### (2) 手術数

##### ①外来手術数

手術名	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	458
網膜光凝固術(PHC)	371
レーザー後発白内障切開術(YAG)	114
レーザー虹彩切開術(LI)	38
涙点プラグ挿入	20
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	17
霰粒腫摘出術	3
計	1,021

##### ②外来特殊検査件数

検査名	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	7,519
動的量的視野検査	980
静的量的視野検査	766
蛍光眼底撮影	759
眼鏡処方	271
計	10,295

### ③手術センター手術数

手術名	件数(件)
白内障手術	647
硝子体茎頭微鏡下離断術	291
網膜復位術	51
眼瞼下垂症手術	31
濾過胞再建術	24
内反症手術	15
流出路再建術	15
硝子体切除術	11
翼状片手術	11
霰粒腫摘出術	9
斜視手術	8
硝子体注入・吸引術	6
縫着レンズ挿入	5
角膜・強膜縫合術	3
結膜肉芽腫摘除術	2
増殖性硝子体網膜症手術	2
角膜・強膜異物除去術	1
眼窩内腫瘍摘出術	1
眼球摘出術	1
眼瞼外反症手術	1
眼瞼腫瘤切除術	1
結膜下異物除去術	1
前房、虹彩内異物除去術	1
網膜冷凍凝固術	1
計	1,139

# 皮膚科

## 1. 概要

2015年の皮膚科は、2014年に引き続き山田、鈴木、佐藤、横山、榊原の5人体制である。

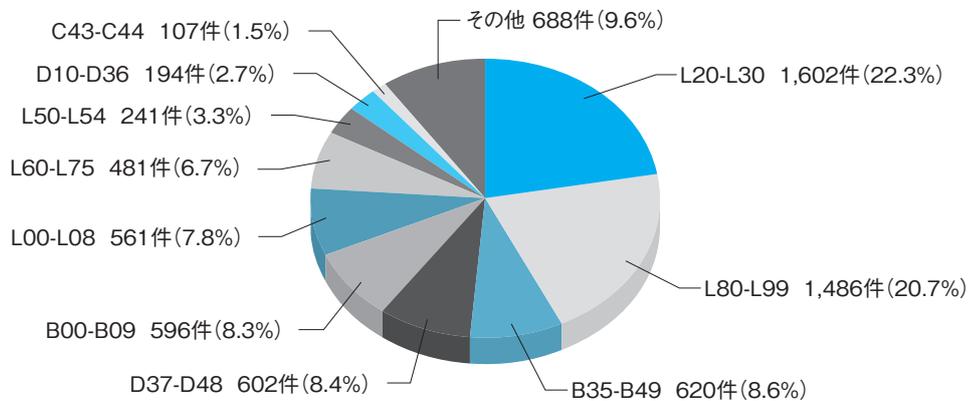
外来の患者数は増加傾向にある。これは、豊橋市、田原市、蒲郡市で常勤医師がおり、入院治療可能な皮膚科が当院だけであることが主因と思われる。

入院診療に関しては蜂窩織炎、帯状疱疹、褥瘡感染などの感染症で緊急入院した患者が多かったように思う。

(部長 山田 元人)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：7,178件



ICD-10 中間分類項目
L20-L30：皮膚炎及び湿疹
L80-L99：皮膚及び皮下組織のその他の障害
B35-B49：真菌症
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
B00-B09：皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症
L00-L08：皮膚及び皮下組織の感染症
L60-L75：皮膚付属器の障害
L50-L54：じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑
D10-D36：良性新生物
C43-C44：皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物

### 3. 活動報告

#### (1) 悪性新生物

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	有棘細胞癌	52	5	乳房外パジェット病	3
2	基底細胞癌	36		その他	17
3	悪性黒色腫	11		計	124
4	皮膚腫瘍	5			

#### (2) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	良性腫瘍	1,107	5	皮膚筋炎	4
2	熱傷	105	6	全身性エリテマトーデス	2
3	血管炎	44		計	1,270
4	全身性強皮症	8			

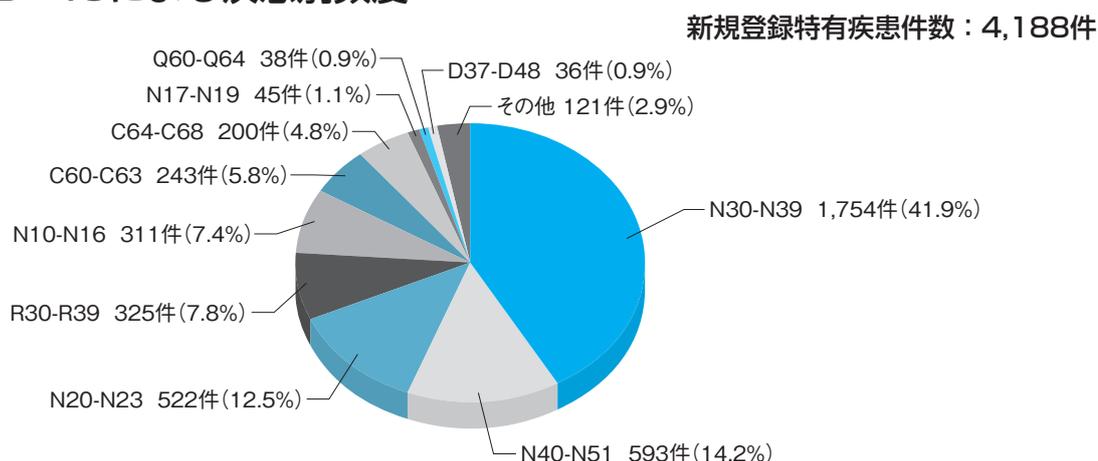
# 泌尿器科

## 1. 概要

2015年は、荒木副部長、山本医師の異動、一方で小嶋医長の復帰、河野医師の参加など当科の体制が大きく変わった一年であった。女性骨盤外科領域はやむなく縮小となったが、逆に小嶋、寺島両医長が中心となり、名古屋大学の協力も得て、泌尿器科腹腔鏡下手術の再導入も行われ、何とか当科が担うべき医療サービスの質、量を維持することができたと考えている。とは言え、東三河地区における当院への一極集中は続き、繁忙の程度は増すばかりである。当科の柱である泌尿器悪性腫瘍に対する小切開手術は長井、田中両部長を中心に全国のトップクラスを維持し、また、ロボット支援前立腺全摘術は患者が当初の予想を大きく上回るほどに増加しており、全国的に見ても泌尿器がん治療における当科の地位は確立されているといえる。さらには新たに腎がんに対するロボット支援手術導入の準備も始まり、本年は当科の新たなスタートの一年であったと感じている。

(第一部長 長井 辰哉)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

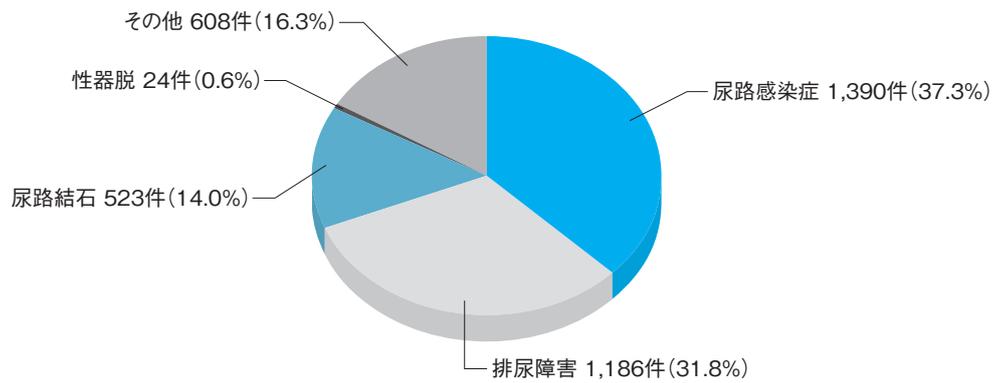


ICD-10 中間分類項目
N30-N39：尿路系のその他の疾患
N40-N51：男性生殖器の疾患
N20-N23：尿路結石症
R30-R39：腎尿路系に関する症状及び徴候
N10-N16：腎尿細管間質性疾患
C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
C64-C68：腎尿路の悪性新生物
N17-N19：腎不全
Q60-Q64：腎尿路系の先天奇形
D37-D48：性状不詳又は不明の新生物

### 3. 活動報告

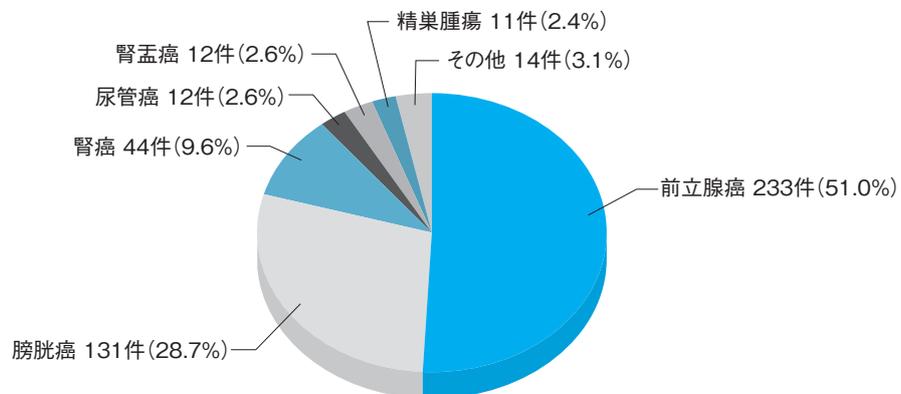
(1) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：3,731件



(2) 悪性新生物の疾患別頻度

総件数：457件



# 放射線科

## 1. 概要

2015年1月には石原部長、高田副部長、中道医員、澤田医員の4人であったが、3月末で澤田医員が異動となり、2015年12月には、石原、高田、中道の3人で診療している。

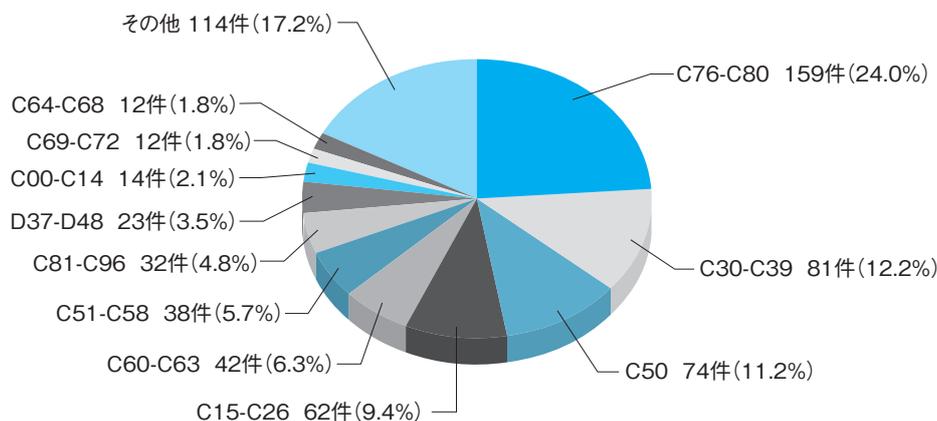
この1年間の業務実績は、読影が30,107件（CT 20,955件、MRI 7,980件、アイソトープ 1,172件）であった。その他、血管造影・IVR 94件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法6件、骨転移に対するストロンチウム治療2件、放射線治療の新患331件であった。

2015年以降に向けての活動としては、放射線治療装置の更新・増設やPET/CT、SPECT/CT導入の最後の詰めを行った。

（部長 石原 俊一）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：663件



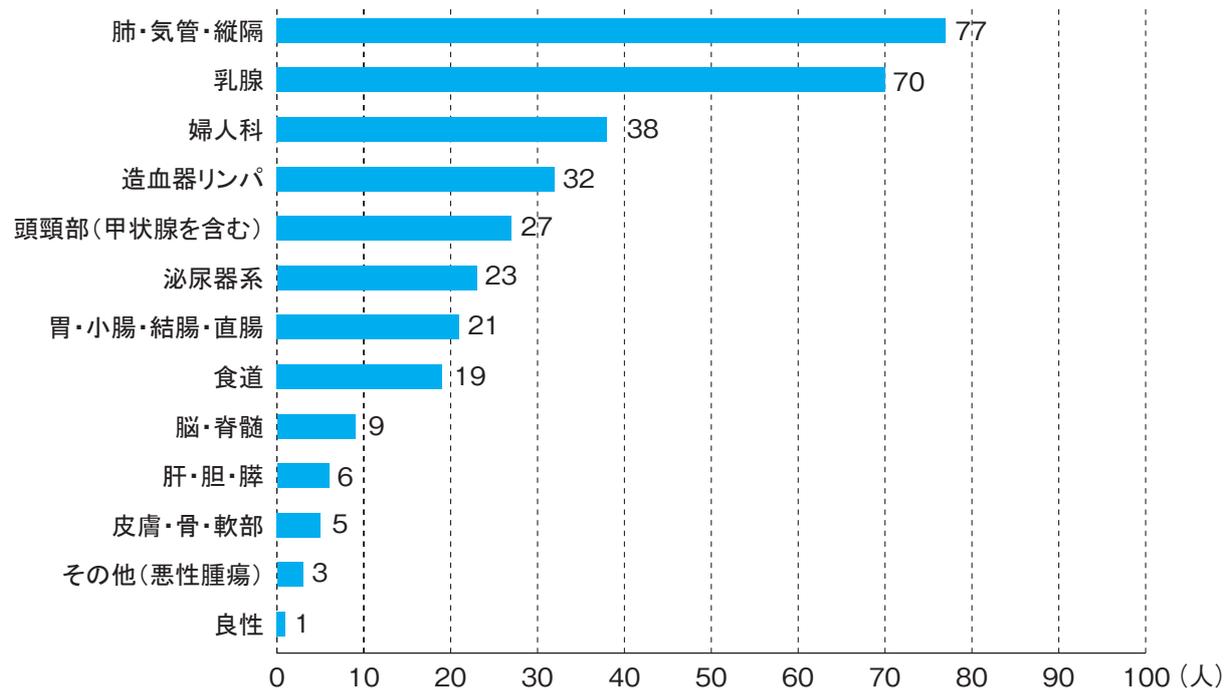
### ICD-10 中間分類項目

- C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
- C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
- C50：乳房の悪性新生物
- C15-C26：消化器の悪性新生物
- C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
- C51-C58：女性生殖器の悪性新生物
- C81-C96：リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物
- D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
- C00-C14：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
- C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物
- C64-C68：腎尿路の悪性新生物

### 3. 活動報告

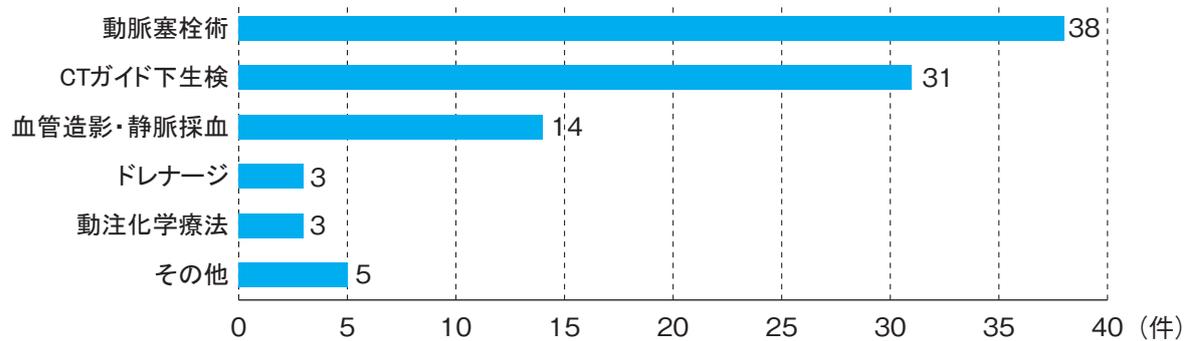
(1) 放射線治療原発部位別患者数

総患者数：331人



(2) 血管造影・IVR 手技別患者数

総患者数：94人



# 麻酔科（ペインクリニック）

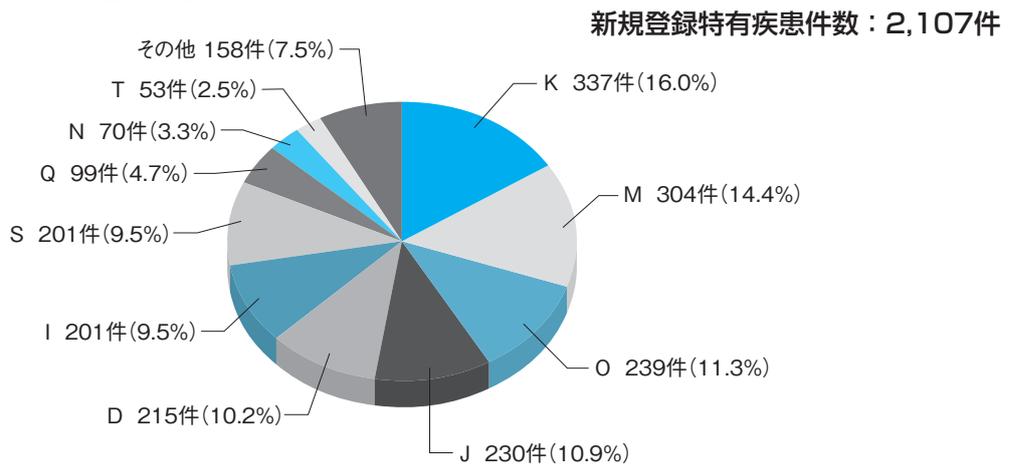
## 1. 概要

2015年は他院からの帰局が1名あったため、麻酔科医は12名歯科麻酔科医1名に増加した（ただし産休育休取得者が1名）。年間の総手術件数は8,207件であり、全身麻酔件数は3,747件であった。麻酔科管理症例は2,647件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,405件であった。麻酔科管理の緊急症例は498件あった。麻酔科医の人数が増えた分、麻酔科管理症例が増加した。新型超音波診断装置を追加購入することにより、神経ブロックの精度を上げることができた。McGRATH MACも14台に増やして全部屋に完備でき、挿管困難対策が増々充実した。デスフルラン気化器が7台に増えた。現在麻酔関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻酔環境が整いつつある。幸いにも2016年には研修医から1名の入局予定があり、将来に向け明るい光がさしてきている。

（第一部長 寺本 友三）

## 2. ICD-10による疾患別頻度

### (1) 悪性新生物以外の疾患別頻度

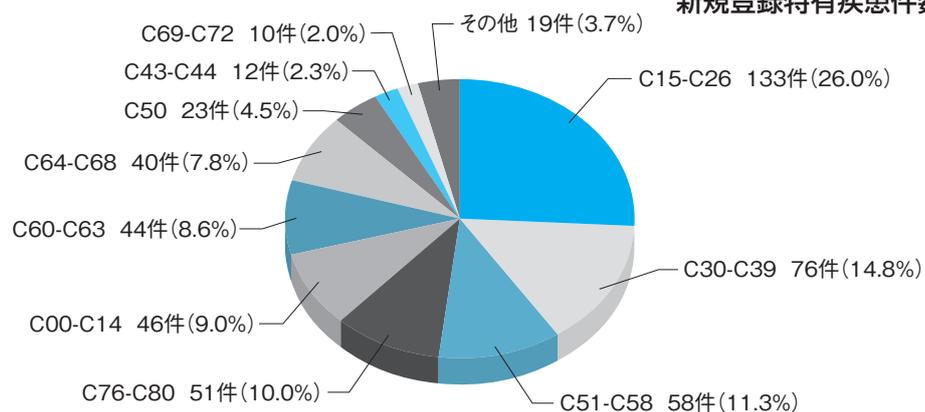


### ICD-10 大分類項目

- K：消化器系の疾患
- M：筋骨格系および結合組織の疾患
- O：妊娠、分娩および産じょく〈褥〉
- J：呼吸器系の疾患
- D：新生物／血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
- I：循環器系の疾患
- S：損傷、中毒およびその他の外因の影響
- Q：先天奇形、変形および染色体異常
- N：腎尿路生殖器系の疾患
- T：損傷、中毒およびその他の外因の影響

(2) 悪性新生物の疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：512件



ICD-10 中間分類項目
C15-C26：消化器の悪性新生物
C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物
C51-C58：女性生殖器の悪性新生物
C76-C80：部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物
C00-C14：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
C60-C63：男性生殖器の悪性新生物
C64-C68：腎尿路の悪性新生物
C50：乳房の悪性新生物
C43-C44：皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物
C69-C72：眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物

### 3. 活動報告

#### (1) 主要備品（2016年分も含む）

##### 1. 患者監視装置

- ① Philips 社製 セントラルモニタ IntelliVue インフォメーションセンタ 1 式（2 画面）
- ② Philips 社製 IntelliVue MP 50、70、90（11 台）、MX700（5 台）、MX800（1 台）

##### 2. 手術部門システム Philips 社製 ORSYS-TETRA 電子カルテと連動

術前術後診察機能、同意書作成機能、血中濃度シュミレーター付、縦型19インチタッチパネルモニタ14台、看護端末14台とデータ連係、ステータスマニタ5台、管理端末6台、Web機能によりすべての電子カルテ端末より参照可

##### 3. 超音波診断装置

- ① 心臓麻酔用 GE 社製 Vivid i 1 台
- ② 中心静脈穿刺用 GE 社製 Venue40 Anesthesia 1 台
- ③ 神経ブロック用ソノサイト社製 S-Nerve 1 台
- ④ 神経ブロック用 GE 社製 LOGIQ e Premium 1 台

##### 4. 静脈麻酔システム

- ① テルモ社製ディプリバン専用TCIポンプ 16台
- ② テルモ社製シリンジポンプ 72台（手術室内麻酔科専用分のみ）
- ③ 集中電源装置と架台14式（手術室9部屋分が最新型、手術室5部屋分が通常型）

##### 5. 挿管支援器具

- ① ペンタックス社製 エアウェイスコープ 10台
- ② McGRATH MAC 14台

#### (2) 2015年 科別麻酔科管理件数

実施診療科	件数(件)
整形外科	480
産婦人科	463
耳鼻いんこう科	340
一般外科	339
歯科口腔外科	248
呼吸器外科	163
脳神経外科	142
小児外科	140
心臓外科・血管外科	112
泌尿器科	98
皮膚科	29
移植外科	28
リウマチ科	18
小児科	15
眼科	12
形成外科	11
血液・腫瘍内科	8
麻酔科	1
計	2,647

# リハビリテーション科

## 1. 概要

リハビリテーション科の診療はリハビリテーションセンターと、院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞、神経難病を中心として、また当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

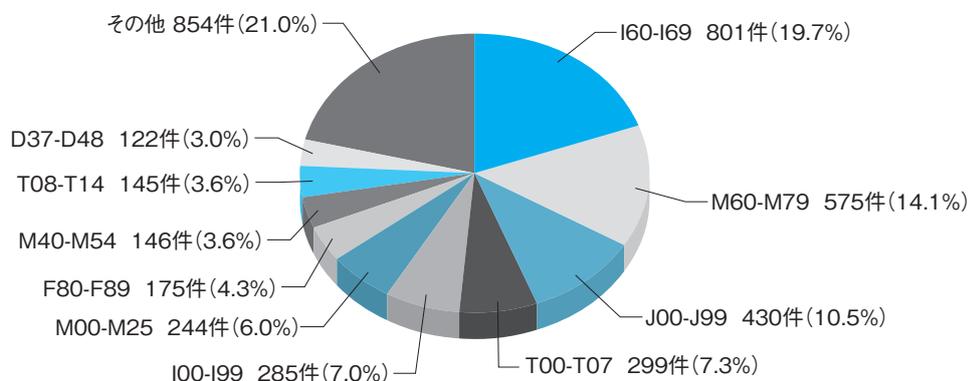
入院診療は、脳卒中、頭部外傷、脳神経や脊髄神経の疾患に対する脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、心筋梗塞・狭心症や心不全の心大血管リハビリ、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器リハビリ、また嚥下障害に対する嚥下リハビリを行っている。当院では、急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2015年には、がん治療目的に入院されている方への個別療法であるがん患者リハビリに対応可能なスタッフを増員した。また、入院患者の日常生活動作を維持・向上するためのリハビリ体制構築を準備している。

(部長 石川 知志)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：4,076件



ICD-10 中間分類項目
I60-I69：脳血管疾患
M60-M79：軟部組織障害
J00-J99：呼吸器系の疾患
T00-T07：多部位の損傷
I00-I99：循環器系の疾患
M00-M25：関節障害
F80-F89：心理的発達の障害
M40-M54：脊柱障害
T08-T14：部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷または部位不明の損傷
D37-D48：性状不詳または不明の新生物

### 3. 活動報告

(1) リハビリテーションセンター利用状況

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
延患者数(人)	93,731	92,919	93,191
1日平均(人)	385.7	380.8	381.9
外来開院日数	243日	244日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

## 病理診断科

### 1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また、病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。

2015年の病理組織検査の依頼件数は12,199件で、そのうち術中迅速診断は463件であった。病理解剖は27件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。

さらに豊橋市立看護専門学校の講義を要請され、52時間担当した。

(部長 前多 松喜)

# 臨床検査科

## 1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設された。以来、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会臨床検査管理医を取得している。

高度医療に対応するため、臨床検査の正確度の維持向上を目的とし、内部精度管理、外部精度管理の充実を目標にしている。外部精度管理として日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加しており、2015年度も優秀な成績をおさめている。

検体検査に基づいたパニック値や重大な結果等は直ちに臨床側に報告され、迅速な対応に協力している。2015年7月31日からは、CRP10.0mg/dL以上でのパニック値報告を開始している。以降、CRPに関しては毎月70～90件ほどのパニック値報告をさせていただいている。

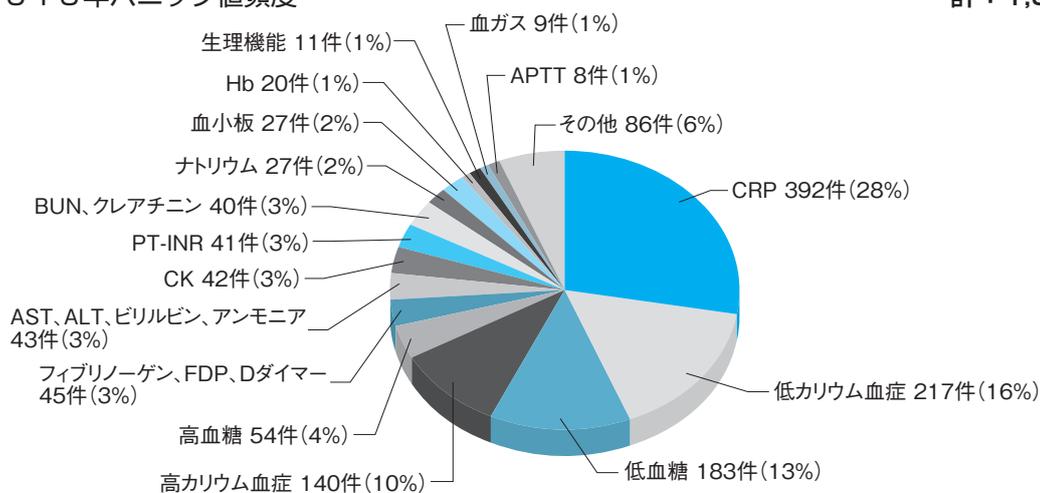
また、症例検討を含む勉強会を定期的に行い、中央臨床検査室の臨床的知識・能力の向上のため尽力している。

(副部長 出井 里佳)

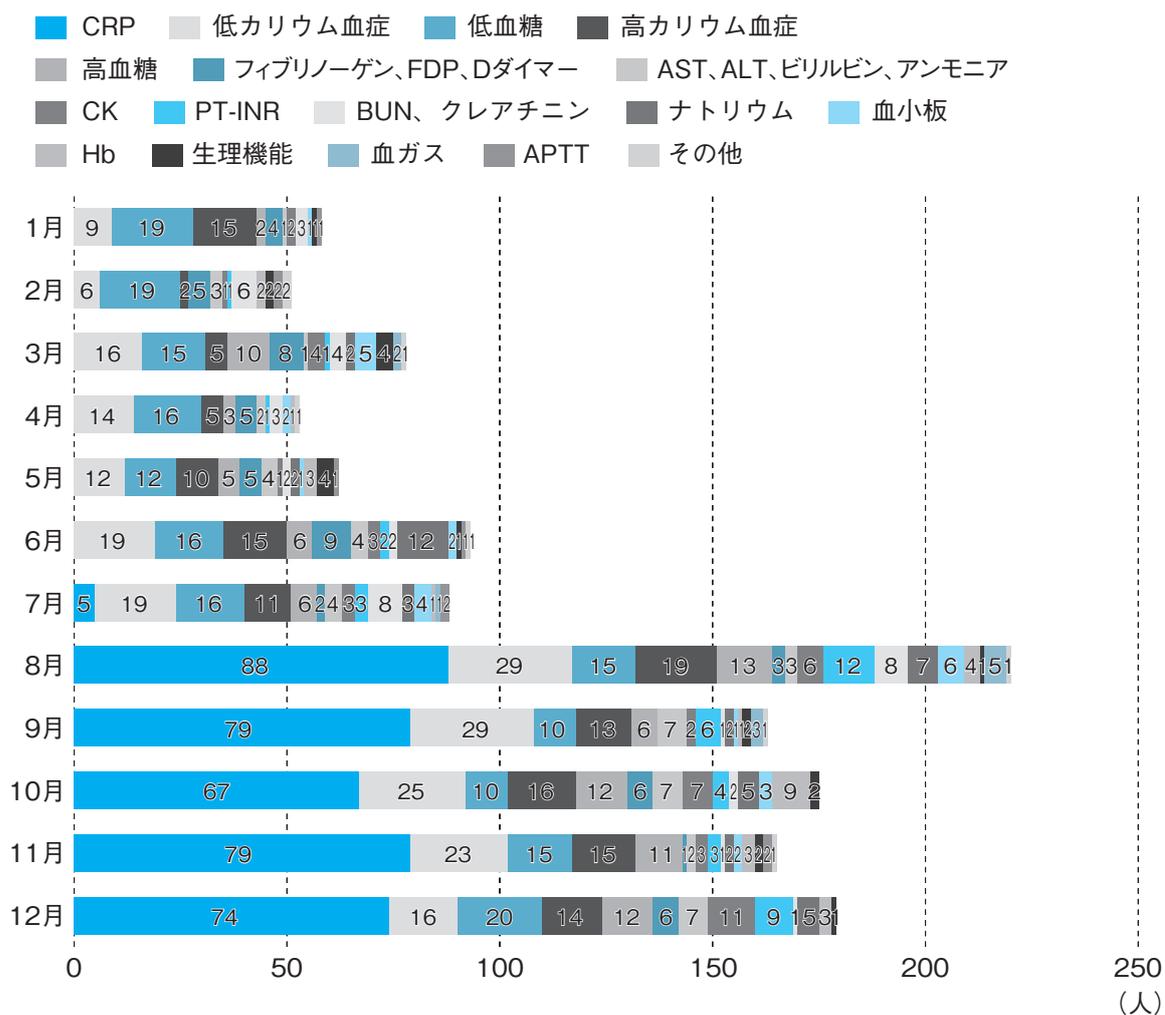
## 2. 活動報告

### (1) 2015年パニック値頻度

計：1,385件



(2) 2015年 月別パニック値報告



(3) 中央臨床検査室勉強会

開催月	議 題
2015年 1月	ビタミンB1欠乏症
2015年 3月	ビタミンB1欠乏症
2015年 4月	高カルシウム血症
2015年 5月	高カルシウム血症
2015年 6月	検査値の読み方
2015年 7月	高LDH症
2015年 8月	高LDH症
2015年 9月	低アルブミン症
2015年10月	高CRP症
2015年11月	高CRP症

# 歯科口腔外科

## 1. 概要

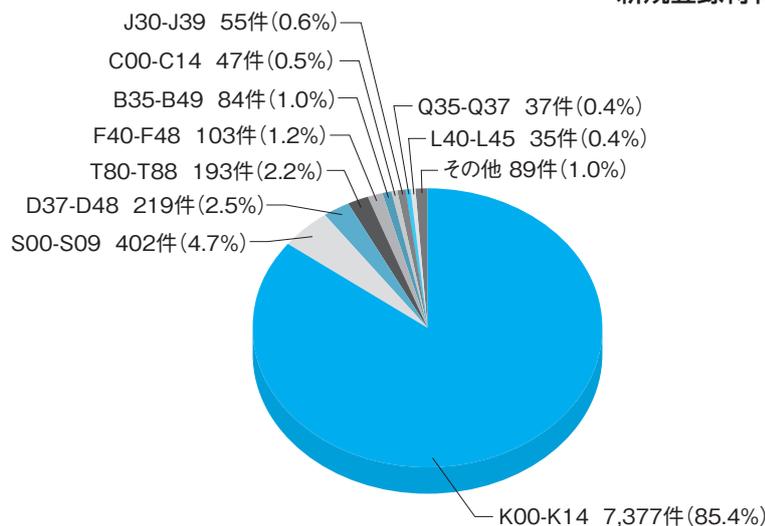
外来初診症例においては2012年度からの周術期口腔管理の保険導入以後、院内医科との連携を着実に取りつつ進めたため、昨年度に比較して入院中の口腔管理目的の院内紹介患者数が大幅に増加している。初診症例でも豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただき、各疾患分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。今後も例年通り地域医療連携を密にとりつつ患者数の維持に努めたい。入院症例では、各疾患分野において多少の増減はあるがほぼ例年通りの症例数を維持している。例年通り埋伏智歯の抜歯症例が多くを占めるが、悪性腫瘍の入院症例数はここ数年で増加傾向を認めている。結果として昨年よりも外来初診症例数、および入院症例数ともに増加している。

(部長 嘉悦 淳男)

(文責 医長 寺沢 史誉)

## 2. ICD-10による疾患別頻度

新規登録特有疾患件数：8,641件



### ICD-10 中間分類項目

- K00-K14：口腔、唾液腺及び顎の疾患
- S00-S09：頭部損傷
- D37-D48：性状不詳又は不明の新生物
- T80-T88：外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの
- F40-F48：神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
- B35-B49：真菌症
- C00-C14：口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物
- J30-J39：上気道のその他の疾患
- Q35-Q37：唇裂及び口蓋裂
- L40-L45：丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害

### 3. 活動報告

(1) 外来初診症例数2015年

疾患名	件数(件)
一般歯科疾患	545
口腔歯の形態異常	1,063
顎顔面の形態異常	43
口唇口蓋裂	13
炎症感染症	190
顎関節疾患	162
粘膜疾患	190
外傷	352
嚢胞	130
良性腫瘍	119
神経疾患	54
唾液腺疾患	48
悪性腫瘍	31
口腔機能疾患	12
口腔管理	884
その他	5
計	3,841

(2) 入院症例数2015年

疾患名	件数(件)
嚢胞	38
外傷	23
炎症感染症	16
悪性腫瘍	67
口唇口蓋裂	32
顎変形症	6
良性腫瘍	40
唾石	9
埋伏歯等抜歯	219
その他	9
計	459

## 医療安全管理室

### 1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月、医療安全の推進を図るため院長直属の専門部署として設置された。医療の基本条件・最優先課題とされる「患者の安全を確保すること」の実現に向け、副院長を室長として、6名の専従職員と4名の兼務職員による11名で組織されている。

患者さんが安心して安全で質の高い医療を受けられる環境を整備することを目標として、医療事故の発生原因を発見し、不断に改善することによって発生を未然に防ぐ取り組みを行っている。

目標の達成に向け、インシデント報告の内容を検討・分析し、医療安全対策等に反映させ、医療事故発生防止のための講習会を開催している。

また、発生した医療事故については、原因究明・解決のため「事例検討会」を開催し、患者・家族への説明を行うほか、医療訴訟事案への対応などの業務を行っている。

(主幹 梅藤 茂敏)

# 卒後臨床研修センター

## 1. 概要

卒後臨床研修センターは研修医に対する研修体制の充実のため、主に指導・評価体制の構築と、上級医の常駐による救急科研修の強化に取り組んできた。また研修医確保のため、医学生向け院内病院説明会の開催に加え、高校生を対象とした1日医師体験を初めて開催し、高校生への情報発信を行った。研修医を含めた卒後臨床研修センタースタッフが一丸となりこれらの取り組みを行った結果、今年度も定員を満たすことができた。

2016年度は新たにメンター指導医・専任指導医制度の導入を予定しており、さらなる研修・指導体制の強化を目指している。また継続した広報活動により、研修医の定員確保を目標としている。

そして、2016年秋にシミュレーション教育センターが完成するため、研修医へのシミュレータを用いたトレーニング体制を充実させていく予定である。

(センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

平成27年7月～平成28年3月	研修管理委員会	*全2回
平成27年7月～平成28年2月	研修委員会	*全4回
平成27年6月～平成28年1月	研修医ミーティング	*全4回

### (2) 行事

平成27年4月1日～7日	初期臨床研修医オリエンテーション
平成27年4月3日	初期臨床研修医歓迎会
平成27年4月～9月	救急医学講座 *全23講座
平成27年5月6日	東海北陸地区臨床研修病院合同説明会（レジナビ） *当院ブース来場者 161人
平成27年7月11日	医学生向け 病院説明会（院内）*参加者 25人
平成27年8月28日	高校生1日医師体験 *参加者 18人
平成27年8月20日～22日	平成28年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 29人 歯科 3人 *マッチング数 医科 17人（フルマッチ） 歯科 1人（フルマッチ）
平成28年3月31日	平成26年卒初期臨床研修修了 *進路 院内 医科 13人 院外 医科 1人、歯科 1人

# 救急外来センター

## 1. 概要

当院の救命救急センターは、東三河地区唯一の救命救急センターとして、1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。救命救急センターは、主に救急外来センターと重症例が入院する救急入院センター・ICU部門に分かれ、24時間体制をとっている。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝カンファランスを行い、また月例のICLSを開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに、質の向上を目指している。

(センター長 鈴木 伸行)

## 2. 活動報告

### (1) 年齢別受診患者数（平成27年度）

区分	内科		外科		心臓血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)										
80歳以上	782	33.0	170	20.2	159	22.7	121	15.8	91	16.4	1,323	25.3
70～79歳	568	23.9	200	23.7	195	27.9	209	27.2	147	26.5	1,319	25.2
60～69歳	465	19.6	266	31.6	231	33.0	182	23.7	110	19.8	1,254	23.9
50～59歳	267	11.2	104	12.3	75	10.7	105	13.7	39	7.0	590	11.3
40～49歳	163	6.9	36	4.3	21	3.0	67	8.7	50	9.0	337	6.4
30～39歳	60	2.5	38	4.5	5	0.7	24	3.1	35	6.3	162	3.1
20～29歳	31	1.3	13	1.5	1	0.1	35	4.6	36	6.5	116	2.2
10～19歳	37	1.6	15	1.8	13	1.9	14	1.8	32	5.8	111	2.1
0～9歳	0	0.0	1	0.1	0	0.0	11	1.4	15	2.7	27	0.5
計	2,373	100	843	100	700	100	768	100	555	100	5,239	100

## (2) 院内 ICLS

ICLS	第111回	第112回	第113回	第114回	第115回	第116回	第117回	第118回	第119回	第120回	第121回	第122回	合計	
開催日	4月2日	5月12日	6月11日	7月9日	8月13日	9月10日	10月8日	11月19日	12月10日	1月14日	2月18日	3月10日		
受講生	院内	19	5	8	9	7	6	9	7	8	5	6	5	94
	院外	0	0	4	3	3	2	0	1	0	5	2	4	24
	合計	19	5	12	12	10	8	9	8	8	10	8	9	118
スタッフ	10	5	12	11	10	8	9	8	12	10	11	11	117	

## (3) 東三河外傷セミナー (JPTEC)

名 称	第54回 東三河外傷セミナー JPTEC プロバイダーコース
日 時	2015年5月30日(土) 8:30~18:20
場 所	豊橋市立看護専門学校
コース担当責任医師	豊橋市民病院 鈴木 伸行
勤務者受講数	研修医・・・19名 受講・修了
	看護師・・・2名 受講・修了

事前勉強会 (第54回 東三河外傷セミナー対策)	5月15日(金)
	5月22日(金)
	5月26日(火)

## (4) AHA・BLS

名 称	AHA・BLSヘルスケアプロバイダーコース
日 程	2015年5月24日(日)
勤務者受講数	研修医・・・19名 受講・修了
	看護師・・・4名 受講・修了

# 救急入院センター

## 1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 平松 和洋（一般外科兼任）、副センター長 中島 基晶（麻酔科兼任）、菅沼 伸一（呼吸器内科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきており、特定救命救急病床加算算定件数においては、2013年度は2,713件、2014年度は1,950件、本年度は1,591件と2年連続減少傾向にある。2015年4月～2016年3月までの各月の推移は以下のグラフのごとくである。加算の多くは例年通り3日以内で、昨年の統計と比較すると冬に多く、夏から秋にかけて減少する傾向は変わっていない。月ごとや、加算内容に大きな変化はなく、減少は患者全体の減少によるものと考えられた。

例年通り本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2015年度は特に大きな問題なく経過した。

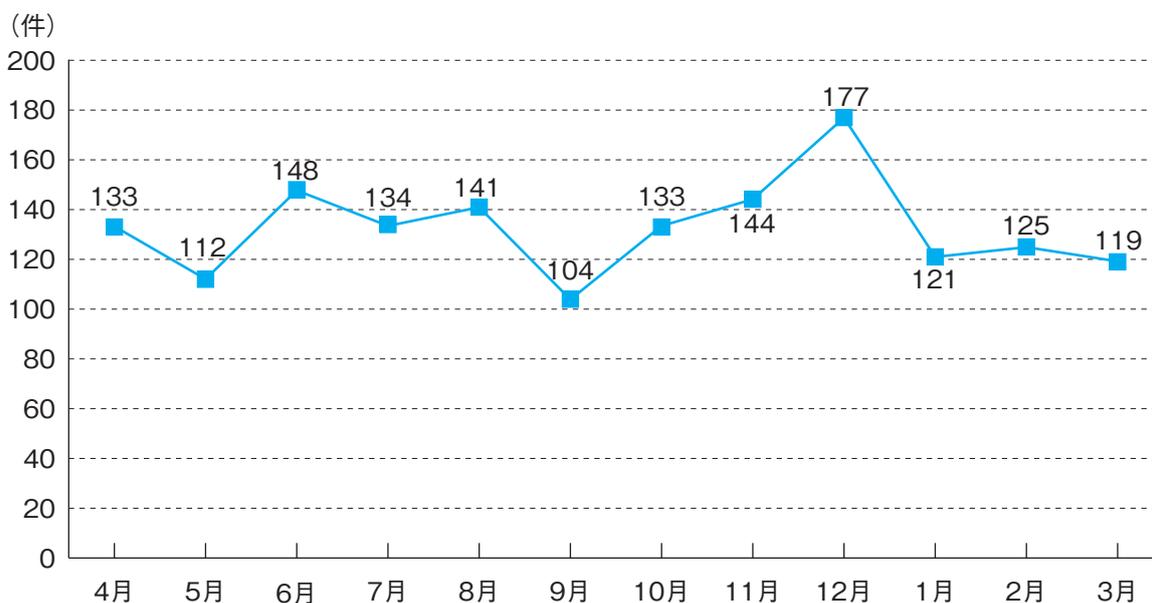
（センター長 平松 和洋）

## 2. 活動報告

### (1) 平成27年度 救命救急入院料算定件数

点数名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
救命救急入院料 (3日以内)	104	93	102	105	109	89	114	99	137	109	103	108	1,272
救命救急入院料 (4日以上7日以内)	19	14	28	17	23	8	15	26	29	9	15	8	211
救命救急入院料 (8日以上14日以内)	10	5	18	12	9	7	4	19	11	3	7	3	108
計	133	112	148	134	141	104	133	144	177	121	125	119	1,591

### (2) 平成27年度 救命救急入院料算定件数



# 集中治療センター

## 1. 概要

集中治療センターでは、日々重症な患者さんと向き合い診療を行っている。複雑な病態を理解するだけでなく、それに対する多種類の薬を様々なルートから様々な方法で投与しなくてはなりません。そのため多種類の医療器械があり、これにも精通していません。人工呼吸器やIABP、人工心肺装置、血液浄化装置など命に直結する医療器械もその中に含まれている。さらにはご家族への気配りも、重症者であるが故の難しさがああり、これらを短い時間でこなしていかななくてはならないため、スタッフには強い緊張とストレスが強いられている。各スタッフが十分実力を発揮できるよう、ここを利用される関係職員方々にも是非ご協力をお願いしたいと日々思っている。

(センター長 中山 雅人)

## 2. 活動報告

### 入院患者の主病名分類

大 分 類	件
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	17
新生物 (C00-D48)	468
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	8
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	21
精神および行動の障害 (F00-F99)	10
神経系の疾患 (G00-G99)	50
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患 (I00-I99)	437
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	125
消化器系の疾患 (K00-K93)	201
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	2
筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	34
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	39
妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	6
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	41
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	10
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	132
傷病および死亡の原因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用 (Z00-Z99)	0
計	1,601

## 周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

### 1. 概要

愛知県より東三河初の総合周産期母子医療センターに指定されてから2年が経過した。東三河の周産期医療の基幹病院として多くの母体搬送や産褥搬送を受け、小児科新生児医師とともに対応し治療を行っている。総合周産期母子医療センターに指定されると、産婦人科医師2名当直が必要になるので、当直回数が倍に増え医師の負担が増加した。また超緊急帝王切開は、帝王切開が必要と診断してから30分以内に児を娩出することが義務づけられており、これは24時間体制で行わねばならずそのための準備が必要だった。手術室看護師の体制、麻酔科医師の協力、産科病棟看護師のトレーニングなどである。オープン前はとても心配したが皆さまの協力もあり何とか軌道に乗った。母体搬送応需率は98.3%（235/239）と県内6つの総合周産期母子医療センターで一番高い受け入れ率を実現している。今後とも高度な周産期医療を提供できるように努力していきたいと考えている。

（センター長 河井 通泰）

### 2. 活動報告

総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門）の主な症例数

	2014年（4-12月）	2015年（1-12月）
超緊急帝王切開術	15	22
うち30分以内児娩出	12（80%）	22（100%）
うち他施設からの搬送	6（40%）	8（36.4%）
母体死亡	0	0
母体搬送受け入れ総数	211	242
母体搬送応需不可数	4	7
母体搬送応需率	98.1%	97.2%
		（平成27年度としては98.3%）

※他の産科データは産婦人科の項目を参照

## 周産期母子医療センター（新生児部門）

### 1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は対応可能な疾患である限り断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、2015年は地域で周産期医療に携わる医師、助産師などを対象に、計10回の新生児蘇生法講習会を開催した。さらにセンター長（新生児部門）の小山典久は愛知県周産期医療協議会副会長として、県の周産期医療体制整備や計画立案にも参画した。厚生労働省は出生1,000人に対して2.5から3床のNICUが必要と公表している。これを受け愛知県では平成27年度末までに県内のNICUを180床以上（210床程度まで）に増床する整備計画を立てていたが未達成である。東三河に必要なNICUは15-18床と試算されており、今後の整備が期待される。

（センター長 小山 典久）

## 総合生殖医療センター

### 1. 概要

当院で産婦人科有井吉太郎部長（当時）の尽力により体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年である。実務に携わり速やかに東三河初となる出産例に貢献したチームリーダーは名古屋大学医学部附属病院分院より着任した北川武司医師であり、鈴木範子臨床検査技師が現在まで継続して業務に携わっている唯一のスタッフである。1999年4月1日には、ARTなどの専門化された不妊治療を行う不妊センターが設置され、初代部長として菅沼信彦名古屋大学医学部附属病院助教授が着任した。2007年4月1日、不妊センターは装いを新たにし、1つの技術に頼らず健全な妊娠・分娩・生命の誕生をめざして様々な高度の生殖医療を統合的に提供するという意味も含め、総合生殖医療センターとなった。これに伴い、不妊センター2代目部長として2006年3月に名古屋大学医学部附属病院助教授から着任していた安藤寿夫が、初代センター長となり、同年世界初となる全受精卵タイムラプス胚培養導入など施設の充実を図り現在に至っている。

（センター長 安藤 寿夫）

# リハビリテーションセンター

## 1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成されている。診療部門は、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門は、起居動作・移動動作など基本的動作能力回復目的の運動療法、また呼吸器疾患、心疾患における合併症・術後の二次的障害予防・機能回復を目指した特殊的運動療法も行う。筋電図、重心動揺検査、筋力測定、心肺運動負荷試験など機能評価も行っている。作業療法部門は、生活の中で行う動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助を行う。上肢の機能評価、記憶障害・注意障害・遂行機能障害など高次脳機能障害の評価、知能検査も行っている。言語聴覚療法部門は、脳血管障害や脳の外傷、あるいは発声器官の疾患により失語症や構音障害を生じた患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行っている。また、摂食・嚥下障害患者の機能の回復目的の訓練・指導も行う。

(センター長 石川 知志)

## 2. 活動報告

### (1) 利用状況

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
延患者数(人)	93,731	92,919	93,191
1日平均(人)	385.7	380.8	381.9
外来開院日数	243日	244日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

# 血液浄化センター

## 1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の透析）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、少人数の腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科の御支援を頂いている。また、MEや看護師（血液浄化センターのみならず、ICUを始めとする病棟や外来も）等のコメディカルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべくスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

## 予防医療センター

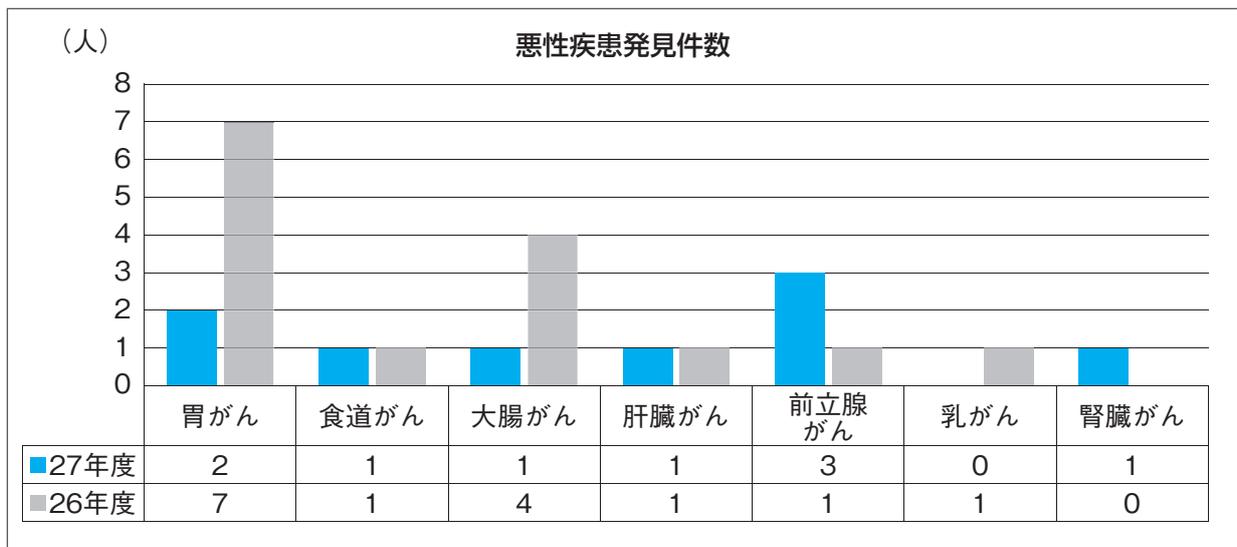
コース名	受診者数 (人)
二日ドック	89
日帰り人間ドック	2,947
脳ドック	448
肺がん検診	28
女性の健康ドック	60
個人健康診断	693
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,777
原爆被爆者健診	60
企業団体健診(注1)	987

注1：企業団体契約、その他を含む。

検査項目	二日ドック (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	88	4	1	1
胸部 X 線	89	5	2	0
胃部 X 線	19	4	2	2
胃カメラ	69	0	0	0
腹部エコー	88	1	0	0
安静時心電図	89	5	2	1
負荷心電図	88	4	4	2
便潜血	85	7	6	2

検査項目	日帰り人間ドック (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	2,934	115	45	9
胸部 X 線	2,936	101	71	2
胃部 X 線	2,046	210	163	57
胃カメラ	810	0	0	0
腹部エコー	2,733	32	20	1
安静時心電図	2,946	122	58	11
便潜血	2,893	134	69	22

検査項目	生活習慣病予防健診 (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	105	2	1	0
胸部 X 線	1,700	48	25	2
胃部 X 線	1,516	180	77	29
胃カメラ	94	0	0	0
腹部エコー	86	1	1	0
安静時心電図	1,705	70	26	3
便潜血	1,657	74	23	11



メタボリック判定実施者 (人)

区分	平成27年度	平成26年度
①基準該当	727	643
②予備軍該当	752	596
③非該当	4,617	4,776

# 輸血・細胞治療センター

## 1. 概要

当院の輸血療法が安全で適切に運用されていることを確認するため、2015年に日本輸血・細胞治療学会の外部委員によるI（inspection 監査）& A（accreditation 認証）を受審し、I & A施設認定を取得した。合わせて以下の規約等を整備した。規約では院内での血液製剤の実際の取扱い規約を定め、改訂が多岐にわたり頻回の適正使用のガイドライン等は厚生労働省、日本輸血細胞治療学会の最新のものを使用することとした。

同種造血幹細胞移植療法の充実を図るため、2015年に東三河地域で初めて、日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植や臍帯血バンクの施設認定を取得した。名古屋大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院などと連携しながら、移植を必要とする患者さんが、適切な時期に適切な移植を受けられるよう体制を整えている。

今後も院内における輸血・細胞療法が安全性・適切性を保ちながら迅速に実施できるよう、輸血関連検査業務と血液製剤およびアルブミン製剤の管理業務、輸血療法委員会の開催、院内監査の実施を継続する。

（センター長 杉浦 勇）

## 2. 活動報告

### A. 定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） \* 6回実施

### B. 新規事業

#### 1) 規約等の整備

- ①輸血療法実施規約 初版
- ②院内血液製剤調整手順書
- ③輸血用試薬・機器管理手順書
- ④輸血療法説明文・同意書の改訂
- ⑤自己血輸血説明文・同意書の改訂
- ⑥その他

日本輸血・細胞治療学会編 「輸血副反応ガイド」の購入、各部署への設置

日本輸血・細胞治療学会 「輸血療法マニュアル」の配布

#### 2) 輸血療法監査チームの設置

運営要領の策定

第一回輸血療法の監査実施

#### 3) 手術センター内に血液製剤専用保冷庫の設置

8番手術室へ設置

C. センター業務実績

①検査件数 (件)

2015年	総数
血液型	17,357
不規則抗体スクリーニング	12,765
交差適合試験	6,163

②製剤使用状況 (単位)

2015年	総数
赤血球液(RBC)	12,282
新鮮凍結血漿 (FFP)	4,484
濃厚血小板(PC)	22,140

③製剤廃棄率 (%)

2015年	廃棄率
赤血球液(RBC)	0.60
新鮮凍結血漿 (FFP)	0.35
濃厚血小板(PC)	0.61

④アルブミン製剤 (本数)

2015年	本数
25%アルブミン	1,316
5%アルブミン	950

⑤副作用集計報告

2015年	副作用報告数(件)	実患者数(人)
赤血球液(RBC)	95	63
新鮮凍結血漿 (FFP)	41	14
濃厚血小板(PC)	255	66

# 感染症管理センター

## 1. 概要

今年、世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局が『日本が麻しんの排除状態にあることを認定した』と発表した。これは、2007年（平成19年）に厚生労働省が告示した『麻しんに関する特定感染症予防方針』で、2015年までに麻しんを排除するという目標を達成したことを意味した。当院では感染症管理センターが中心となり体制整備を行った。麻しんを疑う患者を診察した医師等にウイルス検査のための検体採取や発生届の全数提出を依頼した。地域では医師会や保健所が予防接種の勧奨やその実施を積極的に行った。排除認定はこれらに関わった多くの人々の協力が身を結んだ結果である。

今年、中東及び韓国で流行した中東呼吸器症候群（MERS：Middle East respiratory Syndrome）が二類感染症に、南米を中心に流行が報じられたジカウイルス感染症が四類感染症にそれぞれ規定されたため診療態勢を構築した。市内ではウイルス性と思われる感染性胃腸炎の流行を確認した。

（センター長 浦野 文博）

（文責 高橋 一嘉）

## 2. 活動報告

### ●感染症発生動向調査

#### ①全数報告

（件）

類型	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
二類	結核	37	42	29
三類	細菌性赤痢	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	2
	パラチフス	0	0	1
四類	A型肝炎	1	1	0
	つつが虫病	0	0	1
	デング熱	1	1	0
	マラリア	0	0	1
	レジオネラ症	8	3	1
五類	アメーバ赤痢	2	0	0
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	0	1	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0
	急性脳炎	0	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	0
	後天性免疫不全症候群	3	2	0
	侵襲性髄膜炎感染症	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	4	2
	梅毒	0	1	0
	破傷風	0	0	0
	風しん	0	1	6
	麻しん	2	0	2

## ②小児科定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	RSウイルス	192	108	108
	咽頭結膜熱	0	1	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	20	24
	感染性胃腸炎	770	176	257
	水痘	8	13	16
	手足口病	15	2	16
	伝染性紅斑	10	0	0
	突発性発疹	11	2	3
	百日咳	12	2	4
	ヘルパンギーナ	23	18	14
	流行性耳下腺炎	48	2	4

## ③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	細菌性髄膜炎	7	2	7
	無菌性髄膜炎	2	1	1
	マイコプラズマ肺炎	28	29	185
	クラミジア肺炎	0	0	0
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	21	8	0
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	182	195	196
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	1	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0

## ④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	インフルエンザ	486	916	526

## ⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2015年度	2014年度	2013年度
週報	インフルエンザ（入院患者）	77	115	83

## ⑥職員の感染曝露

(件)

	2015年度	2014年度	2013年度
針刺し・切創（EPI-Net A）	58	54	48
皮膚・粘膜汚染（EPI-Net B）	5	6	12
院内結核曝露	4	3	6

## ⑦職員健康外来

(件)

	2015年度	2014年度	2013年度
延べ受診者数	136	136	199

## 外来治療センター

### 1. 概要

当センターは2006年5月より20床で運用を開始し、2013年1月に22床に増床し現在に至る。化学療法部会で承認された治療レジメンに医師がオーダーし、薬剤師による薬剤監査をするが、当センターでは主治医自身あるいは担当科の医師が当日各科外来で患者の診察を実施しないと治療が開始されない。

外来治療センターの利用はスケジュールの工夫で、曜日によっては希望通りに治療ができない場合がある以外は、大きな支障は起きなかった。今年度は血管留置カテーテル等からの抗がん剤の漏出予防に対する対策と化学療法前に化学療法による劇症化のリスクのあるB型肝炎既往者を見落とさない対策に取り組んだ。また専門・認定薬剤師による薬剤指導はすでに実施していたが、がん患者指導管理料3の算定漏れにも対応した。

(センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### ●外来治療センター 治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(才)		63.1	63.7	63.2	64.0	63.5	63.8	63.4	63.2	63.1	62.5	63.5	63.6		63.4	
男(人)		343	297	335	384	340	358	322	315	319	348	350	411	4,122	343.5	
女(人)		372	349	380	389	345	334	373	339	346	378	328	355	4,288	357.3	
がんに関する治療	内科	282	258	284	333	286	285	296	293	289	319	301	353	3,579	298.3	
	外科	239	210	221	206	189	198	205	179	198	219	203	225	2,492	207.7	
	泌尿器科	12	9	8	11	11	7	5	5	4	5	4	6	87	7.3	
	耳鼻いんこう科	6	6	11	13	9	12	2	3	6	9	7	4	88	7.3	
	婦人科	40	46	45	58	42	47	47	38	40	41	36	40	520	43.3	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	14	9	13	17	19	15	14	13	13	13	16	11	167	13.9	
	小計	593	538	582	638	556	564	569	531	550	606	567	639	6,933	577.8	
	初回	51	48	62	61	37	44	48	42	44	57	35	37	566	47.2	
	内訳	乳腺	119	106	118	99	92	95	99	97	113	113	103	98	1,252	104.3
		大腸	106	76	77	80	75	77	78	62	61	75	60	89	916	76.3
		血液	173	155	166	196	160	154	139	150	131	151	143	167	1,885	157.1
		肺	46	56	66	77	72	82	90	75	97	89	80	94	924	77.0
		胆膵	57	49	50	60	53	48	64	54	55	67	68	92	717	59.8
		胃	18	26	24	27	21	25	27	33	29	42	46	38	356	29.7
		前立腺	12	9	9	11	7	6	5	5	4	5	5	8	86	7.2
		その他	62	61	68	87	76	77	67	55	59	64	61	60	797	66.4
がん以外の治療	内科	44	29	45	45	47	41	39	40	29	40	31	42	472	39.3	
	整形外科	1	1	0	0	1	0	6	0	1	0	1	0	11	0.9	
	リウマチ科	70	75	81	86	75	80	75	76	80	74	72	80	924	77.0	
	皮膚科	7	3	7	4	6	7	6	7	5	6	7	3	68	5.7	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.2	
	小計	122	108	133	135	129	128	126	123	115	120	111	127	1,477	123.1	
合計(人)		715	646	715	773	685	692	695	654	665	726	678	766	8,410	700.8	
1日平均(人)		34.0	35.9	32.5	35.1	32.6	36.4	33.1	34.4	35.0	38.2	33.9	34.8	416.0	34.7	
1日平均(分)		120.5	129.2	130.0	126.1	124.8	128.2	126.3	124.4	127.0	132.8	130.5	124.2	1,524	127.0	

# 手術センター

## 1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行なわれるよう各診療科・麻酔科医・病棟および手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴を備えている。

- ①高度先進医療（内視鏡下手術、移植手術、顕微鏡下手術、ロボット支援下手術、脳死臓器提供手術）の施行
- ②総合周産期母子医療センターの要望に応じ、超緊急手術に対応
- ③ハイリスク患者手術に対応
- ④研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士などの見学や実習

### 【設備概要】

手術診療科 15

手術室 13（バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室）

空気清浄度 クラス100（1室）、クラス1000（1室）、クラス10000（10室）

スタッフ 看護師48人（2交代制で、夜勤者2人、自宅待機2人体制）

また、2015年度の主な実績としては、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）が計100例を超えたことや、超緊急手術枠を設け、必ず一室を空けておくことで全科の超緊急手術に対応できるようにしたことである。

（センター長 雄山 博文）

## 2. 活動報告

### ①平成27年度手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	1,480
呼吸器外科	204
心臓血管外科	128
小児外科	138
移植外科	37
整形外科	1,385
リウマチ科	33
形成外科	8
脳神経外科	344
産婦人科	1,260
耳鼻いんこう科	411
皮膚科	101
泌尿器科	567
眼科	1,081
歯科口腔外科	410
生殖医療	492
内科	91
小児科	9
その他	0
計	8,179

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	3,800
静脈麻酔	240
腰椎麻酔	1,385
局所麻酔	1,907
伝達麻酔	396
無麻酔	447
その他	4
計	8,179
(うち緊急手術)	1,225
割合	14.97%

### ②平成27年度腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	355
ロボット支援下直腸腫瘍手術	24
ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	3
呼吸器外科	128
小児外科	63
整形外科	101
リウマチ科	1
産婦人科	508
腹腔鏡下子宮頸がん根治手術	0
ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	0
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	14
腹腔鏡下子宮がん手術	7
泌尿器科	122
ロボット支援下前立腺及び腎臓摘出術	52
その他(移植外科)	10
計	1,388

# 口唇口蓋裂センター

## 1. 概要

当センターは唇顎口蓋裂を含む口腔先天性疾患、顎発育異常などに対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

本疾患は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻いんこう科をはじめ臨床他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

(文責 歯科口腔外科副部長 寺沢 史誉)

## 2. 活動報告

外来初診症例数2015年

唇（顎）裂	3
口蓋裂	6
唇顎口蓋裂	4
その他唇顎口蓋裂	0
計	13

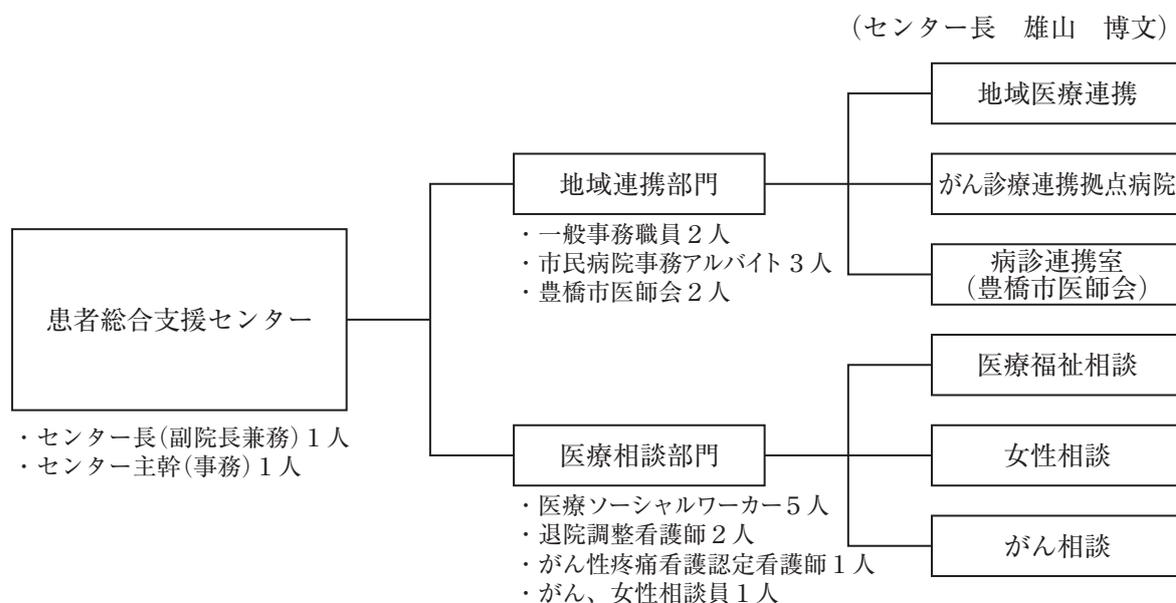
入院症例数2015年

唇（顎）裂	4
口蓋裂	3
唇顎口蓋裂	22
その他唇顎口蓋裂	3
計	32

# 患者総合支援センター

## 1. 概要

平成22年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図り、患者さんに対して効率的で質のよい医療を提供する「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者さんに安心して治療に当たってもらえるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



## 2. 活動報告

### (1) 地域連携部門

#### ① 地域医療支援委員会

委員 28人 (院外 17人、院内 11人)

- ・第1回 平成27年5月21日 開催
- ・第2回 平成27年8月20日 開催
- ・第3回 平成27年11月26日 開催
- ・第4回 平成28年2月25日 開催

#### ② 地域連携登録医登録者数

409人 (平成28年3月末現在)

#### ③ 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 13人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 11人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

#### (ア) 病診連携協議会

- ・第79回病診連携協議会 平成27年5月12日開催
- ・第80回病診連携協議会 平成27年10月20日開催

#### (イ) MCRフォーラム

- ・第37回MCRフォーラム 平成27年6月24日開催

「ゲノム時代におけるがん診療への期待と課題」 参加人数 64人

- ・第38回MCRフォーラム 平成27年10月21日開催  
「皮膚バリア機能から考える皮膚疾患の病態と治療」 参加人数 50人

(ウ) 病院・転床施設連携懇談会

- ・第20回病院・転床施設連携懇談会 平成28年3月11日開催 参加：17施設 53人  
平成27年度の転床入院実績報告

④ 紹介・逆紹介実績（平成27年4月～平成28年3月）

(ア) 紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
65.0%	83.5%

(イ) 病診連携室取扱実績

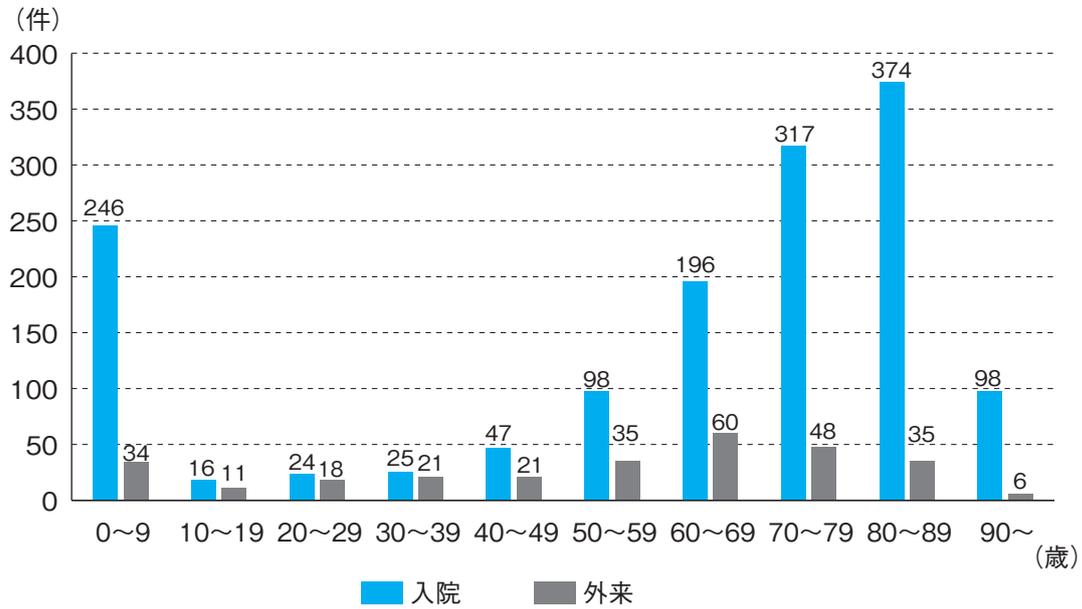
内 訳			件数(件)
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	10,054
		市 外	2,769
	歯 科	市 内	1,022
		市 外	150
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー		400
	そ の 他		28
	キ ャ ン セ ル		△ 466
	合 計		13,957
時 間 外 ( 再 掲 )		895	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		1,334
	内 訳	有 床 診 療 所	5
		病 院	1,092
		キ ャ ン セ ル	210
		転 院 予 約 中	27

(2) 医療相談部門

① 医療福祉相談件数（平成27年4月～平成28年3月）

(ア) 新規相談患者数 入院 1,441件 外来 289件 合計 1,730件

年齢別新規相談患者数



(イ) 延べ相談数 入院 10,828件 外来 4,522件 合計 15,350件

② 女性相談件数 面接 18件 電話 47件 合計 65件

③ がん相談件数 面接 318件 電話 111件 合計 429件

# 入院支援センター

## 1. 概要

入院支援センターは、2015年5月に開設された新しい部門である。当センターの目的は、入院や治療に対しての患者さんの不安を軽減させ、安心して医療が受けられるように援助するとともに、入院前に患者さんの状態を把握し病棟スタッフへ情報伝達を行い、安全に治療が行えるようにすることである。初年度の本年は、一般外科・歯科口腔外科・眼科・耳鼻いんこう科でクリニカルパスに沿って手術を行う患者さんを対象に活動した。今後はその範囲を広げ、最終的にはクリニカルパスの有無にかかわらず、全科の予約入院患者に対し入院前説明を行っていききたい。

(センター長 浦野 文博)

(文責 伊藤 恵子)

## 2. 活動報告

### (1) 業務内容

- ① 入院前オリエンテーション
- ② 入院日・手術日の説明
- ③ 手術同意書一式の署名の説明
- ④ 患者データベースの聴取
- ⑤ 栄養アセスメントの計測
- ⑥ 弾性ストッキングのふくらはぎ測定
- ⑦ リスク患者のチェック (転倒転落チェックリスト・退院支援スクリーニング)
- ⑧ クリニカルパスの説明
- ⑨ 持参薬の確認
- ⑩ 医療相談の介入 (必要時)

(2) 入院前説明患者数

外科 (H27/5/11 開始)	患者数 (人)
ヘルニア手術	186
胃手術	94
肝臓手術	20
結腸直腸手術	93
腹腔鏡下胆嚢手術	112
乳房手術	110
甲状腺手術	20
虫垂切除	13
痔核・痔瘻手術	19
その他	68

歯科口腔外科 (H27/8/1 開始)	患者数 (人)
全身麻酔・局所麻酔すべて	194

眼科 (H27/9/1 開始)	患者数 (人)
白内障	237
硝子体	2

耳鼻いんこう科 (H28/2/1 開始)	患者数 (人)
扁桃切除術	2
ラリngo	2
フェンスコンホ	2
E S S	11
鼓膜・鼓室形成術 (ティンパノ)	0
頸部小手術	6
頸部郭清術	2
甲状腺葉峡摘出術	3
甲状腺全摘術	0

MSW介入数 : 7人

後日薬剤鑑定患者数 : 102人

## 診療技術局

### 1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）があり、各部門では専門の知識や技術で医療に参画している。私たちは、いろいろな場面で患者さんに直接または間接的に関わりを持っている。現在の医療では、「チーム医療」が必要不可欠となっており、患者さんを中心に医師、看護師、そして私たちを含む各職種の病院職員が丸となって病態の改善に努めている。特に私たち診療技術局では、5部門が協力し合って勉強会を開催しており、それぞれの知識を互いに生かし、より良い医療が提供できるように切磋琢磨の精神を大切にしている。また、院内での業務の他にも東三河地域における役割として様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。

治療方法や医療技術は常に進歩し続けている。私たちは、常に新しい知識や技術を習得し、地域基幹病院としての使命を果たすべく努力していくことが重要ととらえ、そのためには、各種の認定制度に積極的に取り組む必要があると考える。既に多数の認定を習得しているが更なる習得を目指している。

なおも、病院を取り巻く環境や医療制度は日々変化している。常にあるべき姿を模索、検証し、前進するため一層の努力をしていく所存である。

（診療技術局長 田中 規雄）

## 放射線技術室

### 1. 概要

画像検査部門では、「豊橋市民病院に行って満足した。」という結果とともに、「少ない負担で」「少しの被ばくで」ということを常に考慮する必要がある。同じ医療上の情報を得るのであれば、当然ながら少ない被ばくで結果が得られるに越したことは無い。言わずもがな福島第一原発事故で被ばくに対する世間の意識は高くなり、本年は医療被ばくガイドラインの中で、診断参考レベルが公表され、施設間により数倍の医療被ばくの差があることに世間は驚愕した。当院では、日頃より医療被ばく低減に向けて努力するとともに、市民が安心して放射線検査を受けてもらえるように努めており、中部地区の公立病院では3施設目、全国でも60施設ほどしかない日本診療放射線技師会の定める「医療被ばく低減施設」として認定されることとなった。

今後も、「満足した」という結果を、少しでも「少ない負担で」得られることを考える部門であり続けたい。

(放射線技術室 室長 三浦 俊一)

#### 「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線管理士	日本放射線技師会
放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構	放射線機器管理士	日本放射線技師会
医学物理士	医学物理士認定機構	胃がん検診専門技師	日本消化器がん検診学会
医療情報技師	日本医療情報学会	第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省
核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構	γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
核医学専門技術者	日本核医学技術学会	X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
超音波検査士（消化器）	日本超音波医学会	日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技術者認定機構
超音波検査士（健診）	日本超音波医学会	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構
超音波検査士（体表臓器）	日本超音波医学会	臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会
乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	医療安全管理者	日本病院会

#### ◎平成27年度新規取得者

医療画像情報精度管理士 日本診療放射線技師会 喜多技師  
日本DMAT 加藤技師

## 2. 活動報告

### (1) 放射線技術室実績（4月1日～3月31日）

(件)

区分		平成27年度	平成26年度	平成25年度
一般撮影	頭部	9,908	9,769	9,523
	胸部	66,782	62,769	62,132
	腹部	13,506	14,085	13,988
	四肢	47,069	50,254	50,393
	その他（椎体）	22,389	22,547	21,746
	計	159,654	159,424	157,782
	内、ポータブル	38,814	29,563	24,694

(件)

血管撮影	頭頸部	129	181	209
	心臓・胸部	780	939	10,401
	腹部	273	266	308
	その他	79	126	149
	計	1,261	1,512	1,706

(件)

C T	頭頸部	10,185	9,553	9,718
	全身	28,614	27,545	25,962
	計	38,799	37,098	35,680

(件)

MR I	頭頸部	7,531	7,127	6,723
	全身	6,456	6,589	6,040
	計	13,987	13,716	12,763

(件)

X線T V	胃透視	4,037	4,064	4,155
	注腸透視	244	281	320
	その他	2,555	2,704	2,772
	計	6,836	7,049	7,247

(件)

放射線治療	リニアック	9,163	8,340	9,185
	集光照射	26	9	10
	体腔内照射	57	106	97

(人)

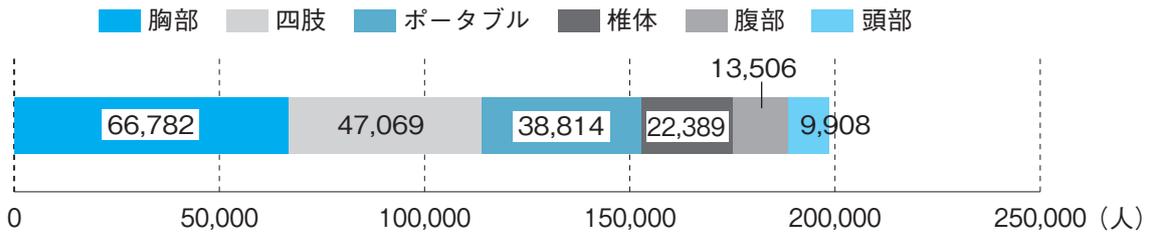
核医学（R I）	1,696	1,635	1,623
----------	-------	-------	-------

泌尿器検査（人）	939	996	914
骨塩量測定（人）	1,851	1,680	1,429
結石破碎（件）	67	100	112

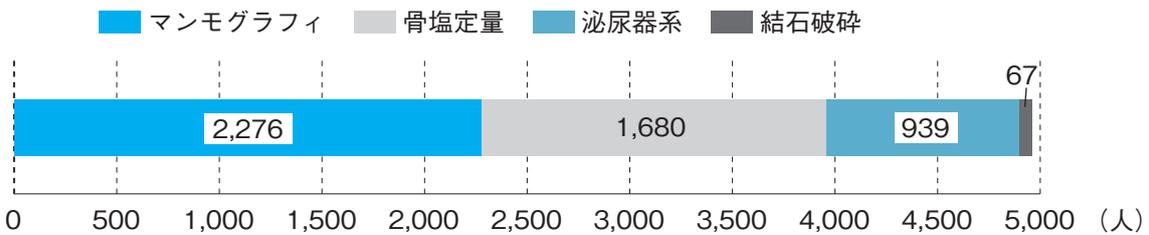
(人)

超音波診断検査 技術室担当	10,362	9,636	9,213
---------------	--------	-------	-------

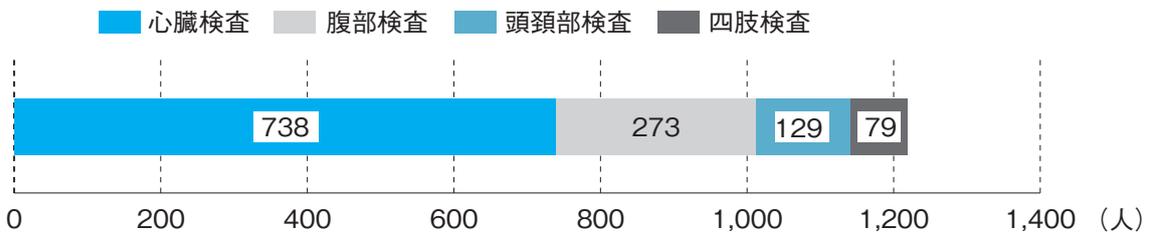
【一般撮影部門】



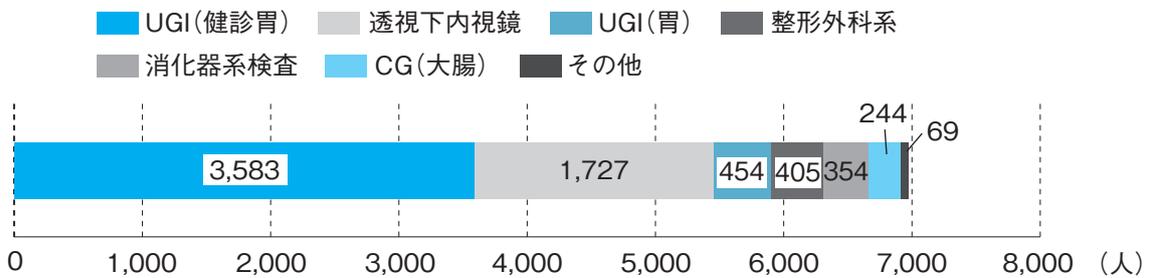
【その他】



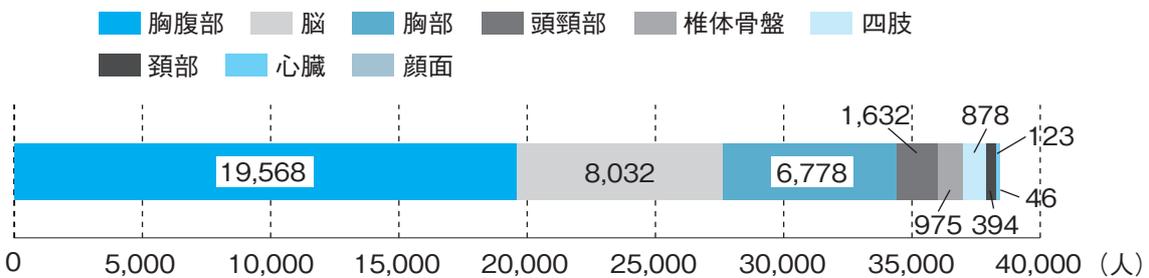
【血管撮影部門】



【X線TV部門】



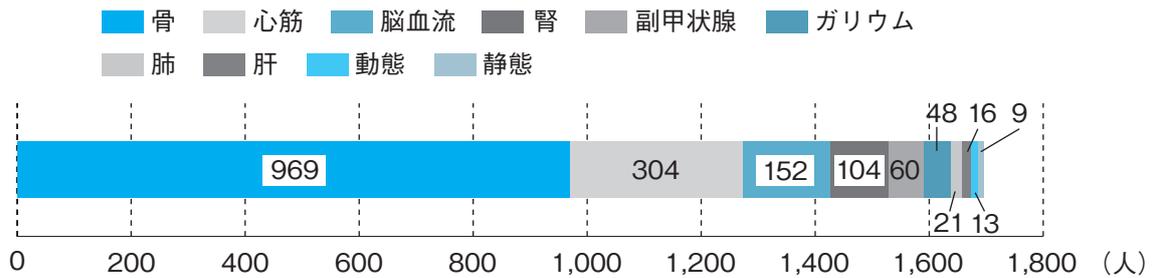
【CT部門】



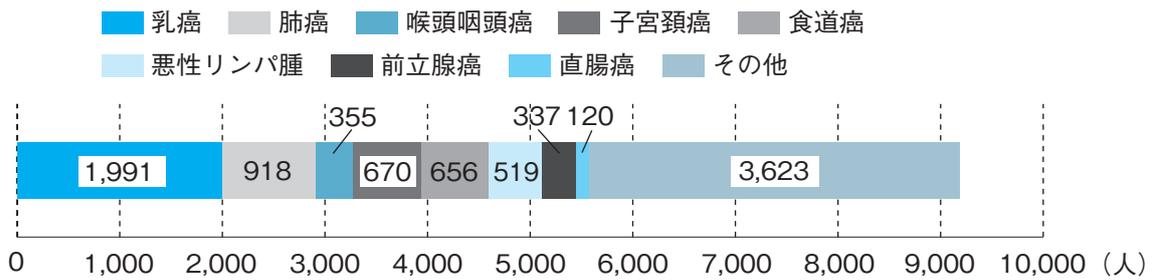
【MRI部門】



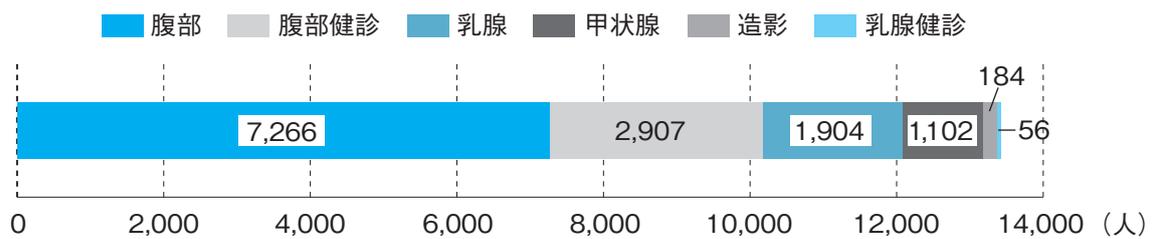
【アイソトープ部門】



【リニアック外照射部門】



【超音波検査部門】



## (2) 平成27年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	リニアックのQA, QC ～機械的パラメータのQA～ (実習)	加藤 貴昭	2015/6/25
第2回	ファントムを使用した上腹部US検査 (実習)	安井 美和	2015/7/9
第3回	腹部アンギオ時におけるカテ操作の理解 (実習)	大井 康弘	2015/7/23
第4回	注腸検査の実演とポイント解説 (実習)	山口 稔	2015/8/6
第5回	救急CTにおける読影補助 (腹部)	木浦 伸行	2015/8/20
第6回	FBP法の再考 ～心筋シンチ編～	市川 肇	2015/9/3
第7回	EPI-DWIの基礎 (実習)	喜多 和真	2015/9/18
第8回	リニアックのQA, QC ～X線、電子線出力不変性試験～	島田 秀樹	2015/9/25
第9回	ポータブル撮影時の散乱線の測定 (実習)	西川 宗範	2015/10/1
第10回	リニアックのQA, QC～線量率依存性について (実習)～	島田 秀樹	2015/10/30
第11回	ファントムを使用した上腹部US検査 (実習)	安井 美和	2015/11/13
第12回	リニアックのQA, QC ～線量モニタシステムの精度管理～	島田 秀樹	2015/11/26
第13回	リニアックのQA, QC ～直線性について (実習)～	島田 秀樹	2015/11/27
第14回	腹部アンギオ時におけるカテ操作の理解 (実習)	早川 充俊	2015/11/27
第15回	注腸検査の実演とポイント解説 (実習)	山口 稔	2015/12/10
第16回	リニアックのQA, QC ～1日安定性について (実習)～	島田 秀樹	2015/12/18
第17回	救急CTにおける読影補助	木浦 伸行	2016/1/15
第18回	FBP法の再考 ～心筋シンチ編～	加藤 豊大	2016/1/22
第19回	リニアックのQA, QC ～1日安定性について (実習)～	島田 秀樹	2016/1/29
第20回	EPI-DWIの基礎 (実習)	喜多 和真	2016/2/5
第21回	ポータブル撮影時の散乱線の測定 (実習)	西川 宗範	2016/2/26

## 中央臨床検査室

### 1. 概要

中央臨床検査室では、検査件数はほとんどの部門で増加しており、前年比6.6%の増加であった。また迅速で精確なデータを臨床に報告するために外部精度管理調査（日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会）に参加し良好な結果が得られた。

2015年2月、医療法施行令等の一部を改正する政令により、指定講習会を受講することにより、臨床検査技師が患者に対して検体採取を行うことができることになったが、その講習会にパート職員を含めた全職員が受講した。

臨床検査科出井副部長に月例勉強会の講師をお願いし、技師の知識と意識の向上に努めた。合わせて卒後臨床研修センターにおける業務においても、血液・輸血・微生物・生理機能の各分野において講師を担当し成果を上げた。

チーム医療にも積極的に参画し、感染対策チーム（ICT）や栄養管理チーム（NST）、糖尿病療養指導の一員として活動している。また超音波検査士や骨髄検査技師などの各種資格取得に積極的に取り組み、現在多数の資格取得者が在籍（下表）しており、臨床に貢献していると自負している。

（中央臨床検査室 室長 山口 育男）

#### 「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士（体表臓器領域）	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
超音波検査士（循環器領域）	日本超音波医学会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
超音波検査士（健診領域）	日本超音波医学会	生殖補助医療胚培養士	日本哺乳動物卵子学会
超音波検査士（消化器領域）	日本超音波医学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士（血管領域）	日本超音波医学会		

## 2. 活動報告

### (1) 検査実施件数

(件)

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
院内検査実施件数	5,296,457	4,969,112	4,763,421
委託検査件数	119,123	111,255	110,480
検査判断料件数	414,525	393,050	377,608
輸血管理料 1	2,620	2,577	2,786
外来迅速検体検査加算件数	260,514	201,581	184,051
病理診断管理加算	15,141	14,557	14,116
検体検査管理料加算 I 件数	112,309	109,059	105,532
入院時初回加算件数	11,683	10,827	10,877
時間外緊急院内検査加算件数	12,022	12,356	11,814
採血加算件数	116,598	111,539	108,585

### (2) 検査判断料件数

(件)

区 分		平成27年度	平成26年度	平成25年度
尿・糞便等検査判断料	外来	18,220	16,660	15,796
	入院	3,811	3,484	3,111
血液学の検査判断料	外来	97,395	93,353	91,214
	入院	17,540	16,789	16,567
生化学の検査（Ⅰ）判断料	外来	96,179	91,983	89,768
	入院	17,448	16,807	16,603
生化学の検査（Ⅱ）判断料	外来	24,573	22,617	20,926
	入院	4,646	4,271	3,577
免疫学の検査判断料	外来	73,023	68,561	63,127
	入院	16,232	15,515	15,264
微生物学の検査判断料	外来	12,660	11,644	10,805
	入院	7,574	7,428	7,181
病理学の検査判断料	外来	2,415	2,530	2,789
	入院	23	41	49
呼吸機能検査等判断料	外来	3,641	3,286	3,083
	入院	618	714	662
脳波検査判断料	外来	987	1,081	1,130
	入院	1,379	1,278	1,245
神経・筋検査判断料	外来	473	409	414
	入院	189	147	142
組織診断料	外来	6,627	6,384	6,125
	入院	4,781	4,510	4,264
細胞診断料	外来	3,046	2,517	2,684
	入院	1,045	1,041	1,082

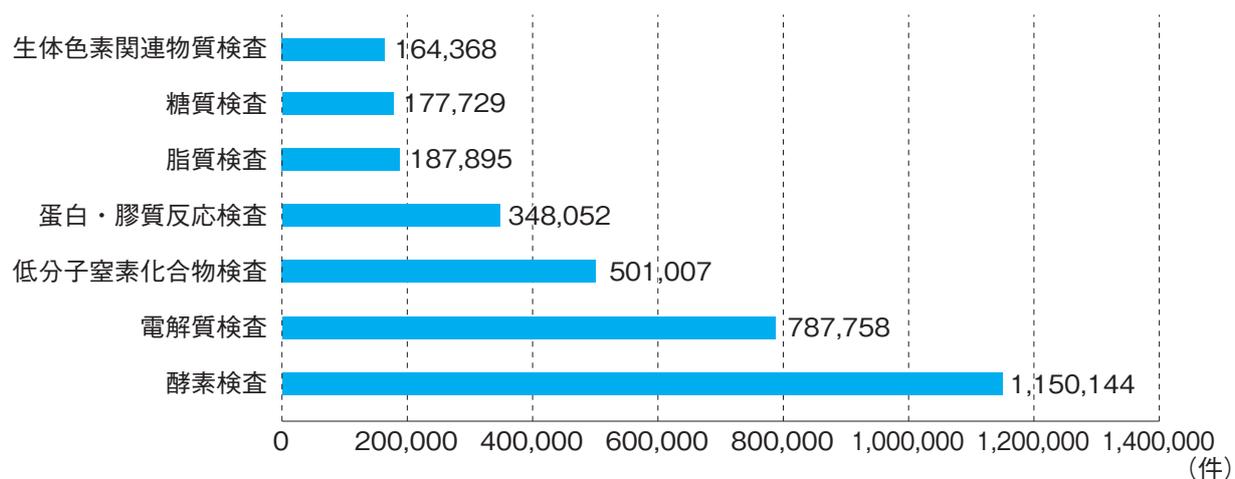
## (3) 部門別実績

(件)

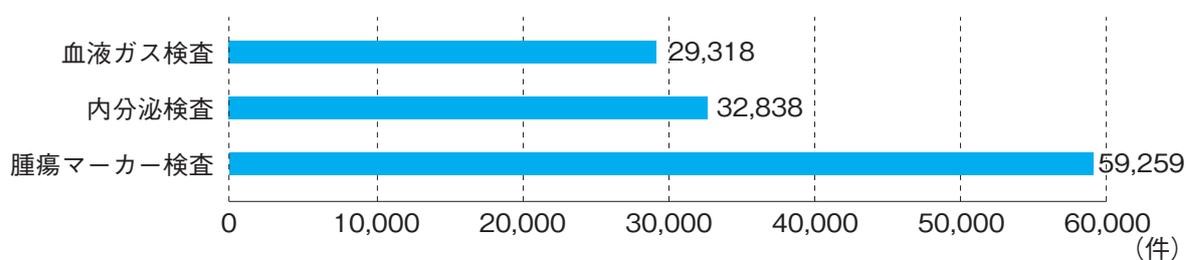
区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
尿・糞便等検査	125,968	113,944	104,599
血液学的検査	665,711	624,352	626,912
生化学的検査	3,872,705	3,640,362	3,478,731
免疫学的検査	391,953	359,597	333,298
微生物学的検査	95,711	91,393	86,499
輸血関連検査	55,237	54,687	50,819
生理機能学的検査	63,522	60,545	59,165
病理学的検査	24,326	22,752	22,024
生殖医療学的検査	1,324	1,480	1,374

#### (4) 生物化学分析検査

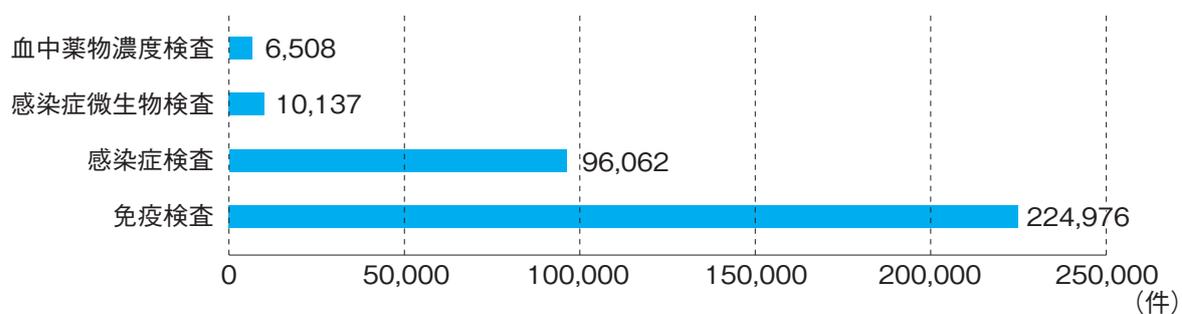
##### ① 生化学検査（Ⅰ）検査実績



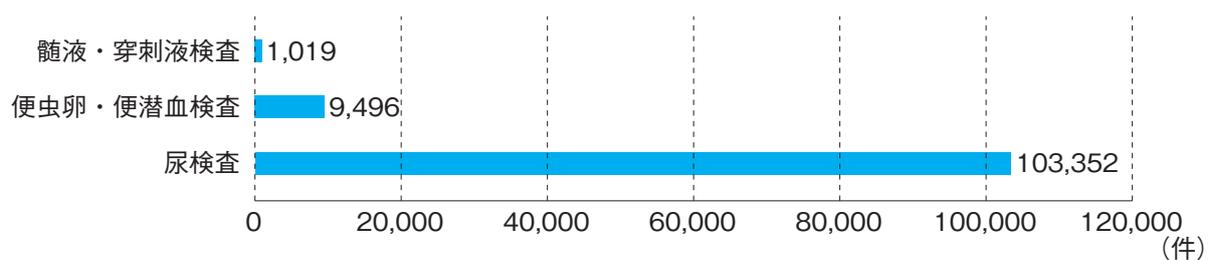
##### ② 生化学検査（Ⅱ）・血液ガス 検査実績



##### ③ 免疫学的・薬物検査 検査実績



##### ④ 一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務 実績

(件)

区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
患者検査説明業務	1,002	1,018	1,186

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

●説明検査項目

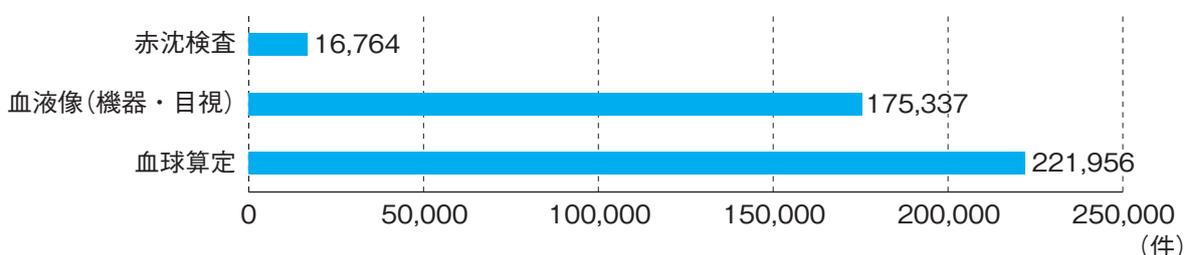
尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査 OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

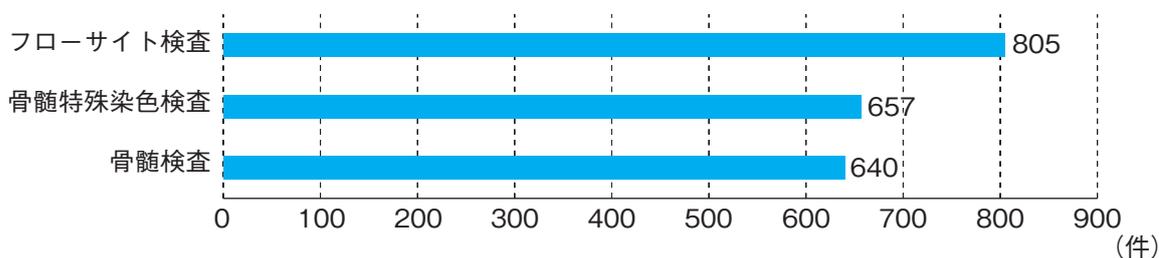
吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥ 血液学的検査 検査実績

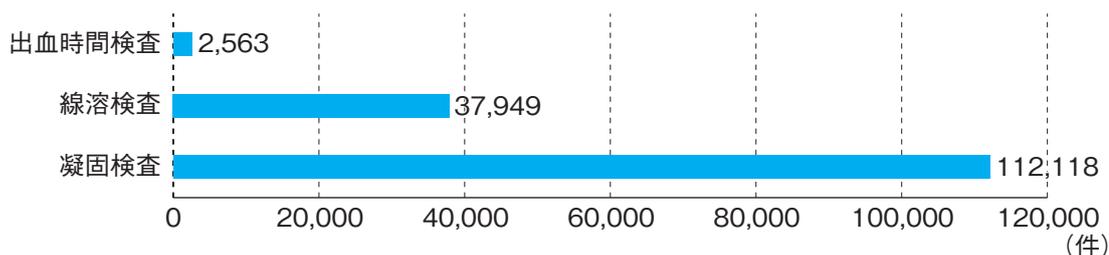
血液検査



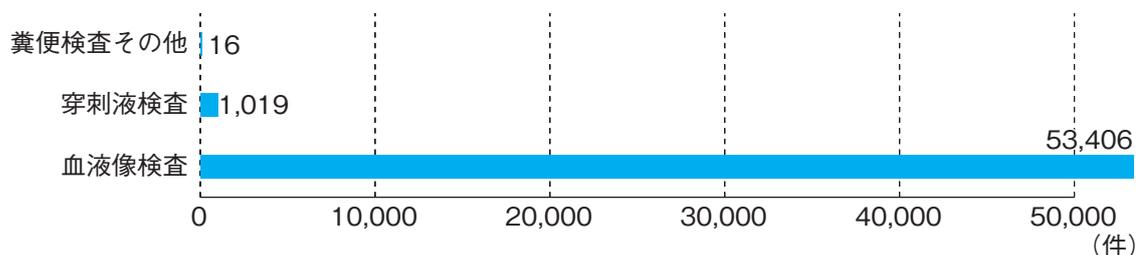
骨髓検査



凝固・線溶検査



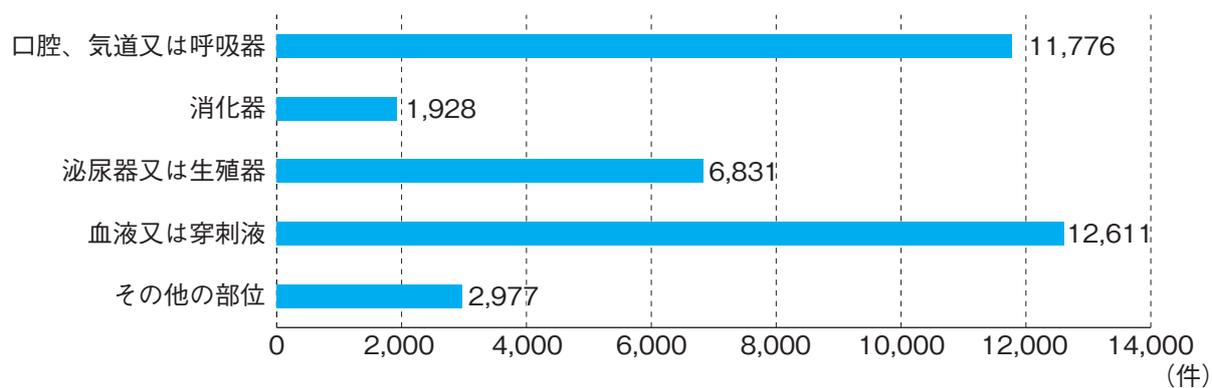
⑦ 顕微鏡検査 検査実績



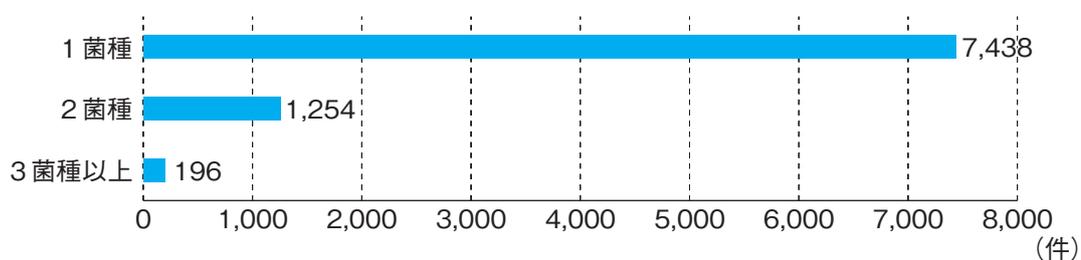
(5) 微生物・感染制御検査

① 一般細菌

培養同定検査 検査実績

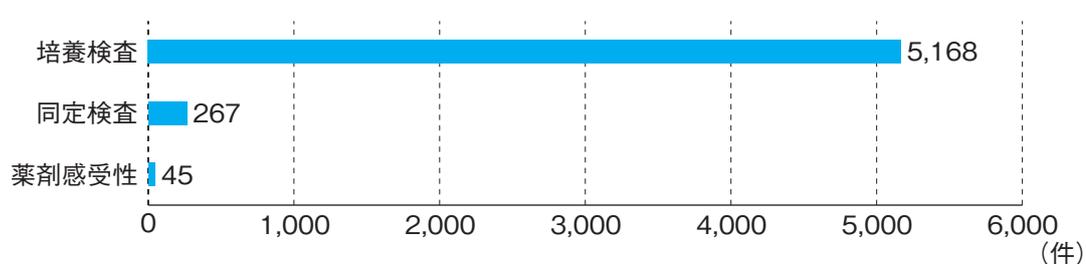


薬剤感受性検査 検査実績

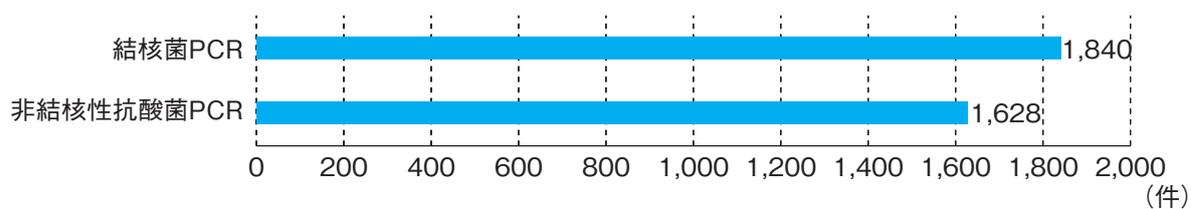


② 抗酸菌

培養同定検査 検査実績

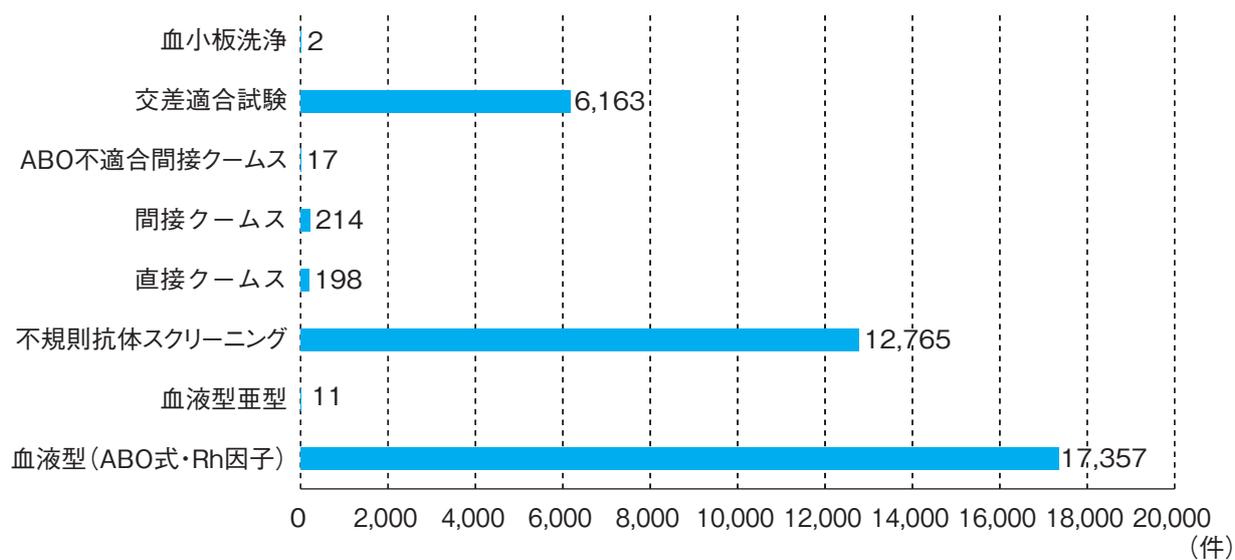


遺伝子検査(PCR) 検査実績

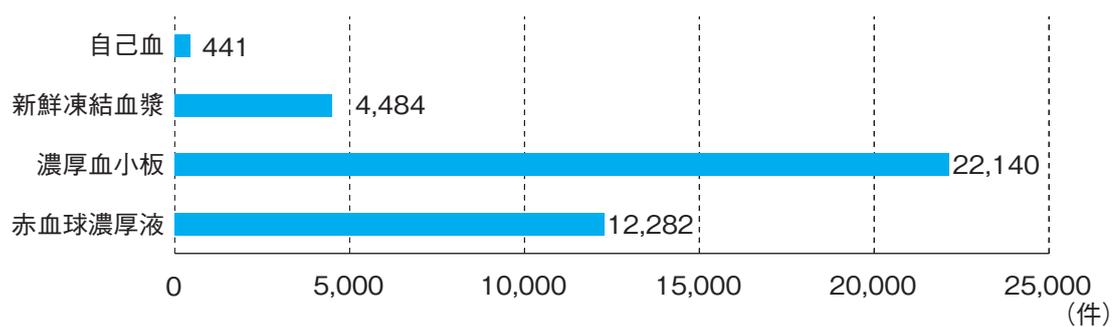


(6) 輸血移植・救命救急検査

輸血関連検査 検査実績



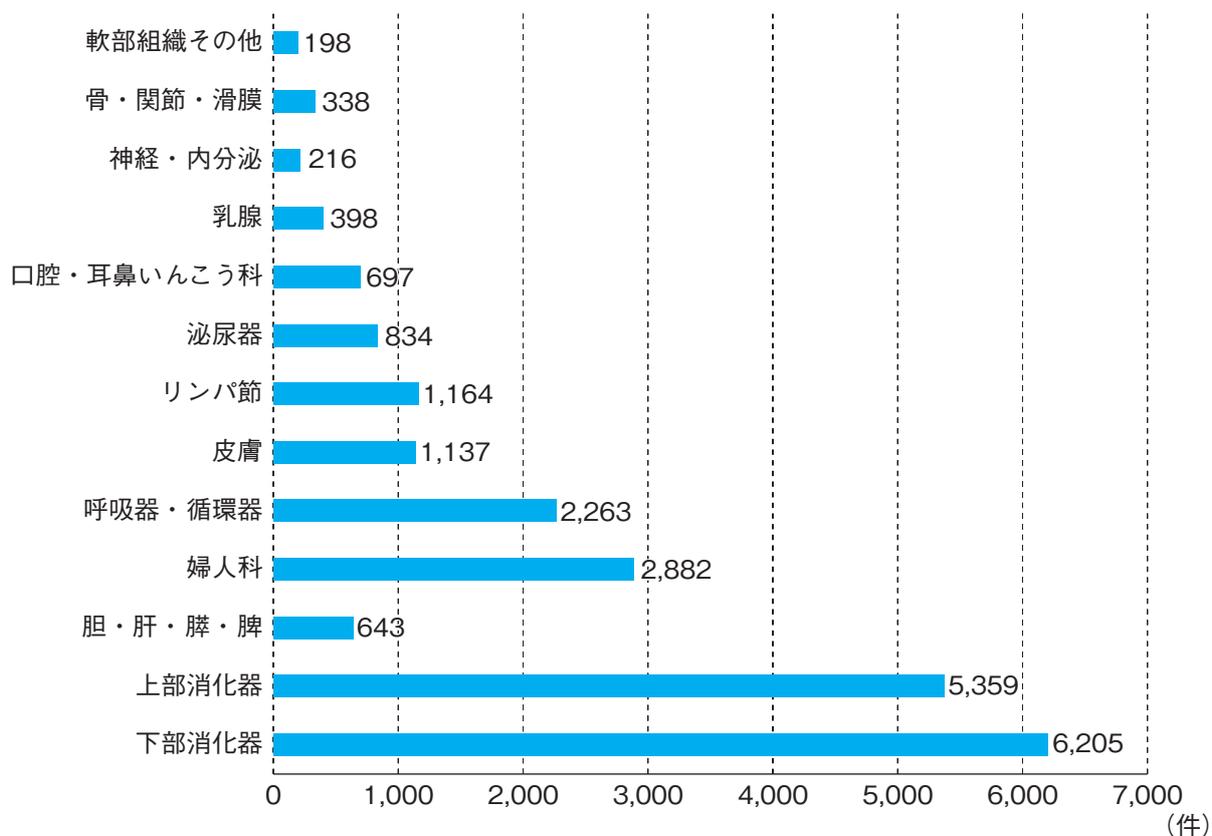
血液製剤使用状況



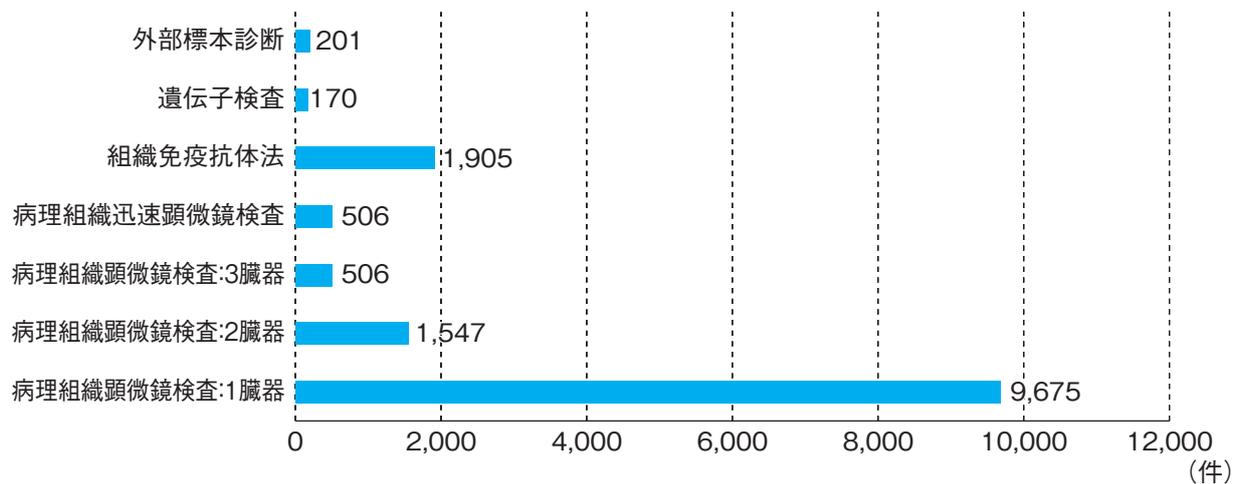
(7) 病理・細胞形態検査

① 病理学的・細胞診検査実績

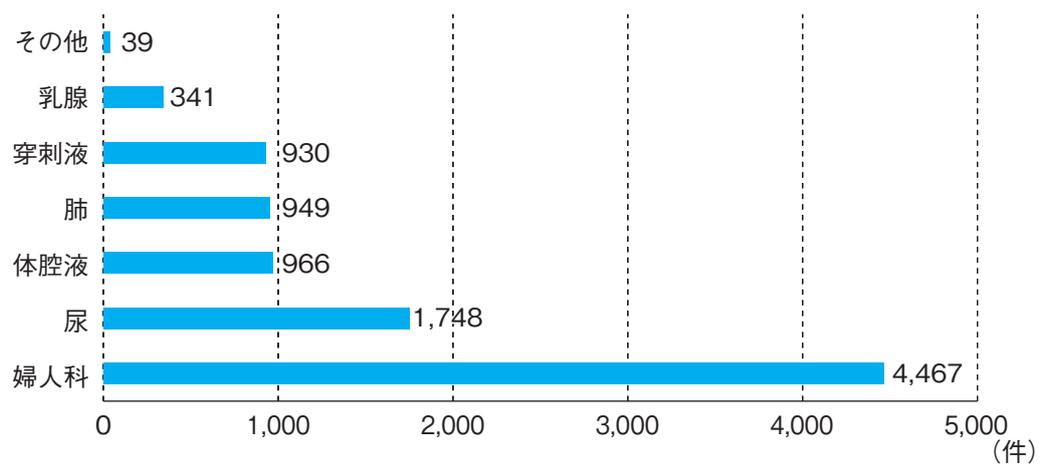
病理組織検査材料別件数



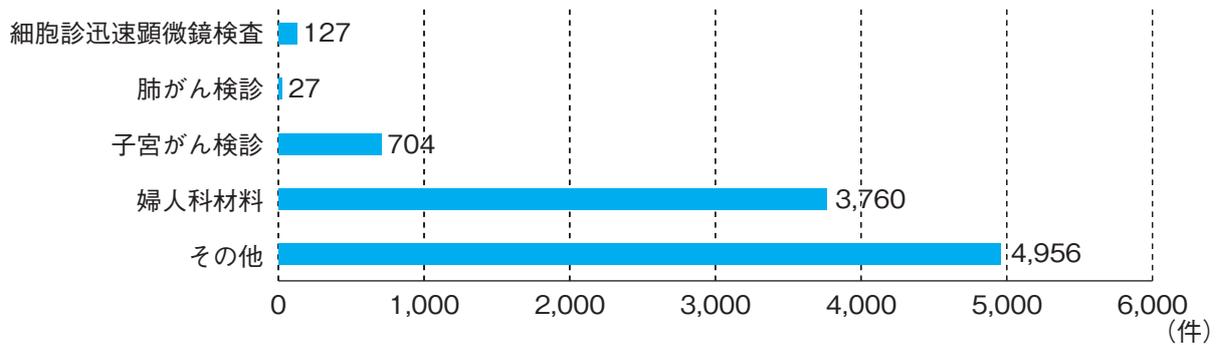
病理組織検査件数



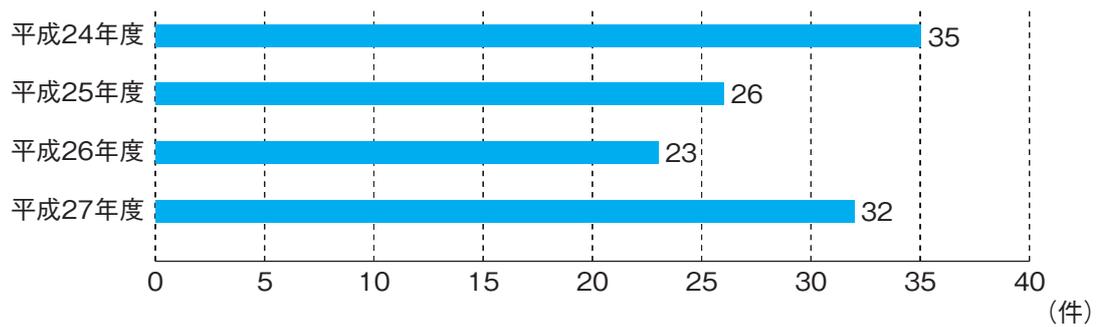
### 細胞診検査材料別件数



### 細胞診検査件数



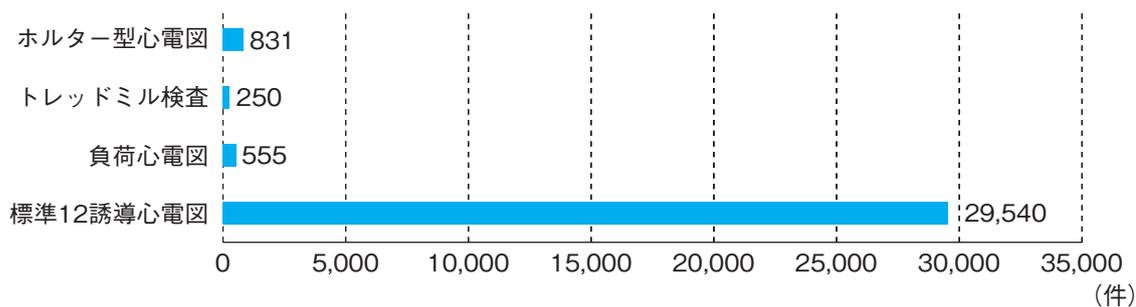
### ② 病理解剖



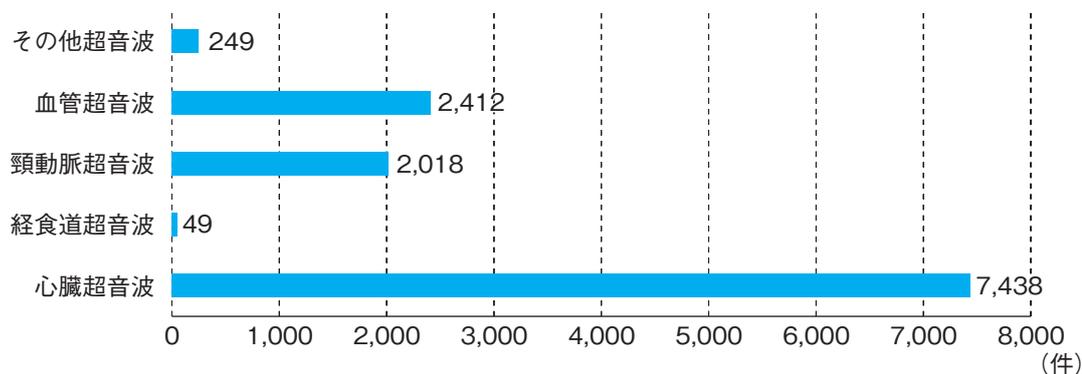
(8) 生理機能・生殖医療検査

① 生理機能・画像検査 検査実績

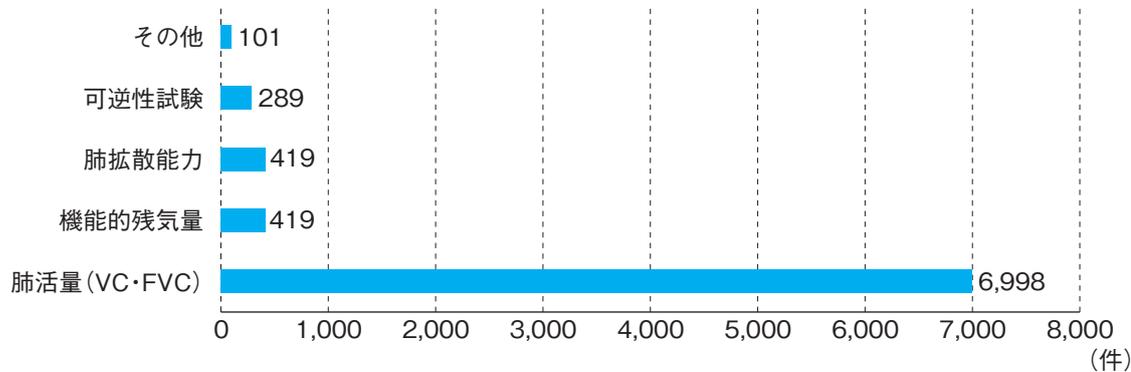
心電図 検査実績



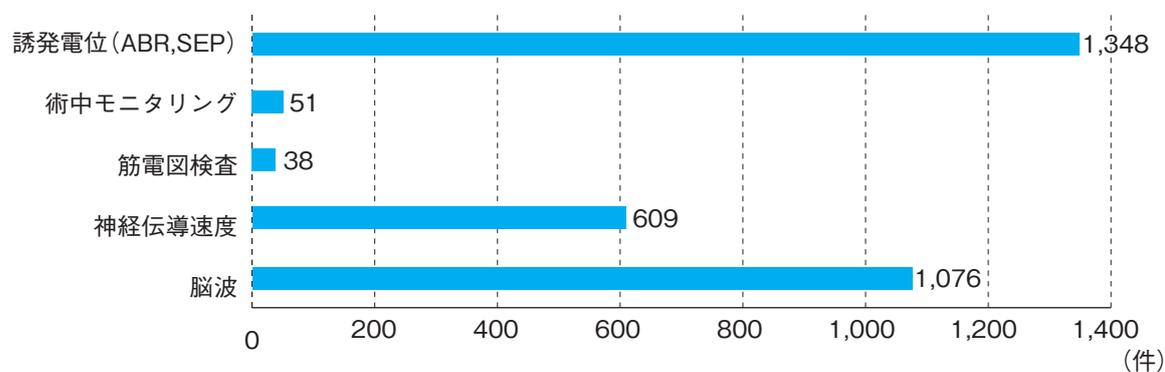
超音波 検査実績



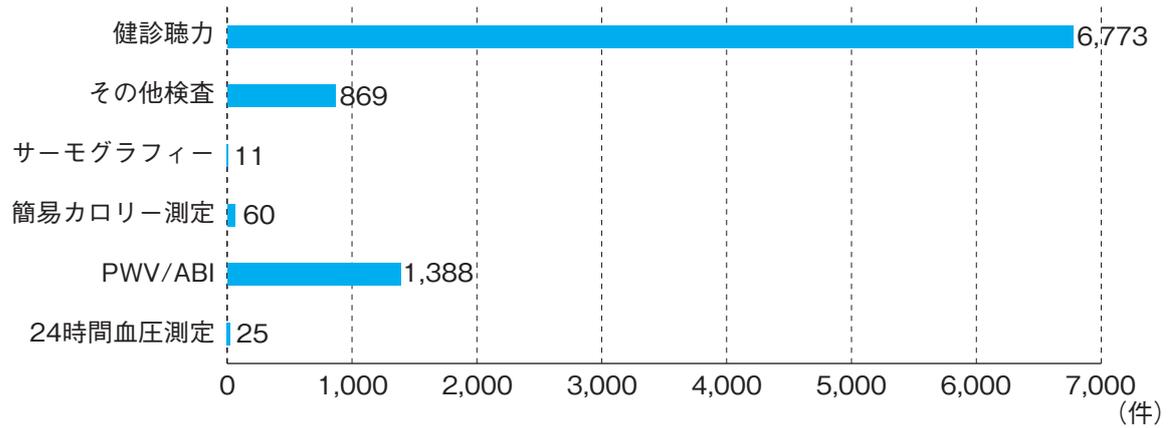
肺機能 検査実績



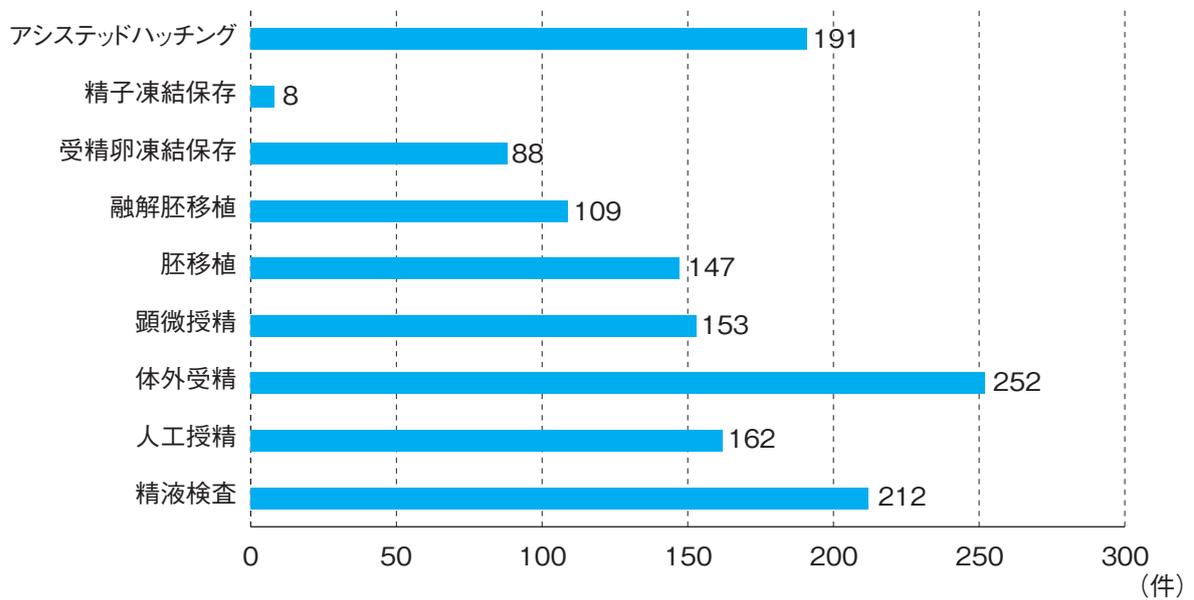
脳・神経 検査実績



### その他 検査実績



### ② 生殖医療関連 検査実績



# リハビリテーション技術室

## 1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。さらに豊橋市役所長寿介護課に職員を派遣している。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。

また、昭和62年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における各専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、26施設を数えリハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(リハビリテーション技術室 室長 森嶋 直人)

## 2. 活動報告

### (1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は110,485件、その内訳として理学療法69,566件、作業療法24,965件、言語療法15,954件であった。

(件)

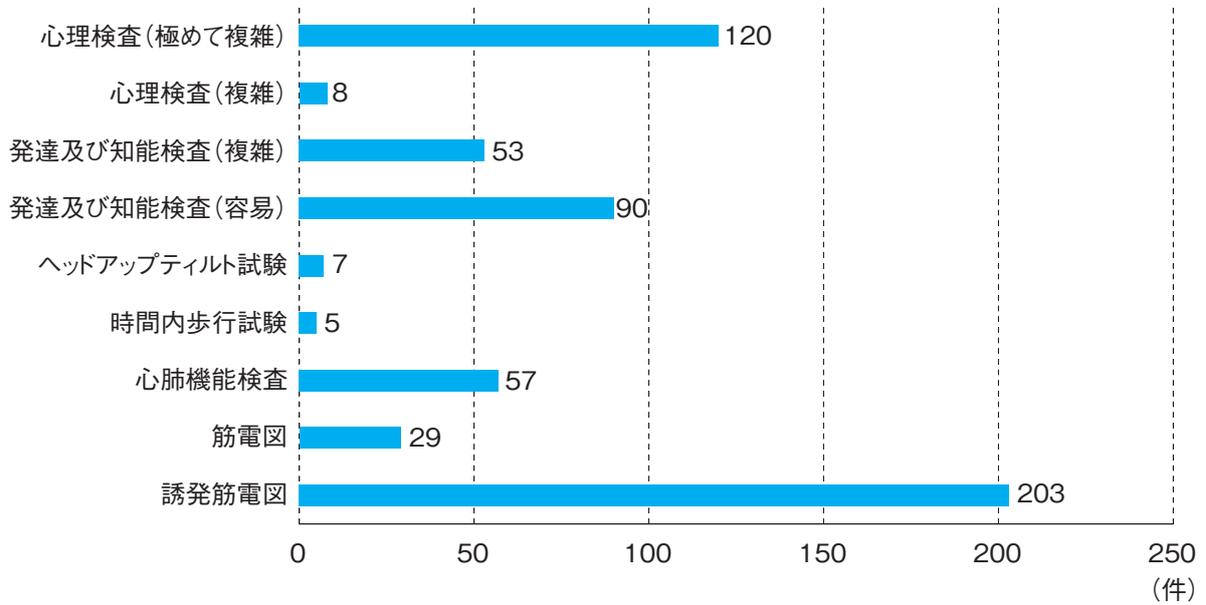
内 容	入外	H27(2015)	H26(2014)	H25(2013)
理学療法	入院	65,697	58,245	60,459
	外来	3,869	4,748	5,149
作業療法	入院	21,979	18,678	16,893
	外来	2,986	2,363	1,769
言語療法	入院	13,018	11,558	11,011
	外来	2,936	2,627	2,184
合 計	入院	100,694	88,481	88,363
	外来	9,791	9,738	9,102
総合計	合計	110,485	98,219	97,465

## (2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,053件	ア) 脳梗塞	593件
		イ) 脳出血	148件
		ウ) くも膜下出血	45件
		エ) 小脳出血・小脳梗塞	15件
		オ) 頭部外傷	80件
		カ) パーキンソン病	37件
		キ) その他	135件
		②脳性麻痺	7件
③発達障害	175件		
④脊髄疾患	119件	ア) 脊髄損傷	38件
		イ) 脊髄変性症	37件
		ウ) 脊髄症	44件
⑤神経疾患	211件	ア) 顔面神経麻痺	81件
		イ) 多発神経炎	16件
		ウ) その他	114件
⑥先天性異常	7件		
⑦骨疾患	591件	ア) 上肢骨折	42件
		イ) 下肢骨折	299件
		ウ) 脊椎骨折	65件
		エ) 脊椎症	78件
		オ) 脊柱靱帯骨化	5件
		カ) 無腐性壊死	13件
		キ) 椎間板疾患	63件
		ク) その他	26件
		⑧関節疾患	276件
イ) 膝内障	48件		
ウ) 肩関節疾患	32件		
エ) 筋腱断裂	8件		
オ) その他	54件		
⑨関節リウマチ	30件		
⑩切断	18件		
⑪手の外傷	28件		
⑫筋疾患	20件		
⑬循環器呼吸器疾患	715件	ア) 循環器疾患	285件
		イ) 呼吸器疾患	430件
⑭腫瘍	234件	ア) 脳腫瘍	49件
		イ) 乳癌	16件
		ウ) 肺癌	96件
		エ) 脊髄腫瘍	9件
		オ) その他の腫瘍	64件

⑮精神疾患	11件		
⑯その他	581件	ア) 廃用症候群・運動器不安定症	547件
		イ) その他	34件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



## 臨床工学室

### 1. 概要

病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、経済性と安全性を勘案した効率的な運用を行う。管理においては医療機器安全管理責任者の下に医療機器研修計画および研修記録の管理、保守管理計画、定期点検、修理対応、更新・増設・廃棄業務の支援を行っている。

専用PHS端末を用いた365日24時間のオンコール体制を行っている。生命維持装置を用いた手術、治療支援ならびにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。多職種間の密な連携協力や、計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者様の安全を第一に考えた医療技術の提供、診療支援を行う。手術支援ロボット「da Vinci Si」については泌尿器科領域から婦人科、外科領域に適応が拡大され、立ち合い件数は110件を超えた。地域医療連携においては主治医と患者を中心に、在宅で医療機器を使用するための指導管理や退院後のフォローも行っている。

(臨床工学室 室長 田中 規雄)

#### 「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床 ME 専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会、 他4学会透析療法合同 専門委員会認定資格
体外循環認定士	日本人工臓器学会、 日本体外循環医学会、 日本心臓血管外科学会 他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会、 日本麻酔科学会、 日本胸部外科学会
第2種 ME 技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任 者	高圧ガス保安協会
院内移植コーディネー タ	愛知腎臓財団	第一種衛生管理免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会		

## 2. 活動報告

### (1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	2015年度	2014年度	2013年度
血液浄化療法			
症例件数合計	1 5 0	1 2 9	1 6 9
血液浄化回数合計	4 4 8	3 4 1	3 8 6
HD件数	6 6	3 9	7 6
HD回数	1 6 5	5 8	1 4 3
HDF件数	0	3	1
HDF回数	0	8	6
HF件数	1	0	2
HF回数	1	0	2
ECUM件数	1 5	4	1 5
ECUM回数	1 8	6	2 3
CHD件数	0	0	1
CHD回数	0	0	1
小児CHD件数	1	0	1
小児CHD回数	4	0	4
CHDF件数	3 5	2 7	2 5
CHDF回数	9 6	6 6	5 9
CHF件数	1	0	1
CHF回数	2	0	1
PE件数	4	2 0	2
PE回数	5	6 5	1 1
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	9	2	2
DFPP回数	1 4	5	5
免疫吸着件数	0	4	0
免疫吸着回数	0	2 3	0
LDL吸着件数	2	0	0
LDL吸着回数	2	0	0
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET吸着件数	1 0	2	6
ET吸着回数	1 5	3	1 1
L-CAP件数	2	1 7	2 3
L-CAP回数	3	6 3	7 4
G-CAP件数	9	1 1	1 4
G-CAP回数	2 3	4 4	4 6

末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	32	16	26
施行回数合計	66	34	59
PBSC成人	28	11	21
PBSC回数	61	24	50
PBSC小児	2	5	4
PBSC回数	3	10	8
骨髄濃縮件数	2	0	1
骨髄濃縮回数	2	0	1
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	38	71	44
腹水濾過濃縮再静注業務回数	104	138	96

## 手術立ち会い業務件数

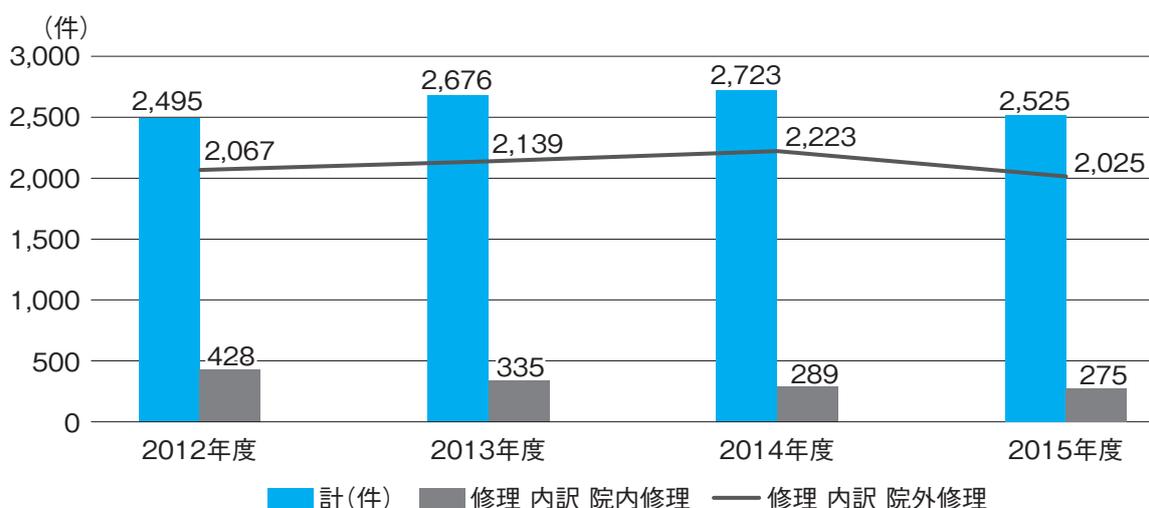
人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

(件または回)

区分	2015年度	2014年度	2013年度
人工心肺装置業務（開心術）			
成人人工心肺症例数	24	10	0
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立ち会い症例数	2	0	0
計	26	10	0
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS 症例数	4	5	14
ECMO 症例数	0	0	0
計	4	5	14
手術立ち会い業務（人工心肺業務以外）			
心外 自己血回収症例数	22	9	2
整形 自己血回収症例数	4	17	15
計	26	26	17
脳外ナビゲーション症例数	53	39	40
整形手術ナビゲーション症例数	0	6	11
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	6	2	0
計	59	47	51
泌尿器科ダヴィンチ症例数	51	28	15
婦人科ダヴィンチ症例数	0	8	0
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	7	3	0
計	58	39	15
PM・ICD 新規植込 立ち会い	20	17	27
PM・ICD 電池交換 立ち会い	18	15	11
PM・ICD リード交換等 立ち会い	5	2	1
PM 設定術中/CT/MRI 対応	63	—	—
計	106	34	39
呼吸療法関連業務			
成人用人工呼吸器回路組立件数	419	—	—
小児用人工呼吸器回路組立件数	223	—	—
計	642	—	—
NO ガス使用症例数	6	10	5
N2 ガス 使用症例数	0	0	0
計	6	10	5

(2) 医療機器修理件数

年度別修理件数



2015年度 修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科	21	4	9	8	0	0
小児科	9	0	8	1	0	0
外科	15	1	14	0	0	0
形成外科	3	0	3	0	0	0
整形外科	10	3	7	0	0	0
皮膚科	12	0	12	0	0	0
泌尿器科	23	1	22	0	0	0
産婦人科	4	0	4	0	0	0
耳鼻いんこう科	23	1	21	1	0	0
眼科	27	1	25	0	0	1
脳神経外科	3	1	2	0	0	0
歯科口腔外科	23	0	23	0	0	0
外来治療センター	9	1	8	0	0	0
予防医療センター	2	0	2	0	0	0
総合案内	18	5	5	8	0	0
総合生殖	1	0	1	0	0	0
東2	68	8	42	17	1	0
西2	48	9	31	7	1	0
東3	77	19	49	5	4	0
西3	97	13	75	6	2	1
総合周産期病棟	49	9	36	4	0	0
東5	48	9	28	10	1	0
西5	34	9	21	2	2	0
東6	63	14	43	6	0	0

西 6	35	3	23	8	1	0
東 7	61	13	34	11	3	0
西 7	67	18	38	10	1	0
東 8	75	6	61	7	0	1
西 8	48	19	22	5	2	0
東 9	26	5	13	7	1	0
西 9	38	8	20	8	2	0
南病棟	59	12	37	7	3	0
放射線技術室	154	1	148	1	4	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
画像検査（看護局）	84	6	74	4	0	0
中央臨床検査室	51	1	45	5	0	0
薬局	50	3	46	1	0	0
ME（臨床工学室）	89	10	77	2	0	0
血液浄化センター	9	0	8	1	0	0
NMC	124	17	100	3	3	1
救命救急センター	61	12	42	6	1	0
中央滅菌材料室	79	0	79	0	0	0
リハビリテーションセンター	33	9	21	3	0	0
栄養管理室	23	0	23	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	0	0	0	0	0	0
医療相談	0	0	0	0	0	0
管理課	0	0	0	0	0	0
医事課	0	0	0	0	0	0
手術センター	672	24	623	15	10	0
合計	2,525	275	2,025	179	42	4

(3) 臨床工学室が管理する医療機器台数

\* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置 (PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	2 2
新生児用人工呼吸器	1 3
在宅用 人工呼吸器 (リース)	2 1
成人用 NIPPV	6
小児・新生児用 NIPPV	1 0
パーカッションベンチレーター	2
RTX 陽陰圧式体外式人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	2 1
手術ナビゲーションシステム	1
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用 RO 装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	1 6
A E D	2 2
A E D解析装置	1
閉鎖式保育器 (デュアル式 4 台含む)	1 8
開放式保育器 (インファントウォーマー)	1 0
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	2 5 0
輸注ポンプ	2 8 0
経腸ポンプ	1 9
医薬品注入コントローラー	1 0
PCA ポンプ	3
セントラルモニター	3 1
ベッドサイドモニター	1 5 1
無線式送信機台数	1 3 7
携帯型受信機	1 3
心電計	2 2
血液成分分離装置	2
全身麻酔器	1 5
低圧持続吸引器	3 0
連続心拍出力計	6
体外式ペースメーカー (DDD 式を含む)	8
ネブライザーヒーター	6 0
手術支援ロボットシステム (ダヴィンチ Si)	1
計	1, 2 2 5

(4) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	53	386	7.3
脳神経外科	59	209	3.5
心臓血管外科	29	242	8.3
呼吸器外科	8	65	8.1
循環器内科	32	170	5.3
呼吸器内科	24	209	8.7
消化器内科	21	253	12.0
神経内科	9	259	28.8
血液内科	7	46	6.6
腎臓内科	6	64	10.7
糖尿病・内分泌科	1	27	27.0
整形外科	14	44	3.1
泌尿器科	3	9	3.0
産婦人科	4	52	13.0
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	2	21	10.5
耳鼻いんこう科	11	25	2.3
歯科口腔外科	4	6	1.5
小児科	18	400	22.2
移植外科	0	0	0.0
輪番	0	0	0.0
計	305	2,487	8.2

病棟別

病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南1	2	109	54.5
南2	0	0	0.0
西2	16	225	14.1
東2	14	371	26.5
ICU	232	1,330	5.7
東3	4	162	40.5
西4	0	0	0.0
東4	0	0	0.0
西5	4	100	25.0
東5	0	0	0.0
西6	4	46	11.5
東6	3	50	16.7
西7	5	34	6.8
東7	1	29	29.0
西8	0	0	0.0
東8	0	0	0.0
西9	2	10	5.0
東9	1	19	19.0
計	288	2,485	8.6

\*西病棟3階から病棟転症された症例を含む

\*在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算			
	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	平均呼吸器稼働台数																							
南1	30	1.0	31	1.0	2	0.1	0	0.0	20	0.6	26	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	109	0.3
南2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西2	10	0.3	9	0.3	4	0.1	19	0.6	2	0.1	28	0.9	26	0.8	6	0.2	24	0.8	0	0.0	43	1.4	54	1.7	225	0.6	0.6	
東2	31	1.0	26	0.8	17	0.5	19	0.6	22	0.7	57	1.9	41	1.3	21	0.7	35	1.2	0	0.0	42	1.4	60	1.9	371	1.0	1.0	
ICU	92	3.1	119	3.8	97	3.1	148	4.8	104	3.4	95	3.2	126	4.1	94	3.0	93	3.1	170	5.5	96	3.2	96	3.1	1,330	3.6	3.6	
東3	30	1.0	31	1.0	30	1.0	31	1.0	25	0.8	0	0.0	5	0.2	10	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	162	0.4
西4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西5	10	0.3	15	0.5	2	0.1	6	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.2	3	0.1	13	0.4	44	1.5	0	0.0	100	0.3	0.3	
東5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西6	6	0.2	0	0.0	0	0.0	2	0.1	14	0.5	24	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46	0.1
東6	7	0.2	6	0.2	0	0.0	0	0.0	20	0.6	3	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	19	0.6	56	0.2	0.2	
西7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	4	0.1	0	0.0	9	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	0.4	0	0.0	28	0.1	0.1	
東7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	27	0.9	2	0.1	29	0.1	0.1	
西8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
東8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西9	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0	8	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	0.0
東9	0	0.0	19	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	19	0.1
合計/日平均台数	216	7.2	258	8.3	152	4.9	227	7.3	219	7.1	233	7.8	207	6.7	138	4.5	155	5.2	183	5.9	266	8.9	231	7.5	2,485	6.8	6.8	

マスク式人工呼吸器 症例数/延べ使用日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		主科別 一例あたり の平均 使用日数 (日)	
	症例	延べ		延べ稼働日数																								
総数	11	51	8	31	10	55	5	16	11	43	6	10	13	64	12	85	6	21	7	13	6	20	11	43	106	452	4.3	
(内訳)成人	9	43	8	31	10	55	3	12	11	43	5	9	10	41	7	26	3	10	6	10	4	10	9	28	85	318	3.7	
(内訳)小児	2	8	0	0	0	0	2	4	0	0	1	1	3	23	5	59	3	11	1	3	2	10	2	15	21	134	6.4	
一日平均マスク式人工呼吸器稼働台数(台)	1.7		1.0		1.9		0.5		1.4		0.3		2.0		2.8		0.7		0.4		0.7		1.4		1.4		1.2	1.2

## 栄養管理室

### 1. 概要

栄養管理室では、患者さんの病状や状態、年齢に合わせた248種類の食種を用意し、喜んで食べていただける食事を提供して、QOLの向上に努めている。医師を中心とした栄養サポートチームの一員として、栄養管理計画書の作成やNST回診、栄養治療実施計画書を作成し、患者さんの栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。さらに、家庭でも栄養管理、食事療法が行えるよう、栄養食事指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスやお手伝いをしている。

栄養管理委員会で食事内容の見直しの検討や、NST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識、技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上を図っている。

(栄養管理室 室長補佐 藤田 克宣)

#### 「取得している認定資格等」

認定資格・専門資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

## 2. 活動報告

区 分	項 目	2015年度	2014年度	2013年度	
食種及び食数	一般食	411,525	413,515	434,848	
	特別食	加算食	135,757	133,906	128,069
		非加算食	12,621	16,013	14,935
		小計	148,378	149,919	143,004
	合計（食）	559,903	563,434	577,852	

選択メニュー	実施日数（日）		366	365	365（246）
	一般食	常食	68,000	69,864	68,370
		軟菜食	22,232	22,595	25,403
		小計（人）	90,232	92,459	93,773
	治療食	糖尿食	14,538	11,491	7,823
		心臓食	4,227	4,555	4,293
		肝臓食	550	287	148
		すい臓B食	1,347	2,047	1,045
		小計（人）	20,662	18,380	13,309
	合計（人）		110,894	110,839	107,082

（ ）内は治療食の実施日数

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,112	1,185	1,221
	糖尿病透析予防管理	63	21	40
	入院患者栄養食事指導	1,049	1,035	911
	乳児栄養食事指導	121	115	213
	小計（件）	2,345	2,356	2,385
	糖尿病教室	162	152	181
	合計（件）	2,507	2,508	2,566

NST業務	栄養管理計画書（件）	21,666	21,588	21,324
	栄養サポートチーム加算（件）	602	368	289

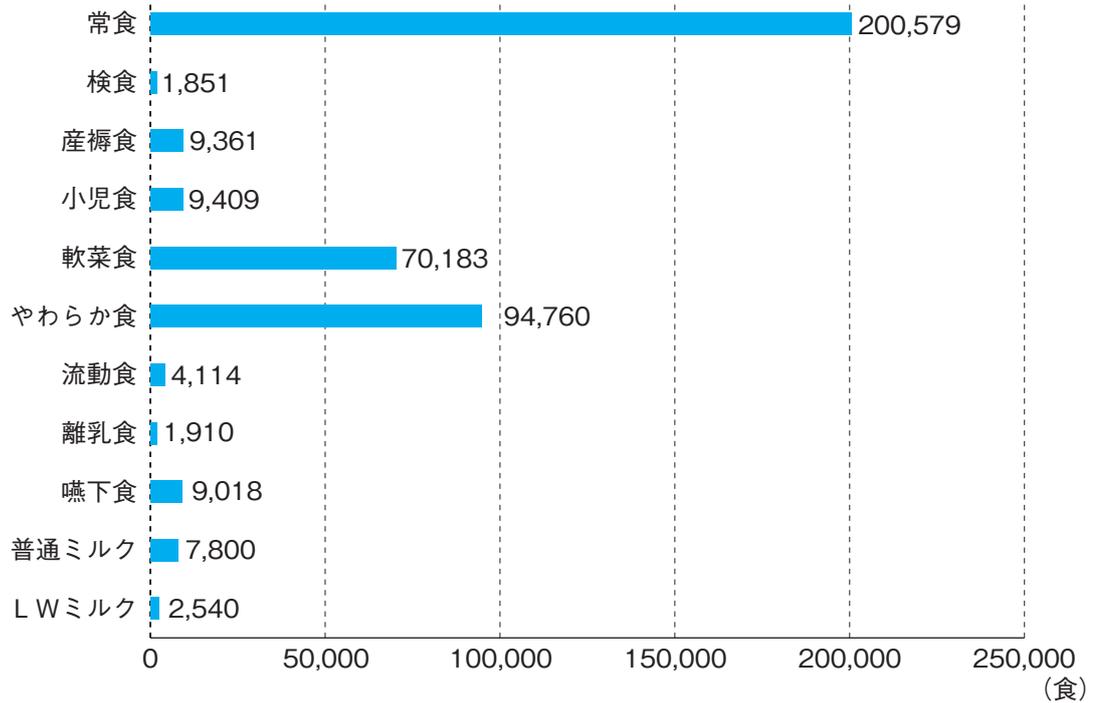
NST定期教育 講演会	実施回数（回）	8	8	8
	参加者（人）	331	382	471

NST教育カリ キュラム	実施回数（回）		1	1	2
	受講者（人）	院外	4	5	9
		院内	1	1	4

2015年度食種詳細

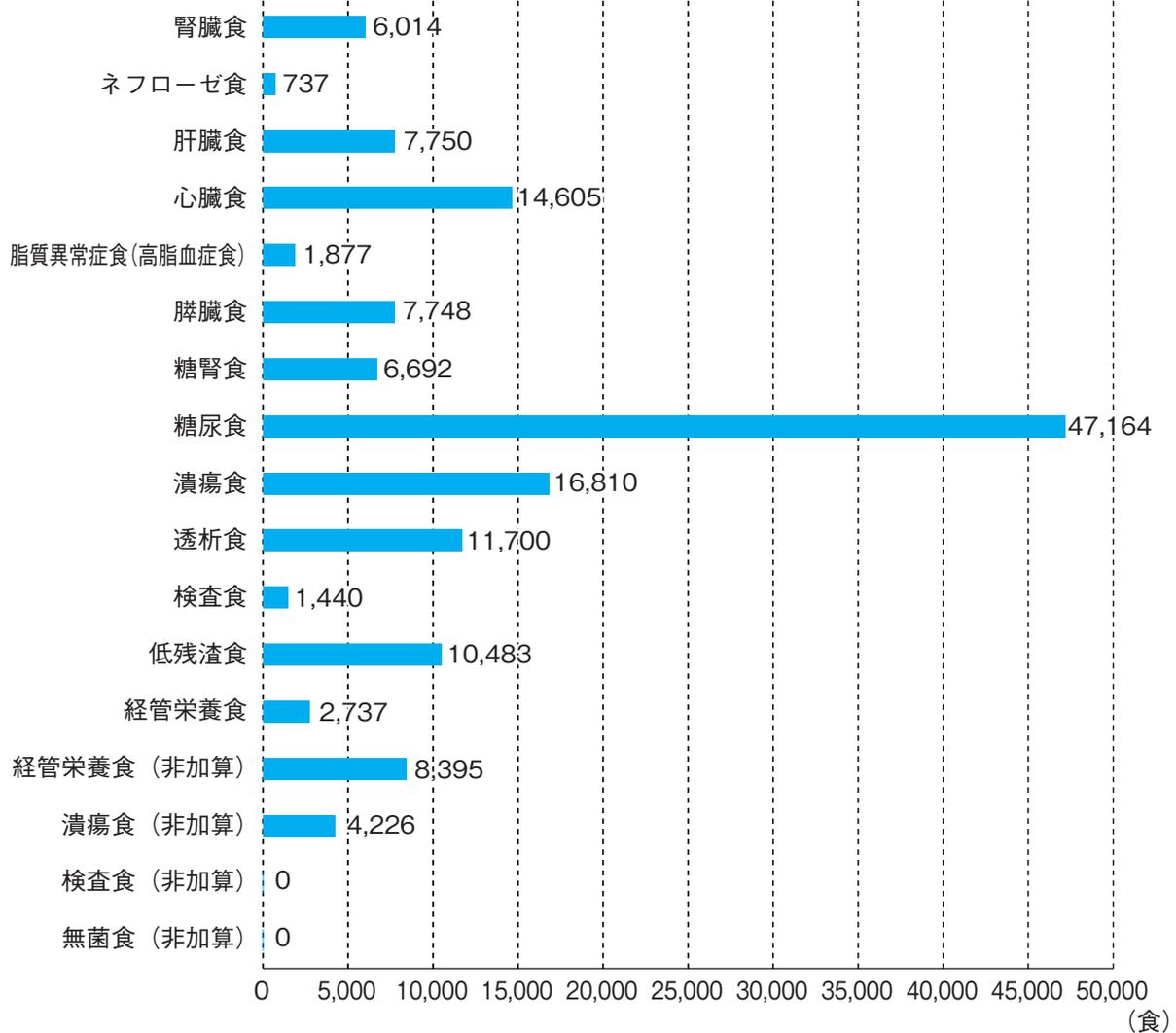
一般食食種別詳細

411,515食



特別食食種別詳細

148,378食



# 薬局

## 1. 概要

薬局は、「薬あるところ薬剤師あり」を掲げ、薬のエキスパートとして各部局と連携をとり、医療チームの一員として薬物治療ならびに医療安全に貢献することを目標としている。

薬局内には、管理・注射、製剤・調製、調剤・麻薬、医薬品情報の4グループからなる基本組織と治験管理センターが設置されている。

がん化学療法においては、レジメンの作成・登録から抗がん薬の無菌調製を薬剤師が実施し、調製時には用量・臨床検査値の確認等を行い、抗がん薬の適正使用に寄与している。

手術室のサテライト薬局には、薬剤師が常駐し、手術に使用する医薬品の供給・管理を行い、麻薬、毒薬等のハイリスク薬の適正管理を行っている。

病棟では、薬剤師が患者さんへの服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを行い、患者さんが安心できる薬物治療に貢献している。

また、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、がん化学療法認定薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士などの専門領域の薬剤師は各チーム医療の一員として役割を担い、薬剤師能を発揮している。

(薬局長 石田 隆浩)

## 2. 活動報告

### (1) 患者数及び処方せん枚数

区分		年度	平成27年度(対前年度)	1日平均	平成26年度(対前年度)	1日平均	平成25年度(対前年度)	1日平均				
外来	患者数(人)		484,692	100.1%	1,995	484,149	99.9%	1,984	484,505	97.6%	1,986	
	院内	処方せん枚数(枚)		48,486	98.2%	200	49,379	99.1%	202	49,818	100.3%	204
		平均投薬日数(日)		13.8	102.7%	/	13.5	111.1%	/	12.1	102.9%	/
		注射処方せん枚数(枚)		14,725	101.7%	/	13,576	105.3%	59	12,890	89.0%	53
	院外	処方せん枚数(枚)		172,245	100.4%	709	171,585	100.7%	703	170,370	97.0%	698
		平均投薬日数(日)		34.3	99.3%	/	34.6	106.2%	/	32.6	103.0%	/
入院	患者数(人)		258,733	100.1%	707	258,492	97.4%	708	265,485	100.9%	727	
	処方せん枚数(枚)		116,506	103.3%	318	112,833	98.5%	309	114,572	102.9%	314	
	平均投薬日数(日)		7.5	108.2%	/	7.0	104.6%	/	6.7	100.6%	/	
	注射処方せん枚数(枚)		128,896	101.1%	352	127,466	96.8%	349	131,726	104.3%	361	
備考			外来日数 入院日数	243日 366日		外来日数 入院日数	244日 365日		外来日数 入院日数	244日 365日		

### (2) 薬剤管理指導実績

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
薬剤管理指導件数(件)	21,379	22,744	22,268
麻薬加算件数(件)	686	633	695

## (3) 無菌製剤処理料実績

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
無菌製剤処理料件数(件)	11,699	10,972	11,706

## (4) 外来及び入院の科別処方せん枚数

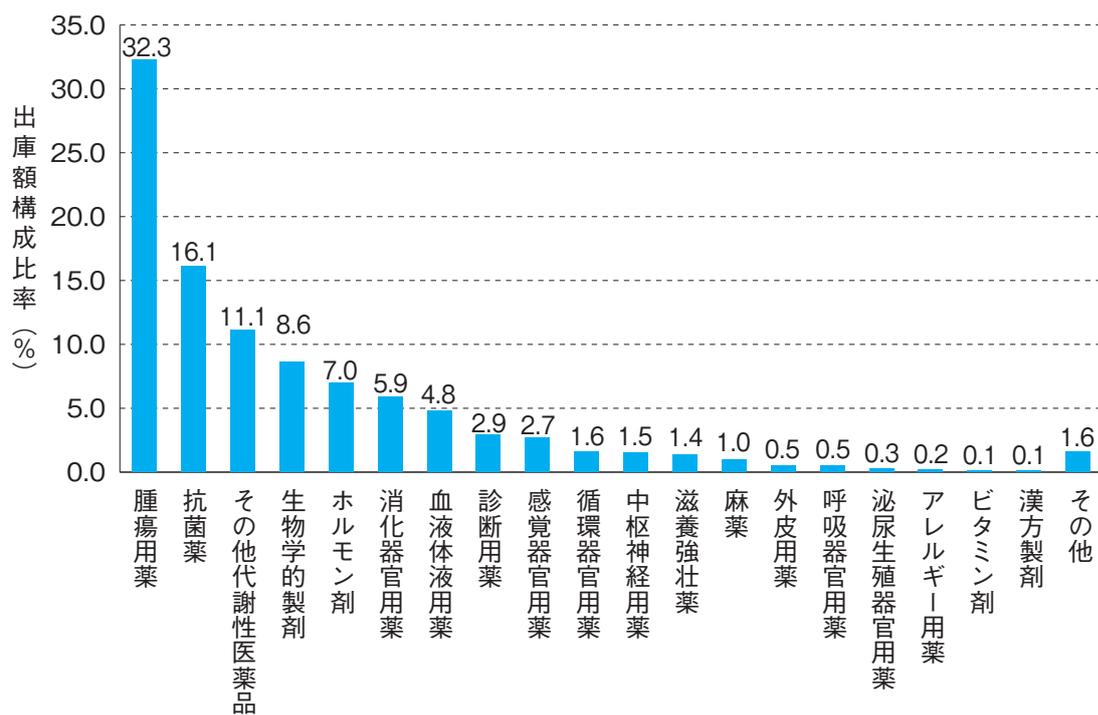
科名	外 来			入 院	
	処方せん枚数(枚)		全処方せん枚数に対する科別比率(%)	処方せん枚数(枚)	全処方せん枚数に対する科別比率(%)
	院 内	院 外			
総合内科	839	4,109	2.2	176	0.2
一般外科	2,864	7,603	4.7	9,364	8.0
整形外科	1,961	12,157	6.4	9,383	8.1
脳神経外科	356	3,532	1.8	4,480	3.8
産婦人科	2,571	8,231	4.9	9,920	8.5
小児科	2,955	12,291	6.9	7,405	6.4
耳鼻いんこう科	1,247	9,094	4.7	4,561	3.9
皮膚科	2,855	15,857	8.5	2,122	1.8
泌尿器科	1,435	11,814	6.0	6,343	5.4
眼科	718	9,931	4.8	2,399	2.1
放射線科	18	144	0.1	0	0.0
こころのケア科	230	39	0.1	0	0.0
形成外科	151	471	0.3	2	0.0
歯科口腔外科	746	4,419	2.3	1,854	1.6
リハビリテーション科	29	21	0.0	0	0.0
麻酔科	5	0	0.0	0	0.0
救急科	13,933	44	6.3	0	0.0
呼吸器内科	777	8,849	4.4	13,039	11.2
消化器内科	5,266	16,038	9.7	15,779	13.5
循環器内科	1,175	10,016	5.1	4,565	3.9
アレルギー内科*	851	2,047	1.3	0	0.0
腎臓内科	1,063	5,260	2.9	3,609	3.1
糖尿病・内分泌内科	2,857	10,967	6.3	2,047	1.8
神経内科	344	6,221	3.0	7,533	6.5
血液・腫瘍内科	1,849	4,909	3.1	8,268	7.1
小児外科	18	220	0.1	14	0.0
移植外科	63	676	0.3	360	0.3
リウマチ科	909	5,975	3.1	446	0.4
脊椎外科	0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	247	289	0.2	1,116	1.0
心臓血管外科	154	1,021	0.5	1,721	1.5
合 計	48,486	172,245	100.0	116,506	100
	220,731				

\* 処方せん枚数：入院のアレルギー内科は呼吸器内科に含む。

(5) 抗がん薬及びIVH調製本数

	区 分	平成27年度	平成26年度	平成25年度
抗がん薬 (本)	入 院	6,366	6,489	7,479
	外 来	10,258	9,843	9,392
IVH (本)	入 院	1,379	767	752

(6) 薬効別出庫薬品

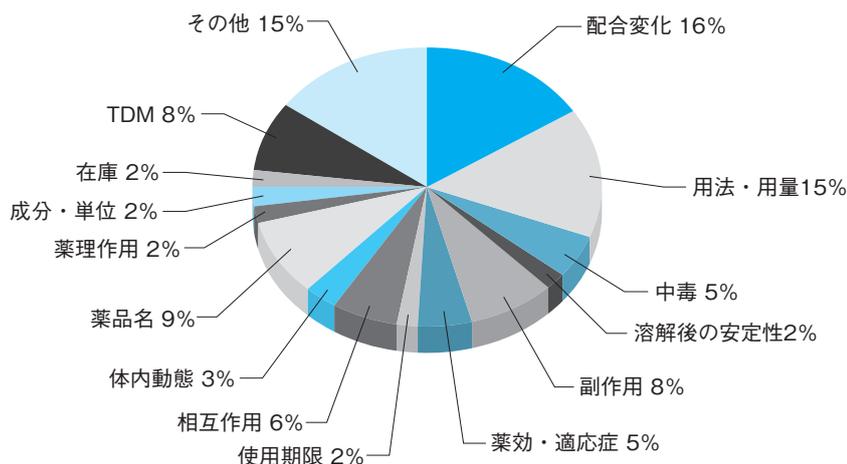


## (7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適 応 症 等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラーヂンS坐薬50 $\mu$ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	299本
	ミラクリッド腔坐薬 1万単位	切迫早産(破水予防)	産婦人科	1,493本
	プロゲステロン腔坐薬 200mg	黄体ホルモン補充療法	総合生殖医療センター	5,868本
	リファンピシン坐薬 450mg	結核治療薬 (イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	144本
注射剤	3%亜硝酸ナトリウム注(10mL)	シアン中毒の解毒	救命救急センター	8本
	安息香酸ナトリウム注(50mL)	高アンモニア血症	救命救急センター	12本
	眼科用アバスチン注	加齢黄斑変性症、血管新生緑内障	眼科	35本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	30本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的点墨法	消化器内科	89本
	2%パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	8本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	38本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA陽性患者への眼科感染症	眼科	23本
	ビタミンA点眼液(5mL)	ステイーブン・ジョンソン症候群、眼類疱疹、上輪部角結膜	眼科	0本
	0.2%フルコナゾール点眼液(5mL)	角膜真菌症・アカントアメーバ角膜炎	眼科	0本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	54本
	1%ブイフェンド点眼液(5mL)	角膜真菌症	眼科	4本
内用剤	セレン内服液(10 $\mu$ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	8,380mL
外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	6,600mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻科	30mL
	DPCP液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	5,400mL
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	15,500mL
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	360g
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	2,500g
	1%メトロニダゾール軟膏	腫瘍部位の悪臭予防	一般外科等	800g
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	600g

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：695件



(9) 医薬品情報提供

医薬品要覧	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	47件
使用上の注意に関する情報	42件
用法・用量に関する情報	11件
安全性情報	47件
薬物血中濃度解析	58件

(10) 持参薬鑑別

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
薬剤鑑別件数(件)	11,927	11,110	9,718

(11) 治験実施数

治験／製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I	1	4	4
	ph II	1	3	3
	ph III	15	54	32

(12) 副作用報告

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
厚生労働省報告件数(件)	18	7	8
プレアボイド報告件数(件)	73	75	46

## (13) 年間麻薬使用量

薬品名	平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピオ注(本)	0	-	0	-	0	-
オピスコ注(本)	11	-	8	-	16	-
ペチジン塩酸塩注(本)	1	-	2	-	2	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	2,098	-	3,496	-	2,803	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	809	-	511	-	1,371	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	20	-	40	-	517	-
フェンタニル注0.1mg(本)	11,319	-	12,963	-	12,214	-
フェンタニル注0.5mg(本)	6,228	-	6,575	-	6,940	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	4,034	-	4,167	-	5,748	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	1,471	-	1,293	-	-	-
ケタラール静注用200mg(瓶)	562	-	836	-	1,304	-
オキファスト10mg(本)	1,571	-	1,335	-	4,193	-
オキファスト50mg(本)	431	-	597	-	73	-
プレペノン注100mgシリンジ(本)	5	-	-	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	1,167	1,802	2,530	1,519	2,812	3,719
MSコンチン錠30mg(錠)	964	735	330	14	615	1,239
MSコンチン錠60mg(錠)	-	-	-	-	6	0
ピーガード錠20mg(錠)	19	70	0	0	0	0
ピーガード錠30mg(錠)	0	0	18	0	9	0
ピーガード錠120mg(錠)	0	0	0	0	0	0
カディアンカプセル60mg(C)	0	0	0	0	0	0
カディアンスティック粒120mg(包)	0	0	0	0	0	0
カディアン分包品20mg(包)	0	-	0	-	0	-
カディアン分包品30mg(包)	0	-	0	-	0	-
モルベス細粒2%10mg(包)	2,139	884	26	14	206	20
モルベス細粒6%30mg(包)	30	0	68	0	0	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg「DSP」(錠)	2,348	529	955	1,045	1,453	868
オプソ内服液5mg(包)	3,021	1,244	1,721	402	2,298	612
オプソ内服液10mg(包)	1,974	1,215	1,317	315	3,378	1,582
オキシコンチン錠5mg(錠)	29,602	28,272	30,395	26,218	25,999	25,883
オキシコンチン錠20mg(錠)	3,448	4,772	4,367	6,865	4,938	3,369
オキシコンチン錠40mg(錠)	2,837	4,438	1,688	3,274	1,163	1,657
オキノーム散2.5mg(包)	5,130	5,093	5,801	3,041	4,647	2,575
オキノーム散5mg(包)	5,773	3,573	5,086	2,817	4,781	2,686
オキノーム散10mg(包)	4,741	2,790	3,624	6,809	5,956	3,833
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	601	50	360	122	-	-
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	568	199	282	30	-	-
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	2,799	680	417	0	-	-
アンベック坐薬10mg(本)	234	0	841	34	704	10
アンベック坐薬30mg(本)	40	0	104	0	184	0
デュロテップMTパッチ2.1mg(枚)	284	647	497	1,123	967	625
デュロテップMTパッチ4.2mg(枚)	283	491	403	581	694	709
デュロテップMTパッチ8.4mg(枚)	170	244	373	373	550	297
デュロテップMTパッチ16.8mg(枚)	275	6	150	85	300	65
フェントステープ1mg(枚)	2,899	1,916	2,831	1,645	2,360	896
フェントステープ2mg(枚)	5,020	2,345	3,923	816	2,975	920
フェントステープ6mg(枚)	1,757	212	1,243	598	1,296	140
ワンデュロパッチ0.84mg(枚)	-	-	-	-	78	0
ワンデュロパッチ1.7mg(枚)	-	-	0	0	40	42
タペンタ錠25mg(錠)	725	161	49	0	-	-
タペンタ錠100mg(錠)	44	0	0	0	-	-
アヘンチンキ(mL)	376.5	1,460.0	571.5	1,477.5	730.8	1,655.5
1%塩酸モルヒネ液(mL)	21	0	22.5	0	450	0
10%リン酸コデイン散(g)	0	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	49.0	0	28.0	0	31.0	0

※年度の設定は麻薬関係法令上、平成26年10月1日～平成27年9月30日までとする。

# 看護局

## 1. 概要

看護局の重点目標として1) 患者さん・家族の声を大切に、安全・安心な看護を提供する。2) 看護サービスの質の向上に努め、看護を可視化する。3) お互いを認め合う職場をつくる。4) 災害対応の強化に努める。を挙げ、看護局委員会、各部署における看護目標やチーム活動を通し、目標に向けて取り組むことができた。

今年度の新たな取り組みは、「入院支援センター」の開設である。入院患者の情報収集や入院時の説明などプライベート空間を確保し患者に関わることができ、患者満足度の向上につながった。また、全スタッフに統一した目標管理シートを用いることで、スタッフへのキャリア支援の大きな一歩に繋がった。全部署において“お互いを認め合う”という事はどういうことかを話し合い、全ての部署で、WLBの取り組みがなされた。さらに、日本看護協会のDiNQL事業に取り組み、いろいろなデータの可視化に努めてきた。今後は、そのデータを活かし、各部署の看護の可視化に努めていきたい。

(看護局長 菱田 由紀子)

## 2. 看護局の状況

### 1) 職員の動向

職員数879人 助産師30人(1) 看護師760人(84) 准看護師15人(12)

看護補助者60人 助手12人 保育士2人(平成27年4月)

退職者52人(定年退職者7人含む)(平成27年度)

### 2) 看護職員確保対策

#### (1) 採用試験

平成28年度新規採用試験 7回実施(新卒53人、既卒8人)

#### (2) ガイダンス(5回実施 155人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
4月25日	豊橋創造大学「病院を知る会」	32人
5月10日	ナース専科 就職ナビ 合同就職説明会	9人
6月13日	豊橋市民病院就職ガイダンス	59人
7月11日	豊橋市民病院就職ガイダンス	8人
3月19日	看護師就職春ガイダンス in 吹上ホール	47人

#### (3) 学校訪問(11校)

日 程	訪 問 校
5月13日	三重県立看護大学 浜松医科大学看護学部 浜松市立看護専門学校
5月15日	平成医療短期大学 岐阜医療科学大学 豊橋創造大学 宝陵高校衛生看護科
5月19日	愛知県立大学 総合看護専門学校 岡崎市立看護専門学校 県立愛知看護専門学校

(4) インターンシップ

開催期間	研修名	人数
8月3～7日/17～21日	夏のインターンシップ研修	8人
2月29日～3月25日	春のインターンシップ研修	15人

(5) 施設見学 総数14人

(6) 看護師等再就職チャレンジ支援研修（6月15日～19日）6人参加

(7) 看護体験

高校生 医務国保課49人 自開催8月36人×2回 3月37人

中学生職場体験 13人

(8) 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけトーク」開催 参加人数39人

### 3. 認定看護師

#### 1) 認定看護師数 (21人)

感染管理 (2) 救急看護 (2) 皮膚・排泄ケア (1) がん化学療法看護 (2)  
がん性疼痛看護 (1) 緩和ケア (1) 集中治療ケア (1) 新生児集中ケア (1)  
摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1) 認知症看護 (1) 訪問看護 (1)  
透析看護 (1) 手術看護 (1) 看護管理 (3)

#### 2) 平成27年度 認定看護師活動実績 (資料1)

### 4. 教育活動

#### 1) クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 325人 レベルⅡ 98人 レベルⅢ 4人

#### 2) 研修状況 (資料2)

#### 3) 病棟看護補助者研修60人参加

### 5. その他

医療安全管理者養成研修修了者12人

専任看護教員養成講習会修了者12人

愛知DMAT隊員養成研修修了者4人

災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 6人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者14人

(資料1) 平成27年度 認定看護師活動実績

	実践	指導	相談
感染管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP）</li> <li>②職業感染防止対策の推進（針刺し事故、インフルエンザ、他）</li> <li>③職員健康外来の診療介助</li> <li>④ICトピックスの配信</li> <li>⑤ICT Newsの発行</li> <li>⑥院内感染対策委員会、院内感染対策チーム（ICT）、感染症管理センター会議の事務局運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規採用者オリエンテーション：講義</li> <li>②基礎看護技術演習：講義&amp;演習</li> <li>③クリニカルラダーⅠ：講義&amp;机上演習（計2回）</li> <li>④クリニカルラダーⅡ：感染症病棟視察（見学）&amp;講義</li> <li>⑤再就職チャレンジ支援研修：講義</li> <li>⑥中途採用者オリエンテーション：講義（計4回）</li> <li>⑦院内感染対策講習会：講義（計2回）</li> <li>⑧救急医学講座：講義</li> <li>⑨NST教育カリキュラム：講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①158件</li> </ul>
手術看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①手術センター新人看護師の教育に携わった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定看護師セミナー「みんなで術前訪問」</li> <li>②豊橋市立看護専門学校 看護第1科：成人看護援助論Ⅰ「手術と看護」講義</li> <li>③豊橋市立看護専門学校 看護第2科：成人看護援助論Ⅱ「周術期看護」講義</li> <li>④日本手術看護学会東海地区「内視鏡手術看護セミナー」ハンズオン講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①手術センター内での体位固定についての相談</li> </ul>
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①在宅療養支援：64名（入院）、16名（外来）</li> <li>②訪問看護ステーション勤務者向け勉強会開催：5回、参加人数合計97名</li> <li>③長期入院者院内ラウンド：12回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護保険についての講義：13病棟</li> <li>②退院調整講義：1病棟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①なし</li> </ul>
摂食・嚥下障害看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定看護師嚥下回診（週1回） （ア）介入件数：138件</li> <li>②病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①摂食機能療法プロジェクトチーム開催の勉強会を通してのスタッフ指導</li> <li>②認定看護師セミナー（院内） （ア）「摂食・嚥下障害のミカタ」</li> <li>③訪問看護ステーション勉強会（院外） （ア）「食事と口腔ケアについて」 「脳からわかる摂食・嚥下障害」～NOBUⅣ～全4回（南病棟、西2階）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食欲不振患者への対応（東病棟2階）</li> <li>②食事中にむせる患者への対応（東病棟8階）</li> <li>③自宅退院する患者・家族への食事形態の指導（南病棟）</li> <li>④開口困難な患者への口腔ケア実施方法（南病棟）</li> <li>⑤摂食訓練時の姿勢と介助方法（南病棟）</li> </ul>

<p>認知症看護</p>	<p>①認知症や高齢により心身の安寧が得られていない患者に対する看護実践を通し、認知症看護の実践力の定着・向上を目指す ②「病院の認知症対応力向上事業」の参画 ③認知症サポートチームシステム構築 ④認知症サポートチームラウンド（週1回）</p>	<p>①認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導 ②勉強会 （ア）病棟勉強会「認知症看護」（西病棟2階） （イ）院内トピックス研修「高齢者の看護（高齢者の心理、高齢者の看護における家族支援）」 （ウ）認定看護師セミナー「認知症とせん妄ケア」 （エ）訪問看護師研修「認知症看護について」 ③「病院の認知症対応力向上事業」における指導病院として、2施設への訪問指導</p>	<p>①年間相談依頼件数 1件 ②認知症サポートチームラウンドの年間相談件数 23件</p>
<p>脳卒中リハビリテーション看護</p>	<p>①音楽療法を活用した離床時間の延長 ②片麻痺患者のポジショニング ③高次脳機能障害患者への看護介入 ④食事調整・嚥下評価 ⑤脳卒中再発予防指導・脳卒中退院指導プロジェクトの運営（1回/月） ⑥摂食機能療法プロジェクト会議への参加（1回/月） ⑦院内デイケアプロジェクト会議への参加（計13回）</p>	<p>①認定看護師セミナー（計2回） （ア）「障害受容過程にある患者の看護」「脳神経系障害の観察」 ②西病棟2階看護師対象の勉強会（計5回）「はじめての脳神経外科看護」 ③NOBUIV（計9回）「脳神経解剖生理の理解・摂食嚥下障害看護」 ④高次脳機能障害について（計2回）西病棟2階Bチーム小集団対象 ⑤東三河脳卒中懇話会「廃用症候群予防への取り組み」 ⑥東三河準看護師の会「脳卒中後のリハビリ看護について」 ⑦愛知県看護研究学会交流セッション「多職種チームで脳卒中再発予防に挑む」 ⑧トピックス研修「高齢者の看護」</p>	<p>①相談件数8件（ポジショニング・急性期看護・食事調整・弾性ストッキングについて）</p>
<p>糖尿病看護</p>	<p>①糖尿病内分泌内科病棟での糖尿病教育入院患者、糖尿病合併症患者に対する看護実践を通し、糖尿病看護の質向上を目指す ②院内インスリンインシデントの分析 ③血糖測定穿刺針の導入後の支援</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内） （ア）「正しい血糖測定の方法を知ろう」講義・演習 ②業務主任会での認定看護師講義 （ア）「採血用穿刺針の取り扱いについて」講義 ③病棟学習会 （ア）「SAP療法について」</p>	<p>①年間相談依頼件数 2件 （ア）サイトローテーション指導 （イ）インスリン自己注射指導</p>
<p>透析看護</p>	<p>①血液浄化センターでの看護実践を通しての現場の質向上 ②腹膜透析患者に対して定期的なチューブ交換の導入 ③透析導入患者に対しての導入前病棟訪問 ④転入患者のシャント診察 ⑤「透析チェックリスト」の改定 ⑥透析開始処置時間の短縮と安全性の向上のための透析開始手順の見直し</p>	<p>①認定看護師セミナー「バスキュラアクセスの観察とケア」 ②血液浄化センタースタッフ対象の学習会 （ア）「バスキュラアクセスの基礎知識」 （イ）「リンのおはなし」</p>	<p>①シャントトラブルに対する相談：3件</p>

<p>皮膚・排泄ケア</p>	<p>①褥瘡ラウンド（週1回：306件）  ②褥瘡フォローアップ回診（月約3回：166件）  ③褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価  ④ストーマ外来での患者のケア（週2回と臨時開催：523件）</p>	<p>①褥瘡勉強会（講義）：5回  (ア)「褥瘡の基礎知識、発生要因」「リスクアセスメント（ブレイデンスケールの採点方法）」  (イ)「褥瘡のアセスメント（DESIGN-Rの採点方法）」  (ウ)「褥瘡の治療（創傷被覆材）」「体圧分散用具の種類と特徴、選択方法」  (エ)「ポジショニング」  (オ)「スキンケア、褥瘡処置方法」  ②褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導  ③認定看護師セミナー：2回  (ア)「医療用粘着テープによる皮膚障害予防のためのケア」  (イ)「一緒に取り組もう!! 医療関連機器による圧迫創傷予防」  ④NST教育カリキュラム：褥瘡ラウンド同行・講義  ⑤業務主任会での認定看護師講義  (ア)「医療用粘着テープによる皮膚障害予防のためのケア」  ⑥ストーマケア勉強会 初級編1.2：2回  ⑦ストーマサイトマーキング勉強会：2回  ⑧ストーマ外来に外科外来看護師が参加し、ストーマケア指導：6回</p>	<p>①年間相談依頼件数（190件）</p>
<p>緩和ケア</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：17件/年）  ②緩和ケアチームカンファレンス（週1回22件/年）  ③緩和ケア外来（毎週火曜日）  ④がん患者指導管理1におけるIC同席（18件/年）  ⑤がん患者指導管理2における心理的支援（8件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「どうかしたい！看取り時の家族ケア」講義  ②緩和ケアリンクナース会（2回）  ③院内ラダー研修  (ア)トピックス研修 がん看護の基礎①「生活のしやすさに関する質問票と看護支援」講義  (イ)緩和1 「痛みのマネジメント」講義  (ウ)緩和2 「緩和ケアにおける臨床倫理」講義  ④訪問看護ステーション対象に「緩和ケアについて」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（5件）  ②その他自部署病棟看護師からの相談対応</p>

<p>がん化学療法看護</p>	<p>①抗がん薬の投与管理と患者指導（西病棟5）          ②抗がん剤の血管外漏出の予防（外来治療センター）          ③がん患者指導管理1におけるIC同席          ④がん患者指導管理2における心理的支援（3件）</p>	<p>①院内研修          (ア)がん看護基礎①：「がん患者の心理と看護支援」          (イ)がん看護基礎②：「がん患者の意思決定支援とIC時の看護師の役割」講義          (ウ)がん看護1：「がん化学療法薬の安全な取り扱いと投与管理」講義          (エ)がん看護2：「悪心の症状マネジメントとセルフケア支援」講義          ②認定看護師セミナー          (ア)「血管外漏出の予防と対処－インシデント事例をもとに具体策を考える－」          ③新規薬剤の投与管理作成（西病棟5階）          ④トレフューザーの特徴と管理上の注意点（4部署）          ⑤抗がん剤の血管外漏出に関する現状調査と注意点についての病棟ラウンド（10部署）          ⑥講演「乳がん化学療法を受ける患者の「気持ちのつらさ」のスクリーニング」：チームで話そう！乳がん治療in東三河 2015年6月27日</p>	<p>①治療後出現する副作用について（西病棟5階）          ②インフューザーポンプ使用時の残量の取り扱い（西病棟6階）          ③抗がん剤時間外オーダーの対応について（西病棟8階）          ④ビダーザの病棟ミキシングについて（西病棟9階）          ⑤抗がん剤治療後の発熱性好中球減少に対する対応（東病棟6階）          ⑥MTX筋肉注射に関連した病棟ミキシングについて（東病棟9階）          ⑦PER+HER+DTXの投与管理と副作用について（東病棟8階）</p>
<p>がん性疼痛看護</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：17件/年）          ②緩和ケアチームカンファレンス（週1回22件/年）          ③緩和ケア外来（毎週火曜日）          ④緩和ケア地域連携クリニカルパスによる退院調整（11件/年）          ⑤がん患者指導管理1におけるIC同席（163件/年）          ⑥がん患者指導管理2における心理的支援（24件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「どうにかしたい！看取り時の家族ケア」講義          ②緩和ケアリンクナース会（2回）          ③院内ラダー研修          (ア)トピックス研修 がん看護の基礎①「生活のしやすさに関する質問票と看護支援」講義          (イ)緩和1 「痛みのマネジメント」講義          (ウ)緩和2 「緩和ケアにおける臨床倫理」講義          ④訪問看護ステーション対象に「がん性疼痛のマネジメント」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（44件）</p>

救急看護	<p>①救急外来における看護実践を通し現場の質向上に努めた</p> <p>②救急トリアージの実践、重症度・緊急度や病態に応じた看護を提供ができるようにトリアージナースの育成を図った</p> <p>③院内BLS・ICLS研修ではインストラクターとして参加し急変時の対応についての知識・技術の普及を図りインストラクターの育成にも努めた</p>	<p>①ラダー講義 演習（救急看護1 災害看護ⅠⅡⅢ）</p> <p>②認定看護師セミナー「生命維持サイクルについて」 「被災地の病院から学ぶこと」 「災害について考える」</p> <p>③看護師再就職チャレンジ研修「心肺蘇生法」講義 演習</p> <p>④新人研修「12誘導心電図」演習</p> <p>⑤院内BLS ICLS講習 インストラクター育成</p> <p>⑥看護学校講義「災害看護」</p> <p>⑦エアーストレッチャーでの避難訓練 演習</p> <p>⑧アクションカード作成と災害訓練の実施について指導と支援を行った</p>	①年間相談依頼件数 3件
新生児集中ケア	<p>①超低出生体重児蘇生時マニュアルを医師と協同作成し運用</p> <p>②新生児医療センターで看護実践を通し、看護の質向上を目指す</p>	<p>①病棟学習会 （ア）痛みの緩和ケア導入に関する学習会 （イ）閉鎖式吸引カテーテル導入に向けた学習会 （ウ）超低出生体重児の急性期看護の学習会</p> <p>②認定看護師セミナー（院内） （ア）危機状況にある患者・家族の支援について</p> <p>③愛知県新生児集中ケア認定看護師会（OYAKO井）講師 （ア）「吸引」学習会</p> <p>④看護学校講義 （ア）新生児看護</p>	①年間相談件数 2件
集中ケア	<p>①呼吸ケアサポートチーム活動（RST） （ア）人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動（ラウンド患者数：年間延べ112名）</p> <p>②西病棟3階（集中治療室）での看護実践を通し、提供する看護の質的向上を目指す</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内） （ア）「病棟で気付きたい急変の徴候！敗血症～早期発見と迅速な対応が患者を救う～」講義</p> <p>②新人研修 （ア）「呼吸と循環のアセスメント」講義</p> <p>①院内クリニカルラダー研修 （ア）「救急看護2」「救急看護3」講義</p> <p>②地域の訪問看護師を対象にした勉強会 （ア）「看護師が行う呼吸リハビリテーション」講義</p>	①年間相談依頼件数（6件） ②RSTラウンドでの年間相談件数（10件）

(資料2) 研修状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フレッシュ	4/7～9	情報研修	52人	・電子カルテの操作方法
	4/14 4/17 4/21 4/24 4/28 4/30 5/7	基礎看護技術研修（7日間）	362人	・感染対策 バイタルサイン測定 ・膀胱留置カテーテル 静脈採血と血糖測定 ・フィジカルアセスメントと酸素療法 上気道吸引の仕方 ・皮下注射と筋肉内注射 点滴静脈内注射の方法 ・看護必要度と栄養評価（NST） 安楽な体位の工夫
	5/12 5/19 5/26 6/2 6/9 6/16 6/23	心電図研修	52人	・12誘導心電図計の正しい電極装着と操作方法
	6/4 7/2 8/6 9/3 10/1 11/5	BLS 研修	52人	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED（自動体外式除細動器）の使用方法
	5/20	新人フォロー振り返り研修	52人	・働き始めて困ったこと、SBARを用いた報告の仕方
	6/30	ME 研修	51人	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	7/8	消防研修	68人	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火器の取扱い
	7/8	入職3ヶ月フォローアップ	51人	・患者情報の整理と業務の組み立て方（グループワーク）
	8/3	医療安全	52人	・新人が起こしやすいインシデントと改善策
	9/11	輸血	52人	・血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	10/23-24	宿泊研修	79人	・多重課題シミュレーション、フィジカルアセスメント、KYT
	11/18	ME 研修	52人	・人工呼吸器の取り扱いと看護
	12/4	急変時対応	52人	・胸骨圧迫の仕方とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用法 挿管チューブ固定方法 ・心電図装着方法と危険波形の理解
	2/8	プリセプターシップ	51人	・一年の振り返りと次年度への課題
	2/8	医療安全	同上	・チームワークを活用した医療安全対策
	レベルI	5/18	救急看護〈1〉	44人
6/29		受け持ち看護師の役割 看護過程	40人	・受け持ち看護師の役割について ・看護過程の基本的な考え方と情報の解釈と問題の明確化
9/14		KYT〈1〉	39人	・医療安全におけるKYT4ラウンド法の活用
10/19		感染管理〈1〉	52人	・標準予防策と感染経路別の予防対策のエビデンス ・針刺し切創および皮膚粘膜汚染事故の実際
11/2 12/7		災害看護〈1〉	93人	・災害の定義と種類トリアージ ・災害拠点病院の役割と災害時の対応策
1/29		がん看護〈1〉	31人	・がん化学療法の看護と抗がん剤の作用機序

レベルⅡ	5/25 11/16	災害看護〈2〉	52人	・災害トリアージの方法と応急処置
	6/1 8/31	救急看護〈2〉	41人	・生命維持の基本とショックおよび急変時の対応
	6/22	リーダーシップ	28人	・リーダーシップに必要な能力と理論
	7/6 10/26	文献検討	40人	・文献検索方法と文献カードを使った文献検討の仕方
	7/31	看護倫理〈1〉	40人	・看護倫理の原則 ・倫理問題に対する事例検討の方法
	8/14	人材育成〈1〉	41人	・人材育成に必要な能力
	9/7	看護実践リフレクション	37人	・体験・経験した看護実践の振り返りと意味づけの明確化
	9/28	日々リーダーの役割	35人	・日々リーダーの役割とマネジメント能力
	1/8	緩和〈1〉	21人	・がん性疼痛のアセスメント ・疼痛緩和に関する薬物療法と看護師の役割
	2/22	KYT〈2〉	17人	・病棟ラウンドによる危険な環境要因の発見 ・KYT 4ラウンド法による危険因子と危険回避対策の検討
3/4	がん看護〈2〉	10人	・がん患者の症状マネジメントと看護ケア	
レベルⅢ	5/29	日直・夜勤リーダーの役割	16人	・日直・夜勤リーダーの役割とトラブル時の対応 ・病院の医療体制と宿日直師長の役割
	6/15	災害看護〈3〉	34人	・災害時のアクションカード作成
	7/13 8/10 11/30 1/18	看護理論①～④	12人	・看護の主要概念の検討と看護観の明確化
	7/27 11/9	SWOT分析①～②	29人	・SWOT分析の手法の理解
	8/24 1/25	研究計画書の理解①～②	12人	・研究計画書の作成方法
	9/4	看護倫理〈2〉	17人	・倫理原則を活用した倫理問題へのアプローチ
	10/2 12/14	人材育成〈2〉①～②	8人	・指導に対する考え方（指導観の明確化） ・基礎看護技術に関する指導案の作成と評価の仕方
	11/24	RCA分析	20人	・RCA分析の実際
	2/1	感染管理〈2〉	24人	・感染症患者の管理体制と感染症曝露後の対応
	2/5	緩和〈2〉	7人	・意思決定のプロセス ・緩和ケアにおける倫理的問題とケアの実際
2/15	救急看護〈3〉	19人	・フィジカルアセスメントと急変対応の演習	
実地指導者	4/27 6/8 10/5 3/14	実地指導者研修	225人	・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人看護職員の現状と育成 ・看護技術の指導方法と評価 コーチングスキル ・メンタルサポート支援
トピックス	6/5 7/3	がん看護の基礎①、②	36人	・がん患者の心理と日常生活への看護支援 ・インフォームドコンセント時における看護師の役割とがん治療における意思決定支援
	12/21	12/21 高齢者の看護	27人	・高齢者特有の疾患をふまえた関わり方 ・高齢者の心理と家族支援

各レベル	コマ数	延べ人数
フレッシュ	20 コマ	1,078人
レベルⅠ	6 コマ	299人
レベルⅡ	12 コマ	362人
レベルⅢ	17 コマ	198人
実地指導者	4 コマ	225人
トピックス	3 コマ	63人
総合計	60 コマ	2,225人

## 事務局

### 1. 概要

本年度は、地域の中核病院として急性期医療の充実に取組み、東三河では初の非血縁者「間」骨髄採取施設及び移植診療科として、日本骨髄バンクより認定されたほか、患者の早期社会復帰をサポートするため、ダヴィンチ等を活用した内視鏡手術を拡大するなど、高度専門医療を推進した。また、医療スタッフの確保・定着を図るため、給与面での処遇改善とともに、院内保育所の保育サービスの拡大並びに看護職員育児資金貸付金制度の拡充により仕事と育児の両立を支援し、子育て世代職員の離職防止に努めるなど、診療体制の充実に努めた。さらには、これまでの取組みが評価され、平成28年度診療報酬改定において、厚生労働省より、大学病院本院に準じた診療機能を有する病院として、D P C医療機関群Ⅱ群病院（全国で140病院）の指定を受けた。

主な事業としては、がん診療連携拠点病院として、放射線治療体制の充実・強化のため、平成28年度の開設に向けた放射線治療施設等の整備を進めた。また、地域医療支援病院として、地域の医療機関と診療情報の連携機能を強化するため、平成29年度の稼働を目指し、次期病院総合情報システムの構築に着手した。

（事務局長 黒釜 直樹）

## 2. 活動報告

### (1) 収益的収入及び支出

区分		平成 27 年度			平成 26 年度			平成 25 年度				
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)		
収益的 収入	医業 収益	入院収益	16,057,961,457	63.7	58.5	15,684,645,427	65.3	59.2	15,391,150,508	65.8	61.8	
		外来収益	8,034,963,994	31.8	29.3	7,285,520,374	30.3	27.5	6,900,392,401	29.5	27.7	
		その他医業収益	1,127,171,691	4.5	4.1	1,051,475,208	4.4	4.0	1,091,894,432	4.7	4.4	
		小計	25,220,097,142	100.0	91.9	24,021,641,009	100.0	90.7	23,383,437,341	100.0	93.9	
	医業外 収益	受取利息	3,300,163	0.0	0.0	4,482,915	0.0	0.0	5,084,794	0.0	0.0	
		他会計負担金	1,097,885,881	4.3	4.0	1,189,897,907	4.9	4.5	1,230,044,468	5.3	4.9	
		国庫補助金	19,398,000	0.1	0.1	22,448,000	0.1	0.1	28,091,000	0.1	0.1	
		県補助金	44,604,000	0.2	0.2	40,830,000	0.2	0.2	41,480,000	0.2	0.2	
		長期前受金戻入	668,203,777	2.6	2.4	752,884,253	3.1	2.8	0	-	-	
		その他医業外収益	219,705,882	0.9	0.8	253,790,619	1.1	1.0	230,349,946	1.0	0.9	
		小計	2,053,097,703	8.1	7.5	2,264,333,694	9.4	8.6	1,535,050,208	6.6	6.1	
	特別 利益	長期前受金戻入	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	
		小計	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	
	計		27,454,720,011	108.9	100.0	26,478,136,790	110.2	100.0	24,918,487,549	106.6	100.0	
	収益的 支出	医業 費用	給与費	11,346,289,270	45.0	43.8	10,770,894,417	44.8	35.6	10,858,435,576	46.4	44.6
			材料費	7,958,684,013	31.6	30.7	6,996,697,339	29.1	23.1	6,879,832,846	29.4	28.3
			経費	3,438,731,467	13.6	13.3	3,517,946,020	14.7	11.6	3,768,428,320	16.1	15.5
			減価償却費	1,683,773,810	6.7	6.5	1,928,125,102	8.0	6.4	1,433,275,474	6.1	5.9
			資産減耗費	139,893,374	0.5	0.6	196,502,593	0.8	0.7	77,405,373	0.4	0.3
研究研修費			104,626,103	0.4	0.4	92,339,231	0.4	0.3	84,960,727	0.4	0.3	
小計			24,671,998,037	97.8	95.3	23,502,504,702	97.8	77.7	23,102,338,316	98.8	94.9	
医業外 費用		支払利息	548,797,661	2.2	2.1	593,405,695	2.5	2.0	636,620,789	2.7	2.6	
		繰延資産償却	18,784,307	0.1	0.1	191,189,139	0.8	0.6	248,839,867	1.1	1.0	
		保育費	35,009,287	0.1	0.1	44,825,623	0.2	0.2	45,667,360	0.2	0.2	
		長期前払消費税償却	33,919,418	0.1	0.1	46,761,262	0.2	0.2	0	-	-	
		貸倒引当金繰入額	22,751,900	0.1	0.1	8,529,666	0.0	0.0	0	-	-	
		雑損失	580,174,888	2.3	2.2	375,558,105	1.5	1.2	317,708,653	1.3	1.3	
小計		1,239,437,461	4.9	4.7	1,260,269,490	5.2	4.2	1,248,836,669	5.3	5.1		
特別 損失		引当金繰入額	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	
		小計	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	
計		25,911,435,498	102.7	100.0	30,229,299,842	125.8	100.0	24,351,174,985	104.1	100.0		
当年度純利益(△純損失)		1,543,284,513	-	-	△3,751,163,052	-	-	567,312,564	-	-		
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,022,352,525	-	-	△7,517,133,941	-	-	△8,084,446,505	-	-		
その他未処理欠損金変動額		0	-	-	9,442,723,599	-	-	0	-	-		
当年度未処分利益剰余金 (△未処理欠損金)		2,565,637,038	-	-	△1,825,573,394	-	-	△7,517,133,941	-	-		

## (2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		平成 27 年 度		
		金 額 (円)	前年度比(%)	構成比(%)
入 院 収 益	投 薬 収 入	126,228,146	100.2	0.8
	注 射 収 入	397,986,112	127.3	2.5
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,333,327,331	102.2	27.0
	検 査 収 入	220,016,272	104.4	1.4
	放 射 線 収 入	47,749,324	102.5	0.3
	入 院 料	10,195,353,341	101.5	63.5
	給 食 収 入	376,064,600	99.5	2.3
	そ の 他	361,236,331	109.2	2.2
	計	16,057,961,457	102.4	100.0
外 来 収 益	初 診 料	166,899,536	95.0	2.1
	再 診 料	806,251,169	102.7	10.0
	投 薬 収 入	976,843,582	187.0	12.2
	注 射 収 入	2,702,509,635	111.6	33.6
	処 置 及 び 手 術 収 入	370,643,641	87.1	4.6
	検 査 収 入	1,747,360,326	103.1	21.8
	放 射 線 収 入	1,037,622,641	100.6	12.9
	そ の 他	226,833,464	98.8	2.8
	計	8,034,963,994	110.3	100.0

## (3) 資本の収入及び支出

(円)

区 分		平成27年度	増 減	平成26年度	増 減	平成25年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	2,062,000,000	2,062,000,000	-	△90,000,000	90,000,000	△150,000,000
	他 会 計 出 資 金	-	-	-	△88,028,375	88,028,375	△11,971,625
	他 会 計 負 担 金	916,501,160	△43,757,835	960,258,995	△26,481,755	986,740,750	41,055,801
	投 資 回 収 金	2,687,500	△1,342,634	4,030,134	4,006,134	24,000	△1,476,000
	県 補 助 金	-	△4,132,000	4,132,000	△262,197,000	266,329,000	266,329,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	72,736,110	72,736,110	-	-	-	-
	損益勘定留保資金	1,345,645,402	△249,971,504	1,595,616,906	△326,242,807	1,921,859,713	530,769,640
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	8,538,121	5,934,563	2,603,558	△345,395	2,948,953	792,721
	計	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	2,151,553,600	2,050,513,600	101,040,000	△325,279,350	426,319,350	90,321,900
	資 産 購 入 費	796,221,586	△114,854,816	911,076,402	△405,324,705	1,316,401,107	492,939,967
	長 期 貸 付 金	29,551,400	7,573,400	21,978,000	8,007,000	13,971,000	534,000
	企 業 債 償 還 金	1,430,781,707	△101,765,484	1,532,547,191	△66,692,143	1,599,239,334	91,703,670
	計	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537

## (4) 貸借対照表 (平成28年3月31日)

## 資 産 の 部

(単位：円)

## 1 固定資産

## (1) 有形固定資産

イ 土 地		6,385,451,623	
ロ 建 物	16,755,682,312		
減価償却累計額	<u>△ 7,173,870,138</u>	9,581,812,174	
ハ 附 属 設 備	14,504,270,263		
減価償却累計額	<u>△12,335,837,325</u>	2,168,432,938	
ニ 構 築 物	1,591,579,450		
減価償却累計額	<u>△ 739,291,785</u>	852,287,665	
ホ 器 械 備 品	9,049,135,231		
減価償却累計額	<u>△ 6,016,062,640</u>	3,033,072,591	
ヘ 車 両	25,864,540		
減価償却累計額	<u>△ 22,097,204</u>	3,767,336	
ト 放射線同位元素	12,747,000		
減価償却累計額	<u>△ 0</u>	12,747,000	
チ リ ー ス 資 産	148,673,486		
減価償却累計額	<u>△ 56,685,454</u>	91,988,032	
リ 建 設 仮 勘 定		<u>1,981,509,259</u>	
有形固定資産合計			24,111,068,618

## (2) 無形固定資産

イ 電 話 加 入 権		7,041,831	
ロ ソフトウェア		22,980,000	
ハ ソフトウェア仮勘定		45,590,000	
ニ その他無形固定資産		<u>5,226,384</u>	
無形固定資産合計			80,838,215

## (3) 投資その他の資産

イ 長 期 貸 付 金	58,342,400		
貸倒引当金	<u>△ 32,694,400</u>	25,648,000	
ロ 出 資 金		500,000	
ハ 長期前払消費税		1,782,827	
ニ 破産更生債権等	93,448,257		
貸倒引当金	<u>△ 93,448,257</u>	<u>0</u>	
投資その他の資産合計			<u>27,930,827</u>

固定資産合計			<u>24,219,837,660</u>
--------	--	--	-----------------------

## 2 流動資産

(1) 現金預金		6,675,176,526	
(2) 未収金	4,521,814,829		
貸倒引当金	<u>△ 19,346,198</u>	4,502,468,631	
(3) 貯蔵品		37,214,705	
(4) 前払金		<u>1,613,835,161</u>	
流動資産合計			<u>12,828,695,023</u>
資産合計			<u>37,048,532,683</u>

## 負債の部

### 3 固定負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>15,356,825,354</u>		
企業債合計		15,356,825,354	
(2) リース債務		65,366,788	
(3) 引当金			
イ 退職給付引当金	<u>4,337,269,342</u>		
引当金合計		<u>4,337,269,342</u>	
固定負債合計			19,759,461,484

### 4 流動負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>1,476,241,208</u>		
企業債合計		1,476,241,208	
(2) リース債務		30,201,468	
(3) 引当金			
イ 賞与引当金	505,203,918		
ロ 法定福利費引当金	<u>89,008,883</u>		
引当金合計		594,212,801	
(4) 未払金		3,323,855,462	
(5) 未払消費税及び地方消費税		4,789,000	
(6) 預り金		<u>115,262,655</u>	
流動負債合計			5,544,562,594

5 繰延収益

(1) 長期前受金

イ 受贈財産評価額	58,941,445		
収益化累計額	<u>△ 51,117,044</u>	7,824,401	
ロ 補助金	1,236,209,651		
収益化累計額	<u>△ 754,660,474</u>	481,549,177	
ハ 負担金	12,869,925,423		
収益化累計額	<u>△11,496,921,533</u>	1,373,003,890	
ニ 寄附金	3,000,000		
収益化累計額	<u>△ 2,850,000</u>	150,000	
長期前受金合計			<u>1,862,527,468</u>
繰延収益合計			<u>1,862,527,468</u>
負債合計			<u>27,166,551,546</u>

資 本 の 部

6 資本金			6,973,942,341
7 剰余金			
(1) 資本剰余金			
イ 受贈財産評価額	246,164,805		
ロ 負担金	<u>96,236,953</u>		
資本剰余金合計		342,401,758	
(2) 利益剰余金			
イ 当年度未処分利益剰余金	<u>2,565,637,038</u>		
利益剰余金合計		<u>2,565,637,038</u>	
剰余金合計			<u>2,908,038,796</u>
資本合計			<u>9,881,981,137</u>
負債資本合計			<u>37,048,532,683</u>

## (5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	平成27年度	平成26年度	平成25年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	12.7	13.3	13.0
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	87.9	88.0	89.1
3. 入院患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	62,064	60,677	57,974
4. 外来患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	16,577	15,042	14,242
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	4.5	2.9	3.5
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	134.8	131.7	128.6
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	21.6	22.0	20.1
8. 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	84.9	82.7	82.8
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	369,887	394,117	453,972
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	45.0	44.8	46.4
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	231.4	250.6	386.4
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	4.4	△ 10.8	1.6

## ドクタークラーク

### 1. 入院証明書作成補助業務（担当者 8人）

入院証明書の作成補助業務については、委託業者からドクタークラークへ移行が平成26年度で完了し、毎月600件以上の作成補助をしている。

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院証明書	636	645	715	726	651	665	741	664	641	624	720	750	8,178

### 2. その他書類作成補助業務（担当者 5人）

平成27年7月より難病医療制度の対象疾病（指定難病）が110疾病から306疾病に拡大された。これに伴い、診断書（臨床調査個人票）の書式が変更したため、書類作成に時間を要した。

新規業務は、結核定期病状調査報告書の作成補助を開始した。

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特定難病（新規・更新） 臨床調査個人票	22	294	852	172	71	77	28	23	20	18	19	18	1,614
介護保険主治医意見書	141	117	136	132	140	125	128	113	133	168	136	140	1,609
自賠責保険診断書	169	122	170	158	143	129	162	165	130	170	137	155	1,810
傷病手当金請求書	95	107	118	132	108	114	144	116	124	115	101	141	1,415
労災休業給付申請書	32	28	30	11	29	32	25	39	34	34	41	29	364
生活保護医療要否意見書	65	27	117	79	90	59	76	78	74	77	81	69	892
B型C型肝炎患者医療 給付事業受給者票認定 に係わる診断書	21	17	20	13	14	20	40	16	25	27	24	21	258
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出産一時金支給申請書	4	2	2	1	4	2	4	2	0	2	2	2	27
出産手当金支給申請書	2	3	6	6	2	4	5	3	7	7	7	4	56
訪問看護指示書	26	20	21	41	27	31	24	26	20	24	44	25	329
障害認定医師意見書	10	6	8	7	15	11	13	6	7	16	2	4	105
自立支援	10	9	3	7	6	5	1	8	2	3	6	6	66
結核定期病状調査報告書	0	9	19	0	10	9	7	11	15	0	16	1	97
合計	597	761	1,502	759	659	618	657	606	591	661	616	615	8,642

### 3. 他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 3人）

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転院・紹介用	193	174	202	176	180	175	226	183	223	194	192	230	2,348
学会・研究用	18	45	8	20	9	17	18	24	29	50	20	21	279
合計	211	219	210	196	189	192	244	207	252	244	212	251	2,627

#### 4. 薬品別市販後調査票作成業務 (担当者 2人)

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調査票記入数	20	18	27	41	27	37	27	20	36	27	36	38	354
総提出数	27	17	34	41	23	27	25	26	23	33	42	43	361

#### 5. 症例登録・抽出業務 (担当者 5人 ※3・4担当者兼務)

(件)

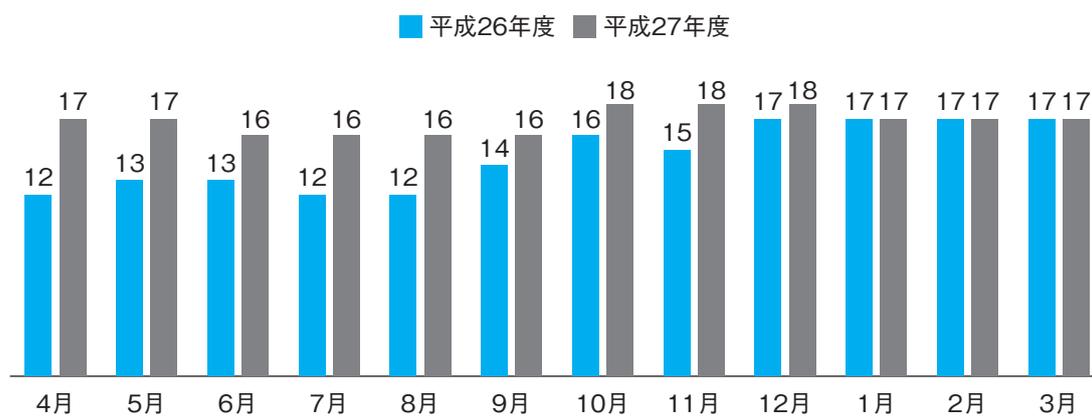
業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DWHを使用したデータ抽出・作成	4	9	10	10	10	7	19	10	9	14	9	9	120
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	84	0	7	0	0	0	78	0	4	0	0	26	199
血液学会疾患登録(小児科)	6	4	4	6	2	2	0	0	0	3	0	2	29
NCD症例登録(一般外科)	125	119	147	114	172	130	151	153	129	112	135	126	1,613
NCD症例登録(心臓外科・血管外科)	2	15	1	2	7	0	1	31	8	9	0	6	82
NCD症例登録(脳神経外科)	26	37	29	47	23	36	20	27	40	45	29	54	413
NCD症例登録(循環器内科)	24	21	15	26	21	13	19	22	19	23	13	17	233
NCD症例登録(移植外科)	3	0	0	21	0	4	18	1	0	12	6	0	65
産科データ登録	0	84	82	103	86	97	176	167	0	75	73	83	1,026
合計	274	289	295	329	321	289	482	411	209	293	265	323	3,780

#### 6. 各診療科の患者データベース作成業務 (担当者 5人 ※3・4担当者兼務)

歯科口腔外科、リウマチ科、肛門外科、脊椎外科、呼吸器外科・心臓外科・血管外科、呼吸器内科、小児科(新生児)、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、放射線科 計13診療科

## 7. ドクタークラーク従事者数

平成26年度に比べ、従事者数は17人前後に定着しており、10月から1人産休復帰した。



## 8. 院外研修実績

医師事務作業補助者コース（日本病院会）に5人受講

「NPO 法人日本医師事務作業補助研究会」に参加